

防クヘキ相當ノ手續ヲ爲シ他ノ港又ハ他ノ停車場ニ於テ其ノ處置ヲ爲スコト

七 船舶ノ寄港シタル地又ハ汽車ノ停車シタル地ノ地方廳ニ關係事項ヲ急報スルコト

第十九條 船舶乗組人ノ上陸後及積荷ノ陸揚後ニ於テ船舶ニ「ペスト」病汚染ノ事實アリタルコトヲ發見シタル場合ハ上陸人員ノ行先地及貨物輸送先ノ地方廳ニ對シ上陸人員ノ宿所姓名貨物ノ數量種類、記號(精確ニ調査シ相違ナキ様注意ヲ要ス)取扱店、荷主及發送月日等ヲ急報スヘシ

當該船舶ノ出港後ニ在リテハ尙其ノ行先地ノ地方廳ニ其ノ事由ヲ電報スヘシ
海港檢疫法第一條ノ船舶又ハ汽車ニ關シテモ亦本條ニ準ス但シ船舶ノ行先地臺灣ナルトキハ同總督府ニ電報スヘシ

第二十條 第十八條第七又ハ第十九條ノ通報ヲ受ケタル地方廳又ハ船舶汽車ニ病汚染ノ事實アリタルコトヲ發見シタル地方廳ニ於テハ病汚染ノ疑アル期間上陸人員及貨物運搬人夫其ノ他當該船舶汽車ニ關係アル向等ニ對シ其ノ健康狀態ヲ注意スヘシ

第二十一條 病汚染セル家屋、倉庫、船舶、汽車内等ニ在リタル貨物ニシテ既ニ他ニ移シアルモノハ一時搬出輸送ヲ停止シ其間積入倉庫及關係アル家屋ニ對シ殺鼠劑、捕鼠器ノ配置其ノ他適當ノ方法ニ依リ鼠ノ驅除ヲ嚴行シ且ツ驅除シタル鼠其ノ他必要ト認ムル材料ニ就テ細菌検査ヲ行フヘシ

前項末段ノ検査ニ於テ「ペスト」菌ヲ發見シタルトキ又ハ調査ノ結果病汚染ノ形蹟アリト認めタルトキハ當該貨物、同積入倉庫及ヒ當該貨物ノ運搬用ニ供シタル船舶貨車等ニ對シ消毒方法ヲ施行セシムヘシ

第二十二條 病汚染ノ疑アル貨物ト同一ノ倉庫内ニ在リ又ハ同一ノ船舶貨車ニテ運搬セラレタル他ノ貨物ニ對シテハ當該倉庫、船舶、貨車内ニ於テ有菌鼠ヲ發見シタル等ニ依リ病汚染ノ疑アリト認めタル場合ハ消毒方法ヲ施行セシムヘシ

第二十三條 「ペスト」發生ノ狀況豫防措置ノ大要ハ其ノ都度又繼續施行セル豫防事務ノ成績ハ毎月別紙雛形ニ準シ之ヲ内務省ニ報告スヘシ

(甲號)

號「ベスト」患者報告

發見ノ方法	診	所住
	病發	業職
住家及周圍ノ狀況有菌鼠又ハ疑ハシキ鼠ノ有無	月	日
	見發	名姓
發見ノ方法	月	日
	定確	齡年
發見ノ方法	月	日
	月	日

第十八輯 傳染病

發病前ノ健康狀態	病毒ノ系統傳染ノ原因機會等ノ認ムヘキモノ	發見當時ノ症候大要細菌検査ノ成績	發病地域ニ對スル豫防措置

(注意) 本表ハ患者發生ノ順序ニ依リ番號ヲ附スルモノトス
 轉歸月日ハ其都度報告ヲ要ス、死後ノ發見ニ係ルトキハ本報告中ニ死亡月日ヲ附記スヘシ

(乙 號)

號有菌「ベスト」生鼠報告			
發見ノ場所	月 日 確定		
發見	月 日 發見方法		
發見場所附近ノ狀況			
病毒系統ト認ムヘキモ			

(注意) 本表ハ有菌鼠發見ノ順序ニ依リ番號ヲ附スルモノトス
 同一所ニ於テ數頭ヲ發見シタルトキハ其頭數場所ヲ明記シ且ツ號數ヲ自何號至何號ト記スヘシ

(丙 號)

「ベスト」遮断區域内豫防事務成績	
區域ノ位置	一戸人口數
鼠の消毒方法ニ従事シタル人員	倉庫
同上開始日	
同上終了日	

第十八輯 傳染病

累	計								

四、檢診成績

市區町村名	檢診ヲ行ヒタル		檢診ニ依リ發見シタル
	戸數	人口	
累計			

除鼠の消毒方法清潔方施行手續

- 一 除鼠の消毒方法清潔方法ヲ施行セントスル區域内ニハ先ツ二日以上日々殺鼠劑、捕鼠器等ノ除鼠裝置ヲ配置シ日々其ノ成績ヲ檢査スルコト
- 二 前項ノ除鼠裝置ハ天井裏、床下、流シ下、棚上等常ニ鼠ノ交通スル場所ニ配所スヘク其個數ハ家屋ノ大小ニ依リ一定シ難シト雖モ殺鼠劑ハ一戸平均十個以上トシ倉庫物置等ニ在リテハ一坪ニ付約一個ノ割合トナスコト
- 三 除鼠の消毒方法ノ施行ニ從事セシムル人員ハ人夫五名乃至十名ヲ以テ一組トナシ警察官吏及市町村吏員ヲシテ之ヲ監督セシメ施行區域ノ廣狹ニ依リ若干組ヲ設置セシムルコト但シ毎組ノ人夫中ニハ可成大工及屋根職ノ心得アル者各一名ヲ加フルコト
- 四 前號ノ人夫ヲシテ除鼠の消毒方法ノ施行ニ從事セシムル場合ニハ其ノ衣服ヲ相當ノ消毒衣ニ著替シメ又足袋、帽ヲ用キシムルヲ要ス必要アルトキハ呼吸器若ハ棉花ヲ以テ鼻口ヲ被ハシムル等ノ方法ニ依リ塵埃吸入ノ豫防ニ注意セシムヘシ、區域外ニ出ツル場合ニハ其ノ都度相

當消毒沐浴ノ上原服ニ更メシムルコト

五 除鼠の消毒方法施行區域大ナル場合ハ毎日ノ施行小區域ヲ更ニ亞鉛板堀其ノ他鼠ノ交通ヲ杜絶スル装置ニ依リ之ヲ區劃スルコト

六 除鼠方法施行ノ際ハ左ノ各號ニ注意スルコト

(イ) 天井ノ一部若ハ全部ヲ取外シ鼠及其ノ巢ヲ搜索シ掃除ヲ行フコト

(ロ) 床板及臺所流シハ其ノ一部ヲ取外シ鼠ノ搜索ヲ行ヒ孔穴アルトキハ之ヲ發掘スルコト但シ土地ニ密著セル床板及臺所流シハ其ノ全部ヲ剝離スルコト

(ハ) 羽目板、下見板等ハ其ノ全部若ハ一部ヲ、壁ハ必要アルトキハ其ノ一部ヲ剝離シ間隙内ニ於ケル鼠ノ搜索ヲ行フコト

(ニ) 屋根及屋根裏ハ間隙ノ有無ヲ檢シ孔穴アルトキハ瓦屋根ニ在リテハ其ノ全部若ハ一部ヲ、葺屋根ニ在リテハ其ノ全部ヲ剝離シ鼠及其ノ巢ヲ搜索スルコト

(ホ) 倉庫物置等ニ在リテハ貨物其他ノ物品ヲ搬出シ若ハ相當ノ方法ヲ施シタル後特ニ其ノ地盤ヲ精査シ孔アルトキハ之ヲ發掘シ鼠ノ搜索ヲ行フコト

(ヘ) 密閉シ得ヘキ倉庫類ニ在リテハ可成「フオルムアルデヒード」又ハ亞硫酸瓦斯ヲ用ヒ鼠ヲ燻殺スルコト

(ト) 溝渠ハ之ヲ精査シ孔穴アルトキハ之ヲ發掘シテ搜索ヲ行フコト

七、消毒方法施行ノ要項左ノ如シ

(イ) 屋根裏、天井板、羽目板類ハ石炭酸水又ハ昇汞水等ノ消毒藥液ヲ以テ處置スルコト

(ロ) 戸、障子、押入レ、柵類ハ消毒藥液ヲ以テ拭淨スルコト

(ハ) 疊、蓆、敷物類ハ消毒藥液ヲ以テ拭淨シ若ハ之ヲ撒布シタル後日光ニ曝露スルコト

(ニ) 常川ノ衣類、寢具ハ蒸氣消毒又ハ煮沸消毒ニ附シ常用ノ什器ハ其ノ品類ニ應シ熱氣消毒藥液消毒又ハ日光消毒ニ附スルコト但シ箆筥、長持其ノ他一定ノ容器内ニ藏セル衣服、什器類ニシテ病毒汚染ノ疑ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

(ホ) 床下地盤、臺所、流シ下、下水、溝渠、便所、芥溜其ノ他不潔ナル場所ハ石灰乳ヲ以テ

消毒スルコト

- (ヘ) 井戸、井戸流シハ病毒汚染ノ疑アルトキハ石灰乳ヲ以テ消毒スルコト
- (ト) 患者ノ排泄物又ハ排泄物ヲ以テ汚染シタル物品ハ之ヲ焼却若ハ熱氣消毒ニ附シ塵芥ハ必ス之ヲ焼却スルコト
- (チ) 包装シタル貨物ハ包装ノ儘蒸氣消毒ニ付シ若ハ其外表ヲ消毒藥液ヲ以テ處置シ穀類及其ノ他ノ食料品ハ其ノ外包ヲ熱氣消毒又ハ焼却ニ付スルコト
- (リ) 前號ノ消毒方法ヲ施行シ能ハサルモノハ反覆日光ニ曝スルコト
- (ヌ) 包装ノ内部ニ至ル迄病毒汚染ノ疑アル貨物ハ其ノ包装ヲ解キ相當ノ消毒方法ヲ施行スルコト
- (ル) 煉瓦倉庫、土藏、洋風建物等ノ密閉シ得ヘキ室内ハ「フオルムアルデヒード」ヲ以テ消毒スルモ妨ナキコト
- (ヲ) 船舶、鐵道客車、貨車等ニ消毒方法ヲ施行セントスルトキハ前各號ニ準據スルコト

八、清潔方法施行ノ要項左ノ如シ

- (イ) 第六ニ據リ鼠ノ驅除ヲ行ヒタル後掃除ヲ行フコト
- (ロ) 斃鼠ノ在リタル場所其ノ他病毒汚染ノ疑アル不潔ナル場所ハ消毒方法ヲ行ヒタル後掃除ヲ行フコト
- (ハ) 汚水停滞ノ場所ニ對シテハ溝渠ヲ浚渫スルコト
- (ニ) 屋根裏、壁床下、臺所流シ、溝渠等ニ鼠ノ交通棲息ノ虞アル孔穴アルトキハ之ヲ填塞シ必要ノ場合ニハ修理改造ヲ爲スコト
- (ホ) 塵芥ハ之ヲ焼却スルコト

汽車乗客無賃送達ノ件

汽車檢疫ノ件ニ付別紙寫之通り鐵道局一般並各私設鐵道會社へ通達候旨遞信省ヨリ通知有之候間此段及通牒候也
明治三十年七月衛發 第二四七號通牒
 別紙汽車中ニ傳染病患者又ハ死者アリタルカ爲メ一時乗客ヲ下車セ

シメ又ハ該車室ノ出入ヲ止メ他ノ停車場マテ乗越サシメタルトキハ其乘客及手荷物ハ檢疫掛員ノ證明ニ依リ無償ニテ乗車切符面ノ停車場へ送達スヘシ 明治三十年七月鐵道局へ
逕信大臣達第七號

汽車中ニ傳染病患者又ハ死者アリタルカ爲メ一時乘客ヲ下車セシメ又ハ該車室ノ出入ヲ止メ他ノ停車場マテ乗越サシメタル時ハ其乘客及手荷物ハ檢疫掛員ノ證明ニ依リ無償ニテ乗車切符面ノ停車場ニ送達相成度此段及通達候也 明治三十年七月各鐵道株式會社社長宛
逕信省鐵道局長心得鐵甲第一六五七號

旅行中ノ外國公使又ハ其家族雇人ニシテ傳染病

患者ノ發生シタル場合ニ於ケル處置方

旅行中ノ外國公使又ハ其家族雇人ニシテ傳染病ニ罹リ若クハ其旅館内ニ傳染病患者ノ發生シタル場合ニ於ケル處置方ニ付キ朽木縣ヨリ照會有之經伺之上別紙ノ通り回答致シ置キ候御了知相成度爲念此段及通牒候也 明治三十四年五月衛
甲第六號ノ内通牒 (別紙)外國公使又ハ其家族ニ對スル傳染病豫防法適用方ニ付疑義

相生シ候條左ノ各項ニ對シ何分ノ御回報相煩シ度此段及御照會候也 別紙明治三十三年十一月警第七
四三四號朽木縣知事照會

- 一 旅行中ノ外國公使又ハ其家族雇人ニシテ傳染病ニ感染シタル場合ニ於テ豫防必要ト認ムルトキハ傳染病院又ハ隔離病舎ニ收容スルコトヲ得ルヤ否ヤ
 - 二 或場所ニ投宿中傳染病ニ罹リ又ハ同宿ノ旅客ニシテ該病ニ感染シタル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ豫防法第八條ニ依リ外國公使又ハ其家族雇人ヲモ交通ヲ遮斷シ差支ナキヤ否ヤ
 - 三 第一項ノ場合ニ於テ收容スルコトヲ得ス第二項ノ場合ニ於テ交通遮斷ヲ執行スルコト能ハストスルモ單ニ豫防的消毒ノ如キハ其意ニ反シテ其項ヲ施行シ差支ナキヤ否ヤ
- 客年十一月十四日警第七四三四號ヲ以テ旅行中ノ外國公使又ハ其ノ家族雇人ニシテ傳染病ニ罹リ若クハ其旅館内ニ傳染病患者ヲ發生シタル場合ニ於ケル處置方ニ付御照會ノ趣了承若ハ國際公法上外國公使ト雖モ衛生及公安警察ノ爲メ設ケタル法令ヲ遵守スヘキ管ノモノニハ有之候得共其身體上及執務上ノ完全ナル自由ハ又最モ尊重ヲ要スル義ニ有之候間豫防方法ノ施行上協議相調ヒ難キ場合ニハ一應本局へ内議ノ上措置相成候様致度經伺ノ上此段及御回答候

也 明治三十四年五月
衛甲第六號回答

交通遮斷中ノ軍人又ハ兵役義務者ニシテ充員

召集令狀ヲ受ケタル場合ノ處置方ノ件

去月五日付號外ヲ以テ警部長ヨリ交通遮斷中ニ在ル軍人又ハ兵役義務者ニシテ充員召集令狀ヲ受ケタル場合ニ對スル處置方ニ付御照會ノ趣了承右ハ御見解ノ通り傳染病豫防法ニ依リ一旦交通遮斷ヲ命シタル以上ハ其日時間ハ縱ヒ充員召集令アルモ外出セシムヘキモノニアラスト存候經何ノ上此段及回答候也 明治三十四年十一月衛甲 衛甲鹿兒島縣知事宛 追テ右ハ陸軍省ト協議濟ニ候條御了知相成度候

汽車檢疫心得ノ件

從來汽車檢疫施行患者死者アリタル車室ノ消毒ニ付テハ吐瀉物ハ場合ニヨリ機關車ノ火竈内ニ投シ

之ヲ燒却致居候處右ハ列車運轉ノ上ニ影響ヲ及ホスヤモ難計候條自今吐瀉物ハ別ニ相當裝置ノ下ニ之ヲ燒却候様措置セラレ度依命此段及通牒候也 明治三十五年十月衛甲第六三號。通牒 鳥取、島根、宮崎、高知、沖繩縣ヲ除ク

健全證書ノ手数料ニ關スル件

健全證書交付ノ手数料徴收ノ義ニ付京都府知事ノ照會ニ對シ左ノ通回答相成候條御參考迄此段及通牒候也 明治三十五年七月(京都府、群馬、栃木、山梨、滋賀、奈良) 本年內務省令第九號健全證書交付手續第三條ノ手数料ハ申請アリタルトキハ證書交付ノ有無ニ不拘徴收スヘキモノト思考候處實際區々ニ相成居哉ニ聞及ヒ候ニ付爲念此段及御問合候也 明治三十五年六月 容月三日寅發衛甲第一四號ヲ以テ健全證書ノ手数料ニ關スル御照會ノ趣了承右ハ該證書ヲ交付セサル場合ニハ手数料徴收可相成筋ニ無之ト被存候條此段及御回答候也 明治三十五年七月 衛甲第四七號回答

顆粒性結膜炎豫防方法ニ關スル件

第十八輯 傳染病

今般顆粒性結膜炎ニ關シ香川縣ヨリ問合有之左ノ通回答致候條御參考迄及御通知候也明治三十六年五月
號通 本縣下ニ於テハ顆粒性結膜炎患者多數ニシテ地方病ノ狀況ヲ呈シ小學校生徒ニシテ百人ニ對シ
三十名以上ノ比例ヲ示シ之カ豫防ニ努メシムルト雖モ未タ減退ノ模様顯レス且ツ壯丁者ニシテ徵兵
検査ノ結果同病ニ罹リ居ルモノ百人ニ對シ三十二人九九ノ比例トナリ勢ヒ乙種以下ノ體格倭小ナル
無病者ヲ徵兵ニ充ツルノ止ヲ得サルヨリ延ヒテ軍隊ノ強否ニ影響ヲ及ホシ其ノ他一般ノ該患者數ハ
十二萬六千六百六人ノ多キヲ示シ實ニ驚クヘキノ外ナシ而シテ同病ハ比較的疾患ノ急劇ナラサルヲ以
テ左ノミ意ニ介セス不知不識ノ間ニ傳染蔓延スルモノニシテ一朝同病ニ罹ル爲メ或ハ視力ヲ障害シ
或ハ盲者トナルアリ國民ノ保健上忽諸ニ付ス可ラサルモノト信シ注意方ノ告諭ヲ發シ又々郡市長へ
訓令シテ豫防計劃ニ勉メシメタルモ著シキ效ヲ奏セス益増進ノ模様ニ有之將來生産的事業ノ阻碍ヲ
來スハ免レザル儀ニシテ洵ニ寒心スヘキ次第ナリ依テ傳染病豫防法第一條第二項ニ基キ同法ノ活動
ヲ求ムルノ外良策無之ト思考スルモ元來同病ハ慢性傳染病ナルヲ以テ聊カ穩當ナラサル哉ニ思料シ
且ツ補助ニ關シテハ屢々御垂示ノ次第モ有之候得共去リトテ一日モ之レカ防遏ヲ忽ニスヘカラサル

儀ニ付傳染病ニ準シ相當縣費ノ補助ヲ與ヘ以テ豫防撲滅ヲ企圖致度候將亦々他ニ好案モ有之候得ハ
御指示相成度此段及御照會候也明治三十六年五月 本月二日衛第五七號ヲ以テ御照會ノ趣了承顆粒性結
膜炎ノ豫防ニ關シテハ先般來夫々調査中ニ候處未タ直ニ傳染病豫防第一條第二項ヲ適用致シ難クト
認メ候條當分ノ内左ノ各項ニ準シ御處置相成様致度尙御來申ノ如ク本病豫防ノ實行ニ付町村ノ經濟
上必要アルニ於テハ縣費ヲ以テ補助シ相當ノ施設ヲ爲サシムル義ハ希望スル處ニ有之候此段及回答
候也明治三十六年五月衛甲第三六號
衛生地方兩局長回答

- 一 醫師ヲシテ傳染性顆粒性結膜炎患者ヲ届出シムルコト
- 一 學校、工場等多人數ノ集合スル場所ニハ濕拭掃除ヲ勵行セシメ塵芥ノ飛散ヲ防遏セシムルコト
- 一 前項ノ場所ニ於テハ手拭ノ共用ヲ禁シ又手洗水ノ汚染ヲ避クル爲メ可成流出裝置ニ據ラシムルコト
- 一 患者アリタル家ニ對シテハ警察官吏又ハ醫師ヲシテ豫防上ノ注意ヲ指示セシムルコト

一 其他家屋、衣服、身體ノ清潔保持病毒汚染物件ノ消毒等豫防上ノ注意事項ハ告諭又ハ衛生講話等ニ依リテ汎ク人民ニ訓諭スルコト

血清其他細菌學的豫防治療品取締ノ義ニ關スル件

血清其他細菌學的豫防治療品ニ關シテハ取締方一定セサリシ處今回「ヂフテリア」血清破傷風血清及「ツベルクリン」ヲ日本藥局方ニ追加相成候ニ就テハ右以外ノ血清其他細菌學的豫防治療品ト雖モ當然藥品トシテ取扱フヘキモノニ有之候條明治二十二年法律第十號藥品營業並藥品取扱規則ニ依リ御取締相成度此段依命通牒候也
明治三十六年六月
衛甲第四四號通牒

船舶検査準備トシテ施行スル除鼠の清潔方法

ニ關シ其施行成績報告ノ件

今般遞信省令第十七號ヲ以テ明治三十三年十二月遞信省令第八十八號船舶検査規程中改正相成リ主

トシテ日本ト外國トノ間又ハ内地ト臺灣トノ間ヲ航行スル汽船ニ對シテハ定期検査ノ準備トシテ特ニ除鼠の清潔方法施行ノ件追加セラレ検査ノ場所期日等ハ其ノ都度當該海事局又ハ海務署ヨリ其ノ地ノ港務部神奈川、兵庫、長崎、福岡ノ諸縣又ハ警察官署ニ通報相成ル筈ニ付右施行ノ際當該官吏ヲシテ臨檢セシメ候様致度尙船名船鼠驅除數等ハ便宜取纏メ御報告相成度依命此段及御通牒候也明治三十八年三月衛甲第一二號 通牒王、群馬、栃木、奈良、山梨、滋賀、岐阜、長野、八縣ヲ除ク 追テ船舶内除鼠の清潔方法施行手續ノ要領ハ別紙ノ通ニ候爲參考申添候也

(別紙)

- 一 食料品置場、物置、艙等ニ豫メ捕鼠器ヲ配置シ又ハ硫黃ノ燻蒸其ノ他適當ノ方法ニ依リ船鼠ノ驅除ヲ行フコト
- 二 外板中張間ノ腔隙パイプ被箱及食料品置場物置ノ床板下等ハ必要ト認ムル部分ヲ剝離シ鼠巢及斃鼠ノ搜索ヲ行フコト
- 三 飲水函ノ内部ハ石灰乳(生石灰一分 水 九分)ヲ以テ消毒シタル清水ニテ洗滌スルコト
- 四 滄水道ハ汚水ヲ排除シタル後海水ヲ以テ洗滌スルコト

- 五 便所其ノ他不潔ナル場所ハ石灰乳又ハ石灰酸水(結晶炭酸五分鹽酸一分、水九十四分)ヲ以テ消毒スルコト
- 六 船内一般ニ掃除ヲ行ヒ蒐集シタル汚物塵芥ハ之ヲ燒却スルコト

(參照)

船舶検査規程明治三十三年十二月摘錄逕信省令第八十八號

第二十四條 碇泊シタル船舶ノ定期検査ニ於テハ左ノ準備ヲ爲スヘシ

- 三 主トシテ日本ト外國トノ間又ハ内地ト臺灣トノ間ヲ航行スル汽船ニ於テハ食品其ノ他雜品置場、庖厨、船艙等鼠族ノ棲息スル場所ハ硫黃燻蒸其ノ他適當ノ方法ヲ以テ鼠族ノ驅除ヲ行ヒ又滄水道ハ海水ヲ以テ洗滌シ便所其ノ他不潔ナル場所ハ消毒藥液ヲ以テ消毒ヲ行ヒ又飲水函ハ石灰乳ヲ以テ洗滌シ若ハ熱蒸氣ヲ通シテ掃除ヲ行フコト

野鼠驅除ノ目的ヲ以テ使用スル鼠窠扶私菌取

扱ニ關スル件

從來野鼠驅除ノ目的ヲ以テ使用セル鼠窠扶私菌ハ人體ニ害ナキモノト認メラレ居候處去ル四月二十五日埼玉縣北埼玉郡岩瀨村農會ニ於テ野鼠驅除方法ヲ施行スル爲メ同村役場ニテ該鼠ノ嗜好品ヲ混シ驅鼠劑ヲ調製セリ然ルニ同月二十七日同村農會ノ評議會ヲ村役場ニ開キ其ノ閉會後會食ノ爲メ副食物ヲ調理スルニ方リ筵ニ野鼠劑調製川ニ供セル器具ヲ使用後充分清洗セス放置シ在リタルヲ其ノ儘之ヲ使用シ調理セル物ヲ十數名ノ食膳ニ供シ且ツ其ノ殘餘ハ翌二十八日十數名ニテ之ヲ分食シタルニ同日ヨリ喫食者一同腹痛ヲ感シ吐瀉ヲ起シ發熱甚シク醫治ヲ受ケタルモ内二名ハ遂ニ死亡シタリトノ報告アリ右ハ鼠窠扶私菌ノ攝取ニ因リテ惹起セラレタル結果ニアラサルヤノ疑有之候尙近來獨逸國衛生院ニ於テ精密ナル研究ノ結果該菌ノ多量ヲ攝取スルトキハ腹痛下痢ヲ起シ殊ニ消化器ニ異常アル者又ハ小兒ニ在リテハ危害ヲ及ホスノ虞アルコトヲ確認セラレ候趣本件ニ就テハ目下夫々調査中ニ候得共該菌ノ使用ニ關シテハ相當注意ヲ要スヘキハ當然ノ義ト被認候條右取扱ノ場合ハ左記各號ニ依リ注意セシメ候様可然御措置相成度此段及通牒候也明治三十八年八月衛甲第三三號 (左記) 衛生局長農務局長通牒

一 鼠窠扶私菌、同菌含有ノ材料又ハ同菌ニ汚染セシ物件等ハ一定ノ場所ニ於テ散亂セサル様取扱

上注意セシムルコト 二 消化器ニ異常アル者若ハ小兒ヲシテ鼠室扶私菌、同菌含有ノ材料又ハ同菌ニ汚染セル物件等ヲ取扱ハシメサルコト 三 鼠室扶私菌、同菌含有ノ材料又ハ同菌ニ因セル鼯鼠同菌ニ汚染セル物件等ヲ取扱中食事喫煙ヲ爲シ若クハ汚染セル手指ヲ口邊ニ觸レシメサルコト 四 鼠室扶私菌同菌含有ノ材料又ハ同菌ニ汚染セル物件等ヲ取扱ヒ若クハ之ニ接觸シタルモノハ石鹼及微温湯ヲ以テ顔面手指等ヲ丁寧ニ洗淨セシムルコト 五 鼠室扶私菌培養液溶器又ハ同菌含有ノ材料調製ノ爲メ使用シタル器具等ハ使用後熱湯若クハ三十倍炭酸曹達洗濯曹達溶液ニ加熱シタルモノヲ以テ洗淨セシムルコト

消毒藥品使用ニ關スル件

曩ニ明治三十年省令第十三號消毒方法清潔方法中改正セラレ其ノ消毒藥中「クレゾール」水、加里石鹼又ハ綠石鹼及「フォルムアルデヒド」追加相成候處右ハ規定ノ方法ニ據リ使用ノ制限注意ヲ遵守セシムルニアラサレハ消毒ノ目的ヲ達シ難ク殊ニ加里石鹼又ハ綠石鹼ニ在リテハ沸騰中ノ熱湯ニ溶

解後直ニ使用セシメ又既ニ滅却セル該溶液ニ對シテハ更ニ之ヲ加熱沸騰ニ至ラシメ使用中其ノ温度ヲシテ攝氏六十度以上ニ保タシムルヲ要シ候右等追加藥品使用ニ關シテハ夫々相當任意セシメラレ候義ト存候得共爲念此段及通牒候也 明治三十八年九月衛發第四六〇號通牒

滿洲渡航者ニ對シ内地出發前種痘施行方ノ件

滿洲ニ於ケル日本居留民中痘瘡ニ罹ルモノアルヲ以テ渡航者ニ對シ種痘勵行方關東總督府軍醫部長ヨリ陸軍省ヲ經テ申來候次第モ有之候條此旨一般ニ徹底セシメ渡航者ニ對シテハ出發前必ス種痘ヲナサシメ且ツ種痘證ヲ携帶セシメ候様御取計相成度依命此段及通牒候也 明治三十九年一月衛甲第三號通牒

關東總督府軍醫部長ヨリ左記ノ通り申出候ニ付御參考ノ爲メ及通牒候也(左記)滿洲ニ於ケル日本居留民痘瘡ニ罹ルモノアリ渡航者ハ必ス種痘シテ來ル様内務當局者ニ注意セラレタシ 明治三十九年一月衛務局長照會 滿洲渡航者ニ對シ種痘施行方滿醫第九號御通牒ノ趣了承則チ右ニ關シ別紙ノ通各地方長官へ通牒致置候右御了知相成度此段申進候也 明治三十九年一月甲第三號ノ内衛生局長回答

内地沿岸航行ノ船舶ニ對シ検査ノ際除鼠的 清潔方法施行ニ關スル件

今般遞信省ニ於テ別紙ノ通船舶検査内規ヲ改正シ内地沿岸航行ノ船舶ニシテペスト發生地ト交通シタルモノニ對シテハ外國又ハ臺灣トノ間ヲ航行スル船舶ニ準シ検査ノ準備トシテ除鼠的清潔方法ヲ施行セシメラル、コトニ相成リ該検査ノ場所及日時等ハ其都度當該海事局又ハ海務署ヨリ其ノ地ノ港務部神奈川、兵庫、福岡、長崎ノ諸縣又ハ警察官署ニ通報相成ル筈ニ付右施行ノ際當該官吏ヲシテ臨檢セシメラレ候様致度尙船名船鼠驅除數等ハ便宜取纏メ御報告相成度依命此段及通牒候也明治三十九年九月但埼玉、群馬、栃木、奈良、山梨(別紙)船舶検査内規中追加ノ件、本件別紙ノ通決裁相成候條此段及通達滋賀、岐阜、長野ノ八縣ヲ除ク候也明治三十九年九月管發第五八一號ノ二、管船局長通達各海追テ現在「ペスト」發生地ハ左記之通ニ有之候也明治三十九年九月管發第五八一號ノ二、管船局長通達各海追テ現在「ペスト」發生地ハ左記之通ニ有之候「左記」大坂市 神戸市 下關市 和歌山市 和歌山縣湯淺町

(別紙) 船舶検査内規

第二編第二章第三條ノ次ニ左ノ三條ヲ加フ

第四條 検査規程第二十四條第三號ニ掲ケサル船舶ノ定期検査ニ著手セムトスルトキハ検査官吏ハ航海日誌ノ檢閱其ノ他ノ方法ニ依リ當該船舶ハ前航行期間内ニ「ペスト」發生地ト交通シタルヤ否ヤヲ調査スヘシ

第五條 前條調査ノ上當該船舶カ前航行期間内ニ「ペスト」發生地ト交通シタルコトヲ認メタルトキハ其ノ船舶ニ對シ検査規程第二十四條第三號ニ掲クル除鼠的清潔方法ヲ施行スヘキコトヲ諭告シ同時ニ本章第三條ニ定メタル手續ヲ爲スヘシ

第六條 「ペスト」發生地ノ増減變更ハ隨時管船局ヨリ之ヲ通知ス

(參照)

船舶検査内規第二編第二章

第三條 検査規程第二十四條第三號ニ該當スル準備ヲ爲スヘキ定期検査ヲ執行セントスルトキハ港務部所在地ニ在リテハ同部ニ其ノ他ノ地ニ在リテハ警察官署ニ對シ豫メ検査執行ノ場所及ヒ日時

第十八輯 傳染病

ヲ通知シ當該衛生吏員ノ臨檢シ得ル様處理スヘシ

檢査規程第二十四條第三號ニ規定スル清潔方法ハ概略左ノ手續ニ依リ施行スヘキモノトス

一 食料品置場、物置、艙等ニ豫メ捕鼠器ヲ配置シ又ハ硫黃ノ燻蒸其ノ他適當ノ方法ニ依リ船鼠ノ驅除ヲ行フコト

二 外板張間ノ腔隙、パイプ被箱及食料品置場、物置ノ床板下等ハ必要ト認ムル部分ヲ剝離シ鼠巢及斃鼠ノ搜索ヲ行フコト

三 飲水函ノ内部ハ石灰乳(生石灰一分 水九分)ヲ以テ消毒シタル後清水ニテ洗滌スルコト

四 滄水道ハ汚水ヲ排除シタル後海水ヲ以テ洗滌スルコト

五 便所其他不潔ナル場所ハ石灰乳又ハ石炭酸水(結晶石炭酸五分、鹽酸一分、水九十四分)ヲ以テ消毒スルコト

六 船内一般ニ掃除ヲ行ヒ蒐集シタル汚物塵芥ハ之ヲ燒却スルコト

赤痢ニ對スル交通遮斷及隔離處分省略ノ件

赤痢豫防ニ關シテハ傳染病豫防法發布以來交通遮斷ヲ嚴行スルノ方針ヲ執リ來リ候處爾來各地方ノ病況ニ鑑ミ又豫防方策ノ進歩ニ就テ考察スルニ特別ノ場合ヲ除ク外最早之ヲ施行スルノ必要無之ト被認候間傳染病豫防法施行規則第六條第一號乃至第三號ノ處分ハ之ヲ廢止セラレ候方寧ロ大局ノ防疫上利益可有之ト被存候本件ニ關シテハ去ル明治三十八年七月衛甲第二九號ヲ以テ通牒ノ次第モ有之候得共右ハ取消候間爾後右ノ方針ニ依リ可然御措置相成度依命此段及通牒候也明治四十年二月 衛甲第九號通牒

宮内傳染病豫防令施行規則

明治四十一年十月 官内省令第八號

第一條 宮内傳染病豫防令第二條第四條及第五條ノ規定ニ依リ宮中ニ參入シ側近ニ奉仕シ又ハ臨時

進謁スルコトヲ得サル期間ハ左表ニ依ル

第十八輯 傳染病

第十八冊 傳染病

麻 疹	實布達利亞		猩紅熱		發疹室扶私		痘瘡		腸室扶私	
	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二
			七 日	十四 日	七 日	十四 日	七 日	十四 日	七 日	十四 日
	七 日		四 日	三 日	七 日	十四 日	七 日	七 日	七 日	七 日
	七 日		四 日	三 日	七 日	十四 日	七 日	七 日	七 日	七 日
	七 日		四 日	三 日	七 日	十四 日	七 日	七 日	七 日	七 日
			七 日		七 日	七 日				
					七 日	七 日				
					七 日	七 日				
			七 日		十四 日		十四 日		十四 日	

赤痢	虎列刺		「ペスト」		ノ種類	傳染病
	一	二	一	二		
七 日	十四 日	七 日	十四 日			宮中ニ參入シ側近ニ奉仕シ又ハ臨時進謁スルコトヲ得サル者ノ種類
五 日	五 日	五 日	五 日		別區ノ間期	第一號
五 日	五 日	五 日	五 日		リタル者	傳染病ニ罹
五 日	五 日	五 日	五 日		居シタル者	患者ニ接シ又ハ之ト同
五 日	五 日	五 日	五 日		ニ在タル者	宮中參入中又ハ退出後
五 日	五 日	五 日	五 日		ル件ニ疑アル者	病毒ニ汚染シ又ハ汚染物
五 日		五 日	五 日		立寄タル者	患者ノ在ル家ニ汚染シ又ハ汚染ノ
五 日		五 日	五 日	十 日	者	隔離ノ處分ヲ受ケタル
七 日		七 日		十 日	者	有病地ヲ發シ又ハ之ニ立寄リタル

流行性感冒		流行性腸炎	
一	二	一	二
七	七	二	二
十四	十四	五	五
十四	十四	五	五
十四	十四	五	五
十四	十四	二	二
十四	十四	二	二
十四	十四	二	二
十四	十四	二	二
十四	十四	二	二

備考 一欄ハ宮中ニ參入スルコトヲ得サル期間ヲ示シ二欄ハ側近ニ奉仕シ又ハ臨時進謁スルコトヲ得サル期間ヲ示ス

第二條 宮中ニ參入スルコトヲ得サル期間ハ前條ノ表中第一號ニ該當スル者ニ在リテハ全治ノ日ノ翌日ヨリ第二號ニ該當スル者ノ内患者ニ接シタル者ニ在リテハ其ノ之ニ接シタル日ノ翌日ヨリ患者ト同居シタル者ニ在リテハ患者ノ全治又ハ死亡シタル場合ニハ其ノ全治又ハ死亡ノ日ノ翌日ヨリ患者又ハ之ト同居シタル者他ニ移轉シタル場合ニハ其ノ移轉ノ日ノ翌日ヨリ第三號ニ該當スル

者ニ在リテハ患者ト同一ノ場所ニ在リタル最終ノ日ノ翌日ヨリ第四號ニ該當スル者ニ在リテハ物件ニ接シタル日ノ翌日ヨリ第五號ニ該當スル者ニ在リテハ家ニ立寄りタル日ノ翌日ヨリ第六號ニ該當スル者ニ在リテハ隔離ノ處分ヲ解除セラレタル日ヨリ之ヲ起算ス
側近ニ奉仕シ又ハ臨時進謁スルコトヲ得サル期間ハ宮中ニ參入スルコトヲ得サル期間ノ定アルモノニ付テハ其ノ期間經過ノ日ヨリ之ヲ起算シ其定ナキモノニ付テハ前項ノ規定ヲ準用ス但シ前條ノ表中第七號ニ該當スル者ニ在リテハ有病地發程ノ日又ハ立寄りタル最終ノ日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第三條 現ニ患者ノ在ル室内ニ入りタル者ハ患者ニ接シタル者ト看做シ虎列刺赤痢及腸管扶私ニ付テハ患者ト住家ヲ異ニスルモ廁圍又ハ飲料ニ係ル非水ヲ共用シタル者ハ仍之ヲ患者ト同居シタル者ト看做ス

第四條 宮中傳染病豫防令第九條ノ規定ニ依リ更衣ヲ必要トスルトキハ病毒汚染ノ疑ナキ衣服ヲ着用スヘシ

前項ノ衣服中ニハ帽手套襪衣足袋靴等身體ニ附著セシムルモノハ總テ之ヲ包含ス

第五條 宮内傳染病豫防令第十二條ノ規定ニ依リ宮中ノ場所ヲ限リ參入ヲ制限又ハ禁止スルトキハ其ノ場所ノ區域及制限又ハ禁止ノ範圍ハ之ヲ便宜ノ場所ニ揭示ス

第六條 宮中參入者ノ健康診斷及宮中ニ搬入スル物件ノ消毒又ハ包裝ノ解除ハ特ニ設ケタル健康診斷所及消毒所ニ於テ之ヲ行フ

第七條 第一類ノ傳染病流行ノ狀況ニ依リ必要ト認メタルトキハ左ノ各號ノ全部又ハ一部ヲ施行ス

- 一 出入ノ廊門ヲ限定シ他ハ之ヲ閉鎖スルコト
- 二 物件受入ノ場所ヲ限定シ他ノ場所ニ於テ其ノ受入ヲ許ササルコト
- 三 宮中及其ノ附近ノ區域ヲ定メ特ニ嚴重ニ警戒ヲ行フコト
- 四 警戒區域内ノ用務ハ成ルヘク電話ヲ以テ處辨スルコト
- 五 天機伺御機嫌伺御禮等ノ受付所ハ之ヲ警戒區域外ニ假設スルコト
- 六 新ニ隔離舎ヲ設ケルコト

七 公務其ノ他止ムコトヲ得サル事由ニ因リ出入スル者ヲ除クノ外一時門鑑ヲ引上ケルコト

第八條 宮中參入者又ハ宮中常住者中自ラ傳染病ニ罹リタル疑アルコトヲ覺知シタルトキハ便宜皇宮警察官ニ報告スヘシ其ノ傳染病ニ罹リタル疑アル者ヲ發見シタルトキ亦同シ

皇宮警察官ノ前項報告ヲ受ケタルトキハ當該吏員ト協議ヲ遂ケ患者ニ應急ノ手當ヲ施シ且自宅病院又ハ隔離舎ニ送致ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ皇宮警察官ニ於テ傳染病ニ罹リタル疑アル者ヲ發見シタル場合ニ之ヲ準用ス

第九條 前項第二項又ハ第三項ノ場合ニ於テ届出ヲ要スル傳染病ト確定シタルトキハ皇宮警察長ハ其ノ旨ヲ地方警察官廳ニ通報スヘシ

第十條 宮内傳染病豫防令第十四條ノ規定ニ依リ病毒傳播ノ虞アル物件ノ搬入ヲ制限又ハ停止スルトキハ其ノ物件ノ種類ヲ定メ之ヲ告示ス其ノ制限又ハ停止ヲ解除スル場合亦同シ

第十一條 宮内傳染病豫防令第十四條ノ規定ニ依リ病毒傳播ノ虞アル水ノ使用ヲ制限又ハ停止スルトキハ其ノ制限又ハ停止ノ範圍ハ便宜ノ場所ニ之ヲ揭示ス

第十二條 宮中ニ於テ捕鼠ヲ爲シ又ハ斃鼠ヲ發見シタルトキハ之ヲ皇宮警察官ニ引渡スヘシ但シ便宜之ヲ地方警察官ニ引渡スコトヲ妨ケス

第十三條 左ニ掲ケタル事故其ノ他本令ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ別ニ之ヲ定ム

一 清潔方法

二 消毒方法

三 宮中奥向奉仕者及宮中常住者ニ關スル取締方法及注意事項

四 商工者職工車夫馬丁人足等ニ關スル取締方法及注意事項

五 宮中ニ患者ヲ發生シタル場合ニ於ケル取締方法及注意事項

六 飲食物及飲水器ニ關スル取締方法及注意事項

七 車馬ニ關スル取締方法及注意事項

八 物件受入ニ關スル取締方法及注意事項

九 宮中參入者昇降所ノ取締方法及注意事項

第十四條 宮内傳染病豫防令第十八條第二項ノ規定ニ依リ同令ノ全部又ハ一部ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ宮殿殿邸又ハ旅館及準用スヘキ事項ハ告示又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ之ヲ知悉セシム

第十五條 宮内傳染病豫防令第八條第三項ノ規定ハ十二年未滿ノ皇族ノ在ル宮殿殿邸及旅館ニ限リ之ヲ適用ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 宮内傳染病豫防令第十八條第三項ノ規定ニ依リ參入スルコトヲ得サル期間ハ疫咳水痘風疹又ハ流行性耳下腺炎ニ付テハ全治ノ日ノ翌日ヨリ起算シ五日トシ實布埜利亞ニ付テハ宮内傳染病豫防令第二條第一號ニ該當スル者ハ三日第二號乃至第四號ノ一ニ該當スル者ハ七日トス

第二條ノ規定ハ實布埜利亞ニ付キ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ明治四十一年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十八輯 傳染病

痘瘡類似症ニ對シ傳染病豫防法適用ノ件 明治四十一年一月
警視廳令第四號

明治三十三年三月法律第三十六號傳染病豫防法第二條ニ依リ痘瘡疑似症ニ對シ同法ノ全部ヲ適用ス
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

傳染病豫防方法施行規則第三條ニ依ル報告手續

明治四十一年五月東
京府訓令第二十八號

警察署 警察分署

明治三十年五月内務省令第十一號傳染病豫防法施行規則第三條ニ依ル報告手續左ノ通定ム

- 一 傳染病患者死者アルトキハ其ノ病名及住所氏名年齢ヲ速報シ更ニ左記書式ノ事項ヲ三日以内ニ報告スヘシ

何病患者發生報告

住所氏名年齢

何病患者轉歸報告

身分職業	職業ハ自身ト家計ト區別記入ヲ要ス
發病ノ日時場所	
届出又發見日時	
傳染ノ系統	
療養ノ場所	
年 月 日	署 名印
住所氏名	
全治月日	
死亡月日	
年 月 日	署 名印

第十八群 傳染病

宮内傳染病豫防令

明治四十一年十月
皇室令第二號

第一條 本令ニ於テ傳染病ト稱スルハ左ニ掲ケタル三類ノ傳染病及其ノ疑似症ヲ謂ヒ有病地ト稱スルハ第一類ノ傳染病又ハ其ノ疑似症流行シ若ハ流行ノ兆アリテ宮内大臣ニ於テ有病地ト指定シタル土地ノ區域ヲ謂フ

第一類 「ペスト」虎列刺、赤痢(疫痢ヲ含ム)腸窒扶私、(痘瘡假痘ヲ含ム)發疹窒扶私及猩紅熱

第二類 實布埜利亞(格魯布ヲ含ム)麻疹、流行性感胃及流行性腦脊髄膜炎

第三類 肺結核、癩、丹毒「トラホーム」膿漏性結膜炎及傳染性皮膚病

前項ニ掲ケタル傳染病ノ外本令ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要ト認メタル傳染病アルトキハ宮内大臣之ヲ指定ス

第二條 第一類ノ傳染病ニ付キ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一定ノ期間宮中ニ參入スルコトヲ得ス

一 傳染病ニ罹リタル者

二 患者ニ接シ又ハ之ト同居シタル者

三 宮中參入又ハ退出後傳染病ニ罹リタル者ト同一ノ場所ニ在リタル者

四 病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル物件ニ接シタル者

五 患者ノ在ル家其ノ他病毒ニ汚染ノ疑アル家ニ立寄りタル者

六 傳染病豫防法ニ依リ隔離ノ處分ヲ受ケタル者

第三條 第二類ノ傳染病ニ罹リタル者ハ全治ノ後ニ非サレハ宮中ニ參入スルコトヲ得ス

第四條 流行性腦脊髄膜炎ニ付キ第二條第二號乃至第四號ノ一ニ該當スル者ハ一定ノ期間宮中ニ參入スルコトヲ得ス

第五條 左ニ掲ケタル者ハ宮中ニ參入スルコトヲ得ル場合ニ在リテモ仍一定ノ期間側近ニ奉仕シ又ハ臨時進謁スルコトヲ得ス

一 第一類ノ傳染病ニ付テハ「ペスト」ヲ除キ第二條第一號乃至第五號ノ一ニ該當シ「ペスト」及虎列刺ニ付テハ同條第六號ニ該當スル者但シ腸窒扶私ニ付テハ同條第五號ニ該當スル者ヲ除ク

二 麻疹ニ付テハ第二條第一號乃至第五號ノ一ニ該當シ實布埤利亞及流行性腦脊髄膜炎ニ付テハ同條第二號乃至第四號ノ一ニ該當シ流行性感胃ニ付テハ同條第一號ニ該當スル者但シ曾テ麻疹ニ罹リタルコトアル者ニ付テハ同條第二號乃至第五號ノ一ニ該當スル者ヲ除ク

三 有病他ヲ發シ又ハ之ニ立寄りタル者

第六條 第三類ノ傳染病ニ罹リタル者ハ全治ノ後ニ非サレハ側近ニ奉仕シ又ハ臨時進謁スルコトヲ得ス

第七條 宮中ニ參入シ側近ニ奉仕シ又ハ臨時進謁スルコトヲ得サル期間及其ノ起算ノ日ハ宮内大臣之ヲ定ム

第八條 第二條乃至第六條ノ規定ハ勅旨ニ由リ宮中ニ參入シ側近ニ奉仕シ又ハ臨時進謁スル者ニ之ヲ適用セス

第九條 一定ノ期間ヲ經過シ又ハ疾病ノ全治シタル後若ハ前條ノ規定ニ依リ宮中ニ參入シ側近ニ奉仕シ又ハ臨時進謁スル者ハ豫メ沐浴更衣シ病毒汚染ノ疑アル携帶品アルトキハ之ヲ消毒スヘシ但

シ職服ノ着用ヲ必要トシ其ノ他更衣スルコト能ハサル事由アル場合ニ限り消毒ヲ以テ更衣ニ代フルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ宮内大臣ハ必要ト認メルトキハ健康診斷又ハ携帶品ノ消毒ヲ行ハシムルコトヲ得

第十條 前條ノ規定ハ左ノ場合ニ之ヲ準用ス

一 第五條第三號ニ該當スル者及「ベスト」ニ付キ隔離ノ處分ヲ解除セラレタル者宮中ニ參入スルトキ

二 腸窒扶私、實布埤利亞及流行性腦脊髄膜炎ニ付テハ第二條第五號ニ該當シ流行性感胃ニ就テハ同條第二號ニ該當スル者及曾テ麻疹ニ罹リタルコトアル者ニシテ同條第二號乃至第五號ノ一ニ該當スル者側近ニ奉仕シ又ハ臨時進謁スルトキ

第十一條 宮中參入中又ハ退出後第一類若ハ第二類ノ傳染病ニ罹リタル者アルトキハ宮内大臣ハ病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル場所及物件ノ消毒ヲ行ハシムヘシ

第十二條 傳染病流行ノ狀況ニ依リ宮内大臣ハ宮中ノ場所ヲ限リ參入ヲ制限又ハ禁止スルコトヲ得
第十三條 有病地又ハ交通遮斷區域内ヲ發シ若ハ經過シタル物件ハ消毒ヲ行ヒタル後ニ非サレハ之ヲ宮中ニ搬入スルコトヲ得ス

宮中ニ搬入シタル物件ニシテ有病地又ハ交通遮斷區域内ヲ發シ若ハ經過シタル疑アルトキハ宮内大臣ハ其ノ包裝ヲ解カシメ又ハ消毒セシムヘシ
前二項ノ規定ハ有病地又ハ交通遮斷區域内ヲ發シ若ハ經過シ又ハ其ノ疑アル物件ト混同シタル物件ニ之ヲ準用ス

第十四條 傳染病流行ノ狀況ニ依リ宮内大臣左ノ各號ノ全部又ハ一部ヲ施行スルコトヲ得

- 一 病毒傳播ノ虞アル物件ノ搬入ヲ制限若ハ停止シ又ハ既ニ受ケタル物件ヲ廢棄スルコト
- 二 病毒傳播ノ虞アル水ノ使用ヲ制限又ハ停止スルコト
- 三 清潔方法ヲ行フコト
- 四 鼠族ノ驅除ヲ行フコト

第十五條 傳染病流行ノ狀況ニ依リ宮内大臣ハ勅裁ヲ經テ宮中ニ臨時傳染病豫防委員ヲ置キ其ノ職制ヲ定ムルコトヲ得

第十六條 宮内大臣ニ於テ傳染病又ハ有病地ヲ指定スルトキ及有病地ヲ解除スルトキハ之ヲ告示ス

第十七條 第二條乃至第六條第九條第一項第十條第十三條第一項第三項ノ規定其ノ他本令ノ施行ニ關スル宮内大臣ノ命令ニ違反シタル者アルトキハ勅旨ニ依リ又ハ宮内大臣ノ命令ヲ以テ宮中ノ參入ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ

第十八條 本令ノ規定ハ東宮御所其ノ他東京府下所在ノ宮殿及行幸啓ノ場所ニ之ヲ準用ス

宮内大臣ハ必要ト認メタルトキハ本令ノ全部又ハ一部ヲ東京府外所在ノ宮殿及皇族ノ殿邸並旅館ニ準用スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ本令ノ全部又ハ一部ヲ準用スル場合ニ於テハ宮内大臣ハ疫咳、水痘、風疹又ハ流行性耳下腺炎ニ罹リタル者ニ付テモ一定ノ期間其ノ參入ヲ止ムルコトヲ得實布埜利亞ニ付キ第二條第一號乃至第四號ノ一二ニ該當スル者亦同シ

第八條及第九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準川ス

第十九條 本令ノ施行ニ付キ必要ナルトキハ宮内大臣ハ皇宮警察官ノ職務ノ全部又ハ一部ヲ地方警察官ニ委託シテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第二十條 本令ノ施行ニ付キ國務大臣ノ職務ニ關連スルモノアルトキハ宮内大臣ハ主任ノ國務大臣ト協定ヲ經ヘシ

附則

本令ハ明治四十一年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

傳染病豫防手續

明治三十八年十一月
警視廳訓令甲第四八號

第一章 通則

第一條 傳染病ノ豫防ハ明治三十年法律第三十六號傳染病豫防法、同年內務省令第十一號傳染病豫防法施行規則同年內務省令第十三號清潔方法及消毒方法ニ依ルノ外尙本手續ニ從フヘシ

第二條 左ノ場合ハ速ニ其ノ事實ヲ報告スヘシ

一 傳染病豫防法第一條ニ掲クル八病ノ外同法ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要ト認ムルトキ

二 傳染病豫防法第十八條ノ二ノ場合ニ於テ市町村カ家用水ノ供給ヲ遲延シ又ハ之ヲ爲ササル時

三 傳染病豫防法第十九條各號ノ一部又ハ全部ノ施行ヲ必要ト認ムルトキ

四 傳染病豫防法第二十七條第一項ノ施行ヲ必要ト認ムルトキ

第三條 傳染病豫防法第二十六條ニ依リ當該吏員ノ施行ヲ必要ト認ムルトキハ市町村長ヘ其ノ施行ヲ求ムヘシ

市町村長ニ於テ前項ノ施行ヲ肯セサルトキハ速ニ報告スヘシ

第四條 第一號様式ニ依リ傳染病臺帳ヲ備ヘ必要事項ヲ記入シ置クヘシ 傳染病患者死者アリタルト

キハ其ノ病名及住所氏名年齢ヲ急報シ更ニ第二號及第三號様式ニ依リ三日以内ニ第三部ヘ報告スヘシ

第五條 豫防上他ノ警察官署管内ニ關係アルモノハ其ノ署ニ急報スヘシ

第六條 患者死者ノ措置交通遮斷又ハ隔離施行ノ程度及清潔方法消毒方法ノ施行ニ關シテハ成ルヘク醫師タル檢疫委員ノ意見ヲ徵スヘシ

第七條 左ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ市町村長ニ通知シ市町村醫ヲシテ檢診セシムルコトヲ得

- 一 傳染病ノ疑アル患者死者アリタルトキ
- 二 健康診斷又ハ死體檢案ヲ行フノ必要アルトキ
- 三 醫師ノ診斷ニ疑アルトキ

第八條 豫防上必要ナル器具、藥品其ノ他ノ設備ハ豫メ市町村長ト協議シ事ニ臨ミ支障ナカラシムヘシ

第九條 市町村ノ傳染病院、隔離病舎、隔離所、消毒所其ノ他ノ防疫設備ハ常ニ之ヲ監督シ毎年四月第四號様式ニ依リ報告書ヲ第三部ニ差出スヘシ

第二章 患者死者及病毒ニ對スル措置

第十條 傳染病患者ハ傳染病院又ハ隔離病舎ニ入ラシムヘシ但シ赤痢腸窒扶斯猩紅熱實布の里亞ノ患者ニ在リテハ相當設備アル病院ニ入ラシメ又ハ左ノ各號ニ該當スルモノニ限り自宅治療ヲ爲サシムルコトヲ得

- 一 病室ニ専用スヘキ適當ノ室アルトキ
- 二 専從スヘキ看護人アルトキ
- 三 主治醫アルトキ
- 四 患者ニ専用スヘキ什器臥具ヲ有スルトキ
- 五 消毒用器具、藥品ヲ準備シ得ルトキ
- 六 營業及生活狀態竝ニ周圍ノ狀況ニシテ病毒傳播ノ虞ナシト認ムルトキ

第十一條 自宅治療中ハ左ノ各號ヲ遵守セシムヘシ

- 一 患者ハ濫リニ病室外ニ出サシメサルコト
- 二 患者ノ使用シタル器具、排泄物、飲食物ノ殘餘其ノ他病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物ハ總

- テ適當ノ消毒ヲ行ハシメ且蚊蠅等ノ附着セサル様適當ノ裝置ヲ爲サシムルコト
- 三 前號ノ物ハ消毒方法ヲ施行スルニ非サレハ病室外ニ出サシメサルコト
- 四 病室ニハ醫師、看護人ノ外出入セシメサルコト
- 五 看護人病室ニ出入ノ際ハ消毒ノ後更衣セシムルコト
- 六 看護人ノ使用スル什器、臥具等ハ一定シ置カシムルコト
- 七 病室内外ノ塵芥ハ燒却セシムルコト
- 八 患者ノ沐浴シタル湯水ハ水量五十分一ノ生石灰ヲ乳狀トシテ投入シ能ク攪拌シ十二時間以上放置シタル後無害ノ地ニ投棄セシムルコト
- 九 濫ニ病室ヲ變更セシメサルコト
- 十 死體ハ總テ沐浴セシメサルコト
- 十一 病室ハ消毒方法ヲ施行シタル後ニ非サレハ他ニ使用セシメサルコト
- 第十二條 左ノ場合ハ傳染病患者ノ移送ヲ猶豫スルコトヲ得
 - 一 患者ノ病狀危篤ニシテ途中死亡ノ虞アルトキ
 - 二 風雨降雪炎熱ノ際

第十三條 傳染病患者ヲ移送スル場合ニハ其ノ病狀ニ應シ必要ナル藥品飲料水其ノ他嗽盤便器等ヲ準備セシムヘシ

第十四條 傳染病患者死者ヲ移送シ又ハ排泄物其ノ他病毒汚染ノ物品ヲ運搬スルトキハ途上當該吏員ヲシテ監視セシムヘシ

第十五條 傳染病豫防法施行規則第七條ノ場合ニ於テハ其ノ事由及關係地ノ狀況等ヲ調査シ病毒傳播ノ虞ナシト認ムルトキニ限り消毒方法ヲ施行セシメタル上認可スルコトヲ得

第十六條 傳染病豫防法第十二條ニ依リ土葬ヲ請フ者アルトキハ其ノ事由及墓地ノ狀況等ヲ調査シ病毒傳播ノ虞ナキモノニ限り許可スルコトヲ得

土葬ノ場合ハ棺ノ周圍ニ厚サ一尺以上ノ生石灰ヲ埋没セシムヘシ

第十七條 傳染病豫防法第十三條ニ依リ死體發掘ノ處分ヲ要スルトキハ其ノ事由ヲ具シ指揮ヲ請フ

ヘシ

第十八條 現場ニ於テ燒却又ハ蒸汽消毒ヲ施行シ難シト認ムル物品ハ之ヲ包容シ其ノ被包ヲ消毒シタル上消毒所燒却所又ハ特ニ指定シタル場所ニ送り施行セシムヘシ

第十九條 病毒河川及井戸等ニ混入シタリト認メタルトキハ假ニ左ノ各號ヲ施行シ指揮ヲ請フヘシ但シ此ノ場合ニ於テ家用水供給ノ必要アルトキハ市町村長ニ協議シ其ノ供給ヲ爲サシムヘシ

- 一 飲用及使用ヲ止ムルコト
- 二 漁撈及游泳ヲ止ムルコト

第三章 交通遮及隔離

第二十條 虎列刺、赤痢、發疹瘰癧、「ペスト」ニ對シテハ傳染病豫防法施行規則第六條ニ依リ當該吏員ヲ指示シテ交通遮斷ヲ行フヘシ

第二十一條 前條ニ掲クル以外ノ傳染病ト雖患者、死者ノ在ル間及患者ヲ入院入舎セシメ又ハ患者ノ治癒、死亡シタル後消毒方法ヲ了ルマテハ濫ニ其ノ家ニ他人ノ出入ヲ爲サシムヘカラス

第二十二條 交通遮斷施行中ハ巡查ヲ附シ取締ヲ爲サシムヘシ但シ差支ナシト認ムルトキハ巡行ノ際其ノ取締ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十三條 第二十條ノ傳染病ニ對シテハ傳染病豫防法施行規則第六條ニ依リ當該吏員ヲ指示シテ隔離ヲ行ヒ隔離中ハ毎日健康診斷ヲ行ハシムヘシ

「ペスト」ニ在リテハ隔離所ニ隔離スヘシ
赤痢ニ在テハ病毒傳播ノ虞ナシト認ムルトキニ限り隔離ヲ省略スルコトヲ得但シ此ノ場合ハ隔離日時ニ相當スル期間毎日健康状態ヲ視察シ必要アルトキハ健康診斷ヲ行ハシムヘシ

第二十四條 左ノ各號ニ該當スル場合ニハ隔離所以外ノ場所ニ隔離スルコトヲ得

- 一 内外ノ交通ヲ禁止シ得ヘキ場所ナルトキ
- 二 專用スヘキ什器及臥具ヲ有スルトキ
- 三 專用スヘキ便所及浴場ヲ有スルトキ

第二十五條 隔離施行中ハ巡查ヲシテ取締ヲ爲サシメ又ハ市町村吏員ヲシテ其ノ事務ニ從事モシム

第十八章 傳染病

ハシ

第二十六條 交通遮断又ハ隔離施行中左ノ各號ノ一事故アルトキハ事情已ムヲ得サルモノニ限り相

當消毒ノ上許可スルコトヲ得但シ第二號ノ場合ハ醫師ヲシテ檢診セシムヘシ

一 交通遮断又ハ隔離ノ場所ニ在ル物品ヲ他ニ搬出セシムルトキ

二 交通遮断又ハ隔離中ノモノニシテ一時外出セシムルトキ

三 交通遮断又ハ隔離中ノ者ニ面會ヲ求ムル者アルトキ

附則

第二十七條 「ベスト」ニ關シテハ本手續ニ依ルノ外尙別ニ定ムル所ノ規定ニ從フヘシ

第一號様式

發 生 報 告 進 達		日 月	
病 名		番 號	
第	號	性 別	年 齡
女	男	名	氏
年	月	生	

第十八輯 傳染病

轉 歸 報 告 進 達	轉 歸 (死 體 ノ 處 置)	療 養 ノ 場 所	主 治 醫 生	届 出 又 ハ 發 見	發 病	職 業 身 分	住 所
日 月	月 日 午 時	月 日 午 時	醫師ノ届出 戸口調査 死體檢案 健康診斷 密告	月 日 午 時	月 日 午 時	自 身 ノ 職 業	
考 備	月 日 午 時	月 日 午 時		其 届 出 ノ 場 所	其 發 病 ノ 場 所	家 計 ノ 職 業	
	死 亡 (火 葬 埋 葬)	轉 移 收 容					

第貳號樣式

傳染病者發生報告票

(三) 職業身分	(二) 住所	(一) 姓名	病名
		姓名 年 齡	男 女
自身ノ職業		其氏名	明治 年 月 日 時 分
家計ノ職業		其生年 月 日 時 分	警察署

第十八輯 傳染病

項	隔離	遮斷	實布、垣、里、亞、赤痢、腸窒、扶私、虎列刺、 「ハ、ス、ト」ニ在テハ、 血清療法ヲ行ヒタルコトノ 有無ヲハ、何血清チ何時
隔離	隔離セシメタル人員	交通遮斷ヲ行ヒタル戸數	無有
隔離ノ場所	其人	其血清量	其時 月 日 午 時 後 回

注	著明ナル傳染系統	管テ本病ニ罹リタルコトノ有無	管テ本病ニ對シ免疫方法ヲ行ヒタルコトノ有無	患者及周圍ノ狀況一斑	飲料	豫防措置
著明ナル傳染系統	無有	無有	無有	其狀況一斑	消毒藥品	消毒藥品
其罹リタル時	年 月	其行ヒタル方法	其行ヒタル時	其狀況	石炭酸 昇 永 生石灰	其他
種痘ニ在テハ最終ノ善感ノ程度	年 月	其行ヒタル時	其行ヒタル時	其狀況	井水(專用、共用) 河水 蓄水道水	之ニ從事シタル吏員 警察官吏 檢疫委員 市町村吏員 之ニ使役シタル消毒人
種痘ニ在テハ最終ノ善感ノ程度	年 月	其行ヒタル時	其行ヒタル時	其狀況	稠密 稀疎 液潔 不潔	之ニ從事シタル吏員 警察官吏 檢疫委員 市町村吏員 之ニ使役シタル消毒人

第三號樣式

第十八輯 傳染病

傳染病患者轉歸報告票	
病名	明治 年 號
(一) 氏名	警察署
二轉	月 日 午 時 治癒 死亡
主治醫師	警察署
取扱主任 検査員 検査印	考
進達備考	
(三) 療養ノ場所	交通遮断ヲ行ヒタル戸數 其人員
病院病舎(其名稱)	發病ノ場所
發病ノ場所以外ニ於テ療養スル者ニ在テハ其轉移セシメタル時	月 日 午 時

(四) 發病ノ場所	月 日 午 時
(五) 届出又ハ發見	醫師届出 月 日 午 時 其場所 戸口調査 死體檢案 健康診斷 密告
(六) 主治醫師	其氏名 及住所 年 月
(七) 嘗テ本病ニ罹リタルコトノ有無	無 有 其罹リタル時
(八) 嘗テ本病ニ對シ免疫方法ヲ行ヒタルコトノ有無 有ラハ何時	無 有 其行ヒタル方法 年 月 (種痘ニ在テハ最終ノ善感ノ種痘ノ時ヲ記入スヘシ)
(九) 飲料 水	改良水道水(專用、共用) 舊水道水、井水(專用、共用) 河水、泉水
(十) 著明ナル傳染系統	
(十一) 隔離及遮断	隔離セシメタル人員 場所

取 任 主 任 檢 印	月	日	進	違	備	考	時	其	月	日	午	時	後	爾	同	其 分 量	清 其 血	有	無	(四) 實布坪里亞、赤痢、 腸窒扶私、虎列刺、 ベストニ在テハ血清 療法ヲ行ヒタルコト ノ有無、有ラハ何血 清ヲ何時	(三) 死體ノ處置	火葬	埋葬

記載例

- 第一號様式 傳染病臺帳
- 第一 傳染病臺帳ハ冊ヲ異ニシ又ハ冊中ニ區別ヲ設ケ各種傳染病ヲ區別シテ記入スヘシ
- 第二 傳染病臺帳ハ一年毎ニ更正スヘシ
- 第三 傳染病臺帳ハ一人一回ノ罹病ニ關スル事實ヲ一葉ニ記入スルモノニシテ其ノ用紙ハ表裏兩面

- ヲ各數欄數項ニ分ケタリ主任吏員ハ事實ニ違著スル毎ニ當該ノ各欄各項ニ記入スヘシ
- 第四 病名ハ届出又ハ發見當時ノ病名ヲ記入スヘシ
- 赤痢虎列刺ベスト等ノ疑似症ニ在リテハ赤痢疑似症虎列刺疑似症ベスト疑似症等ト記入スヘシ
- 前項ノ疑似症患者ニシテ後チ醫師ノ診斷確定シタルトキハ左ノ二號ニ依リ記入スヘシ
- 一 赤痢虎列刺ベスト等ト確定シタルトキハ彙ニ記入シタル「疑似症」ノ三字ニ朱線ヲ引キ備考ニ「何月何日何病ト確定」ト記入スヘシ
- 二 赤痢、虎列刺、ベスト等ニ非スト確定シタルトキハ彙ニ記入シタル病名ノ全部ニ朱線ヲ引キ備考ニ「何月何日何病ニ非スト確定」ト記入スヘシ
- 第五 番號ハ各病各別ノ番號ヲ附スヘシ
- 此ノ番號ハ整理上最モ重要ノモノナルヲ以テ缺號又ハ重複ナキ様注意スヘシ
- 疑似症ニシテ非認ノ確定ヲ與ヘラレタル者ト雖モ一度記入シタルモノハ此ノ番號ヲ逐フヘシ
- 第六 性ハ印刷シアル男女孰レカ一字ノ右側ニ朱點ヲ施コシテ示スヘシ

第七 氏名不詳ノ者ニ在リテハ其ノ欄ニ不詳ト記入スヘシ

第八 年齢ハ生年月ヲ記入スヘシ

生月不詳ノ者ニ在リテハ月字ノ上ニ「不詳」ト記入シ生年不詳ノ者ニ在リテハ年字ノ上ニ「推定何歳」ト記入スヘシ

第九 住所ハ成ルヘク詳細ニ記入スヘシ戸主以外ノ者例ヘハ家族、雇人、同居人、宿泊人等ニ在リテハ戸主ノ氏名ヲ示シ「何某方」ト記入スシヘシ

行旅病人等ニシテ住所不定ノ者ニ在リテハ不詳ト記入シ備考ニ其ノ「不詳」ナル所以ヲ記入スヘシ

第十 職業ハ患者自身ニ職業ヲ有スル者ニ在リテハ「自身ノ職業」ノ下ニ其ノ職業名ヲ記入シ「家計ノ職業」ノ下ニ「無シ」ト記入シ「家計ノ職業」ノ下ニ家計ノ職業名(即チ所帯主ノ職業名)ヲ記入スヘシ又雇人ニ在リテハ「自身ノ職業」ノ下ニ朱線ヲ引キ「家計ノ職業」ヲノミ記入スヘシ

身分ハ戸主、家族、雇人等ニ分チ其ノ當レルモノヲ記入スヘシ

第十一 發病ノ項ハ其ノ日時及場所ヲ記入スルモノトス

發病ノ時刻不詳ナル者ニ在リテハ時字ノ上ニ「不詳」ト記入シ日不詳ナル者ニ在リテハ日字ノ上ニ「不詳」ト記入シ月日不詳ナル者ニ在リテハ月字ヲ跨キテ「不詳」ト記入スヘシ

發病ノ場所ハ成ルヘク詳細ニ記入スヘシ其ノ場所住所ト同一ナル者ニ在リテハ「住所ニ於テ」ト記入シ其ノ場所不詳ノ者ニ在リテハ届出又ハ發見ノ際患者若クハ屍體ノ現在セル場所ヲ發病ノ場所ト做シ之ヲ記入シ備考ニ其ノ旨ヲ記入スヘシ

第十二 届出又ハ發見ノ項ハ其ノ日時場所及届出又ハ發見ノ事由ヲ記入スルモノトス日時ハ届出ニ在リテハ其届書ヲ受付タル時ヲ記入シ發見ニ在リテハ検査委員又ハ豫防委員中ノ醫師若クハ特ニ命シタル醫師ノ診定シタル時ヲ記入スヘシ

届出又ハ發見ノ場所發病ノ場所ト同一ナル者ニ在テハ「發病ノ場所」ト記入スヘシ
届出又ハ發見ノ事由ハ印刷シアル文字ノ中其ノ當レル一右側ニ朱線ヲ引キテ示スヘシ此ノ文字ヲ以テ示シ能ハサル事由アルトキハ下ノ餘白ニ適當ノ記入ヲ爲スヘシ

第十三 主治醫ノ項ハ其ノ氏名及住所ヲ記入スヘシ主治醫無キモノニアリテハ「無シ」ト記入スヘシ

第十四 療養ノ場所ハ病院病舎ニ於テ爲ル者ニ在リテハ其ノ病院病舎ノ名稱ヲ記入シ發病ノ場所又ハ住所ニ於テ爲ル者ニ在リテハ「發病ノ場所」又ハ「住所」ト記入シ其ノ他ノ場所ニ於テ爲ル者ニ在リテハ其ノ場所ヲ成ルヘク詳細ニ記入スヘシ

發病ノ場所以外ニ於テ療養ヲ加フル者ニ在リテハ患者ヲ其ノ場所ニ轉移セシメタル日時ヲ記入スヘシ此ノ轉移セシムヘキ場所所管内ナルトキハ到達シタル時ヲ又所管外ナルトキハ出發シタル時ヲ其ノ時ト爲スヘシ

第十五 轉歸ノ項ハ其ノ日時及轉歸ノ種別ヲ記入シ之ニ屍體ノ處置ヲ附記スヘシ

轉歸ノ時ハ治癒轉歸ヲ取りタル者ニ在リテハ月日ヲ死亡轉歸ヲ取りタル者ニ在リテハ月日及時ヲ記入スヘシ

轉歸ノ種別ハ治癒死亡孰レカ當レル文字ノ右側ニ朱線ヲ引キテ示スヘシ治療中ノ患者ヲ所管外ニ轉移セシメタル場合ニハ下ノ餘白ニ「未治」ト記入シ備考ニ其ノ旨ヲ記スヘシ

屍體ノ處置ハ火葬埋葬孰レカ當レル文字ノ右側ニ朱線ヲ引キテ示スヘシ屍體ヲ所管外ニ搬送シタル者ニ在リテハ下ノ餘白ニ屍體ヲ他管ヘ搬送ト記入スヘシ

第十六 傳染病者發生報告票ヲ進達スル場合ニハ表面ノ前部上欄ニ其ノ月日ヲ記入シ下ノ餘白ニ發生報告票トノ割印ヲ捺スヘシ又傳染病轉歸報告票ヲ進達スル場合ニハ表面ノ後部上欄ニ前同様に記入及捺印ヲ爲スヘシ

第十七 注意事項ハ防疫上特ニ注意スヘキ事項ヲ記入シ置クモノトス醫師ノ檢疫委員ヲ置キタル場合ニハ其ノ檢疫委員ハ主任吏員ヲ補助シ此ノ記入ニ遺漏ナカラシムコトヲ期スヘシ

第十八 著明ナル傳染系統ノ項ハ例ヘハ「同病者ト同居ス」又ハ「同病ノ患家ト交通ス」又ハ「同病患家ノ贈物ヲ食ス」又ハ「同病患家ノ使用スル水ヲ使用ス」等ノ如キ傳染ノ系統トシテ著明ナル事實アリタル場合ニ於テ之ヲ記入スヘシ

著明ノ事實無キ場合ニハ「無シ」ト記入スヘシ

第十九 嘗テ罹リタルコトノ有無ノ項ハ印刷シアル文字ノ右側ニ朱點ヲ施シテ其ノ有無ヲ示スヘシ

有無不詳ノ者ニ在リテハ此ノ部ニ「不詳」ト記入スヘシ
嘗テ本病ニ罹リタルコト有ル者ニ在リテハ其ノ罹リタル當時ノ年月ヲ記入スヘシ其ノ年月不詳ノ
モノニ在リテハ月字ノ上ニ不詳ト記入シ年月不詳ノ者ニ在リテハ年字ヲ跨キテ「不詳」ト記入スヘ
シ

「二回又ハ二回以上罹リタル者ニ在リテハ最モ近キ一回ノ年月ヲ記入シ下ノ餘白ニ「此ノ以前ニ何
回ト記入スヘシ」

第二十 嘗テ本病ニ對シ免疫方法ヲ行ヒタルコトノ有無ノ項ハ印刷シアル文字ノ右側ニ朱點ヲ施シ
テ其ノ有無ヲ示スヘシ有無不詳ナル者ニ在リテハ此ノ部ニ「不詳」ト記入スヘシ
其ノ事有ル者ニ在リテハ行ヒタル方法ト行ヒタル時トヲ記入スヘシ方法ハ種痘、豫防接種、免疫
血清注射等適當ノ文字ヲ以テ之ヲ示スヘシ二回又ハ二回以上行ヒタル者ニ在リテハ方法ノ下ニ括
弧ヲ附シ其ノ回数ヲ記入スヘシ行ヒタル時ハ二回又ハ二回以上行ヒタル者ニ在リテハ其ノ最モ近
キ一回ノ時ヲ記入スヘシ(種痘ニ在リテハ最モ近キ善感種痘ノ時ヲ記入スヘシ)行ヒタル月ノ不詳

ナル者ニ在リテハ月字ノ上ニ春又ハ秋等ノ季節名ヲ記入シ季節モ亦不詳ナル者ニ在リテハ此ノ部
ニ「不詳」ト記入シ年月不詳ナル者ニ在リテハ年字ヲ跨キテ「不詳」ト記入スヘシ

第二十一 患家及周圍ノ狀況一斑ノ項ハ患家ノ室數其ノ現住人員其ノ生活ノ程度及其ノ周圍ノ狀況
ヲ記入スルモノトス

患家ノ室數ニハ其ノ疊數ヲ附記スヘシ起臥スヘキ室ニシテ疊ヲ用キサルモノアルトキハ一坪ヲ二
疊ト爲シ計算スヘシ

現住人員ハ届出又ハ發見ノ當時ノ現住人員ヲ計算シ記入スヘシ

生活ノ程度ハ之レヲ卑、中、高ノ三階級ニ分チ孰レカ當レル文字ノ右側ニ朱點ヲ施シテ示スヘシ其
ノ場合ニ於ケル生活ノ程度ノ階級ハ諸般ノ事態ニ徴シ所謂窮民貧民乃至其ノ日稼キノ者ヲ卑ト爲
シ食ニハ肉ヲ絶タス出ツルニ車アル所謂上流社會ノ者ヲ高ト爲シ此ノ兩者ノ中間ニアル者ヲ中ト
爲スト雖要スルニ土地ノ狀況ニ應シ各人ノ見込ヲ以テ定ムルモノトス

周圍ノ狀況ハ患家ハ人家稠密ノ地ニ在ルヤ將タ稀疎ノ地ニ在ルヤ及其ノ附近ハ清潔ナルヤ將タ不

潔ナルヤニ就テ其ノ當レル文字ノ右側ニ朱線ヲ引キテ示スヘシ 但稠密ト稀疎及清潔ト不潔トノ分界ハ是亦土地ノ狀況ニ應シ各人ノ見込ヲ以テ定ムルモノトス 印刷シアル文字以外ニ於テ特ニ記入シ置クヘキ必要アリト認ムル事實アラハ下ノ餘白ニ之ヲ記入スヘシ

第二十二 飲料水ノ項ハ印刷シアル文字ノ中孰レカ當レル一又ハ一以上ノ右側ニ朱線ヲ引キテ之ヲ示スヘシ 印刷シアル文字ヲ以テ示シ能ハサル場合ハ適當ナル文字ヲ下ノ餘白ニ記入スヘシ 改良水道水及井水ヲ用ユル者ニ在リテハ更ニ専用ノ別ヲ其ノ文字ノ右側ニ朱線ヲ引キテ示スヘシ

第二十三 豫防措置ノ中消毒方法施行ノ一斑ノ項ハ其ノ狀況ノ大略ヲ摘ミテ記入シ且ツ印刷シアル文字ノ下ニ之ニ從事シタル吏員及使役シクル消毒人夫ノ員數ヲ記入スヘシ

第二十四 消毒藥品消耗高ノ項ハ消毒施行ノ爲メ消耗シタル消毒藥品ノ量ヲ各藥品別ニ記入スルモノトス即チ石炭酸、昇汞、生石灰ハ各印刷シアル文字ノ下ニ其ノ量ヲ記入シ其ノ他ノ消毒藥品ハ「其他」ノ下ニ品目ヲ示シテ記入スヘシ

石炭酸、昇汞、生石灰ノ孰レカ一又ハ一以上ヲ使用セサル場合ニ於テハ其ノ文字ノ下ニ「無シ」ト記入スヘシ

第二十五 隔離ノ項ハ本患者發生ノ爲メニ隔離セシメタル人員ト其ノ隔離ノ場所トヲ記入スルモノトス一個以上ニ隔離セシメタル場合ニハ其一個以上ヲ併記スヘシ 隔離セシメタル者無キトキハ人員ノ下ニ無シト記入スヘシ

第二十六 遮斷ノ項ハ本患者發生ノ爲メニ交通遮斷ヲ行ヒタル戸數ト人員トヲ記入スルモノトス交通遮斷ヲ行ハサリシ場合ニ於テ戸數ノ下ニ「無シ」ト記入スヘシ

第二十七 實布埤里亞、赤痢、腸窒扶私、虎列刺、ペストニ在テハ血清療法ヲ行ヒタルコトノ有無ノ項ハ印刷シアル文字ノ右側ニ朱點ヲ施シテ其ノ有無ヲ示スヘシ 血清療法ヲ行ヒタル者ニ在リテハ其ノ血清ノ種類ト分量及行ヒタル時間數ヲ記入スヘシ

血清ノ種類ハ實布埤里亞血清ニ在リテハ第一號、第二號、第三號及乾燥血清ノ別ニ他ノ血清ニ在リテハ其ノ製造所別ニ記入スヘシ 種類不詳ノ場合ニハ單ニ「某血清」トノミ記入シ其ノ下ニ括弧ヲ

附シ「種類不詳」ト記入スヘシ
 血清ノ分量ハ乾燥血清ヲ除ク他ノ質布埜里亞血清ニ在テハ個ヲ其ノ他ノ血清ニ在テハ瓦ヲ單位ト
 爲シ用キタル總量ヲ掲クヘジ
 時ハ二回以上注射シタル場合ニ於テハ最初ノ時ヲ記入スヘシ行ヒタル時刻不詳ノ場合ニハ時字ノ
 上ニ「不詳」ト記入スヘシ

二回又ハ二回以上注射シタル場合ニ於テハ最初ノ一回以外ノ同數ヲ回字ノ上ニ記入スヘシ單ニ一
 回ノミ注射シタル場合ニ於テハ回字ノ上ニ「無シ」ト記入スヘシ
 第二號様式 傳染病發生報告票

第二十八 本票ハ總テ傳染病臺帳ノ記載ニ基キ記入スヘシ

第二十九 本票ノ前部下欄ニハ警察署名ヲ記入スヘシ

第三十 病名ハ本票進達ノ當時傳染病臺帳ニ記載シアル病名ヲ記入スヘシ

第三十一 番號ハ傳染病臺帳ノ番號ニ年次ヲ冠シテ記入スヘシ

第三十二 (一)ノ項ハ此ノ記載例ノ第六、第七、第八、(二)ノ項ハ第九、(三)ノ項ハ第十、(四)ノ
 項ハ第十一、(五)ノ項ハ第十二、(六)ノ項ハ第十三、(七)ノ項ハ第十九、(八)ノ項ハ第二十、(九)
 ノ項ハ第二十二、(十一)ノ項ハ第二十五及第二十六、(十二)ノ項ハ第十四ニ於テ定ムル所ニ準ヒ
 記入スヘシ

第三十三 本票ヲ進達スルニ臨ミ票ノ後部上欄ニ進達月日ヲ記入シ取扱主任吏員及之ヲ補助シタル
 檢疫委員ハ檢印ヲ捺シテ記入ノ誤謬無キコトヲ證シ且ツ欄外ニ點線ヲ以テ示シタル部分ニ傳染病
 臺帳トノ割印ヲ捺スヘシ

第三號様式 傳染病者轉歸報告票

第三十四 本票ハ總テ傳染病臺帳ニ基キ記入スヘシ

第三十五 本票ノ前部下欄ニハ警察署名ヲ記入スヘシ

第三十六 病名ハ本票進達ノ當時傳染病臺帳ニ記載シアル病名ヲ記入スヘシ疑似症等ニシテ發生報
 告票進達ノ當時ト病名ノ相違ヲ來シタルモノニ在リテハ其ノ所以ヲ本票ノ備考ニ記入スヘシ

第三十七 番號ハ此ノ記載例ノ第三十一、(一)ノ項ハ第七、(二)及(三)ノ項ハ第十五、(四)ノ項

ハ第二十七ニ於テ定ムル所ニ準ヒ記入スヘシ

第三十八 本票ヲ進達スルニ臨ミ第三十三ニ於テ定ムル所ニ準ヒ記入及捺印ヲ爲スヘシ

第三十九 届出又ハ發見ノ當時患者既ニ死亡ノ轉歸ヲ取リタル者ニ在リテハ發生報告票ニ轉氣報告

票トヲ同時ニ進達スヘシ

第四十 疑似症患者ニシテ發生報告票進達前ニ非認ノ確定ヲ與ヘラレタル者ニ在リテハ發生報告票ノ前部及(一)乃至(六)ノ項ノ記入ヲ爲シ備考ニ其ノ確定ノ旨ヲ記入シテ進達シ轉歸報告票ノ進達ヲ要セス

第四十一 疑似症患者ニシテ發生報告進達ノ後ニ非認ノ確定ヲ與ヘラレタル者ハ轉歸報告票ノ前部及一ノ項ノ記入ヲ爲シ備考ニ其ノ確定ノ旨ヲ記入シ進達スヘシ

第四十二 甲警察署ニ於テ發生報告票ヲ進達シタル患者病院病舎ニ入院入舎スルニ非スシテ乙警察署ノ所轄内ニ轉移シタル場合ニハ甲警察署ハ其ノ旨ヲ傳染病臺帳ノ備考ニ記入シ彙ニ進達シタル

發生報告票ノ寫ヲ乙警察署ニ送り其ノ轉歸ノ日ト做シ其ノ旨ヲ備考ニ記入シタル轉歸報告票ヲ進達スヘシ又此ノ場合ニ乙警察署ニ於テハ新ニ發生シタル患者ト同様ニ傳染病臺帳ニ記入シ此備考ニ轉移シ來リタル者ナル旨及甲警察署ニ於テ付シタル番號ヲ「某警察署何號」ト記入シ此備考ト一ノ記入ヲ爲シタル發生報告票ヲ進達シ患者轉歸ニ至リタル時普通ト同様ニ轉歸報告票ヲ進達スヘシ

第四十三 治療中ノ患者所管外ニ轉移シタルトキハ其ノ出發ノ時ヲ轉歸ノ時ト做シ轉歸報告票ヲ進達スヘシ

第四十四 治療中ノ患者所管外ヨリ轉移シ來リタルトキハ其ノ到着ノ時ヲ發見ノ時ト做シ新ニ發生シタル患者ト同様ニ取扱ヒ備考ニ其ノ旨ヲ記入シタル發生報告票ヲ進達スヘシ

第四號 様式

何 警 署 (分) 署

何町村(何傳染病院) 防疫設備調査報告

第十八輯 傳染病

項目	概要	要
位置及設立年月日	位置 何村字 何番地 ● 設立年月日 明治.....年.....月.....日	
坪數	敷地坪數.....坪 ● 建物坪數.....坪 ● 棟數.....棟	
病室數及其坪數並患者收容定員	輕症室.....室..... ● 重症室.....室 ● 快復期室.....室..... ● 坪 ● 收容定員.....人	
病室ノ構造設備	寢臺ヲ用ユル構造ナルヲ以テ總テ板間ナリ、周壁ハ板壁ニシテ後面ノ上部ニ無窓ヲ設ケ換氣方法至テ可ナリ、地盤ハ漆喰敷ニシテ相當ノ勾配ヲ有シ洗滌ニ便ナリ	
職員室、看護人室及調劑室ノ坪數	職員室.....坪 ● 看護人室.....坪 ● 調劑室.....坪	
炊事場ノ構造及設備	地盤ハ不滲透質物ヲ以テ構造セサルカ故ニ汚水地下ニ滲透ノ虞アリ汚水ハ土管ヲ經テ屋外ノ汚水溜ニ注ケ	
浴場及洗濯所	特ニ浴場ノ設ナキモ風呂桶.....箇アリ ● 洗濯所ハ井戸端ニ設ケ其ノ汚水溜ハ「コンクリート」敷ニシテ地下ニ滲透ノ虞ナシ	
便所	便所ハ患者室、職員室ニ各一箇所ヲ附屬ス構造完全ナラスト雖便壺ハ和藥ヲ施シタル陶器ヲ用キ其ノ周邊ハ漏斗狀ノ「セメント」敷ニシテ地下ニ滲透ノ虞ナシ	
消毒設備	消毒所ハ坪數.....坪ニシテ地盤ハ漆喰敷ナリ、蒸汽汽罐、煮沸消毒器、消毒藥定量器、溶解器、散霧器等總テ全備セリ	

衣服臥具什器等ノ設備	寢臺.....個 ● 上ハ蒲團.....枚 ● 敷蒲團.....枚 ● 消毒衣.....枚アリ
患者及汚物等運搬用器具	患者運搬用擔架.....個 ● 汚物運搬器具.....個アリ皆新調ニ非サレトモ當分使用ニ堪ユヘシト認ム
消毒藥品ノ準備	石炭酸.....磅 ● 昇汞.....磅 ● 生石灰.....罐 ● 鹽酸.....磅其他.....ヲ準備シ閉鎖中ハ之ヲ村役場ニ保管セリ
用水	雜用水ハ構内ノ井水ヲ用フ水質不良ナリ ● 飲料水ハ病舎ヲ距ル凡ソ.....丁ノ泉水ヲ用フ水質佳良ナリ
職員ノ種別人員	醫師.....名 ● 調劑員.....名 ● 看護人.....名 ● 小使.....名皆常駐ナリ
其他	

備考 本傳染病院ハ人家ノ聚落ヲ距ル凡ソ.....丁ノ山腹ニ在リテ通路狹隘交通甚タ險惡ナリ、構内

下水排除ノ方法ハ頗ル不完全ニシテ屋後ニ於テ吸ヒ込ミト爲レリ然レトモ近傍ニ水流等ナキヲ以テ危險少ナカルヘシ、家屋ハ所々ニ朽腐シ修繕ヲ要スル場所多シ
 以上各項ニ涉リ調査シタル事項ノ内修理ヲ要シ又ハ設備ヲ要スト認メタルモノハ夫夫町村長ニ協議シ町村長ハ之ヲ來ル.....月迄ニ整頓スル筈ナリ

記載例

- 一 各項目ノ行ニ記載シタル概要ハ成ルヘク全部ノ報告ヲシテ詳約等シキニ從ハシメムトノ計畫ニテ單ニ一例ヲ示シタルニ過キス
- 二 「其ノ他」ノ項ニハ各項目以外ニ涉リ特ニ必要アリト認メタル事項ヲ記載スヘキモノトス
- 三 隔離所消毒所ノ調査報告ハ本様式ニ準スヘキモノトス

傳染病患者送院手續市役所へ回答ノ件

明治三十二年八月三ノ衛第二八三二

號第三部長ヨリ
各署長へ通牒

患者送院ノ件ニ關シ別紙ノ通り東京市役所ノ照會ニ對シ異存無之旨回答方取計候條去三十年訓令甲第三十一號ニ依ルノ外尙本手續ニ依リ御取計相成度此段及通牒候也

(別紙)東京市役所照會

患者送院方ノ義ハ明治三十年六月(警視廳訓令甲第三十一號傳染病豫防手續第十七條)ノ規定ニ準據スヘキハ勿論ニ候得共尙ホ左項ニ從ヒ取扱方各區長へ通達致度候貴廳ニ於テ御異存無之候哉至

急御回報相成度此段及照會候也

- 一 盛夏炎熱季中ニ限リ午前ハ可成四時ヨリ送出シ九時迄ニ午後ハ五時ヨリ送出シ十一時迄ニ著院スヘキヲ要ス炎天中及深夜中ハ送院ヲ見合スヘキコト 但盛夏炎熱季外ト雖モ午後ハ可成十一時ニ著院ヲ要スルコト

傳染病豫防法第三條第九條ニ關スル通牒

明治三十一年一月警視廳
第三部長通第三七號

傳染病豫防法第三條ニ於ケル醫師ノ責任及制裁ノ點竝ニ同法第九條ノ規定ニ就テハ或ハ見解ヲ異ニスルノ虞ナシトセス萬一各警察署ノ取扱區區ニ相成候テハ不都合ニ付左ノ事項御了知被置度依命此段及通牒候也

傳染病豫防法

第三條 本條ニ届出ノ責任ハ專ラ醫師ニ屬スルヲ以テ假令其届ヲ患者ノ者等ニ依託シタル爲メ遲

第十八輯 傳染病

延ニ涉リシ場合ト雖モ尙ホ其責任ハ免カルコトヲ得サルモノトス
同條末段轉歸ニ係ル届ヲ忘リタル者ニ對シテハ別ニ制裁ナキモノトス

第九條 本條ニ依リ患者又ハ死體ヲ他ニ移サントスルトキハ當該官吏ノ認可ヲ要スヘシト雖モ醫師ノ宅ニ於テ傳染病ト診定シタル患者ヲ自宅ニ歸ヘス場合ノ如キハ認可ヲ經ルニ及ハサルモノトス

傳染病豫防法疑義ノ件

明治三十年六月
通第五八號ノ四

赤坂警察署ヨリ第三部へ照會 三十年五月乙
第一〇一九號

本年三月法律第三十六號傳染病豫防法ハ本月一日ヨリ施行相成候處左記各項ノ通り聊カ疑義ヲ生シ候ニ付テハ御意見如何ニ候哉回答煩度此段及御照會候也

一 傳染病豫防法第三條ノ前段(患者死體)届出ノ時限ハ同法第三十條ニ依リ十二時間ヲ經過スルヲ得サルヲ知リ得タリ然ルニ後段轉歸(全治死亡)届出ノ時限ニ關シ直ニトアリシノミ法律上何

等ノ明文ナシ右ハ前段ノ例ニ依リ十二時間トスヘキヤ將タ一般ノ例ニ倣ヒ二十四時間ヲ以テ届出ノ時限トスヘキヤ

二 同法第九條ノ傳染病患者及ヒ死體ヲ他ニ移ストハ單ニ人民ノ便宜ニ依リ他ニ移サントスルトキノミノ規定ニシテ同法第七條ニ依リ當該吏員ニ於テ必要ト認メ傳染病院又ハ隔離病舎ニ移ストキ又ハ死體ヲ燒却ノ爲メ火葬場ニ移ストキノ如キハ同條ニ包含セサルモノト解シテ然ル可クヤ

三 同法及ヒ同法施行規則ヲ見ルモ傳染病患者ハ病室ノ外ニ出ルヲ禁スルノ明文ナシ(交通遮斷ノ場合ヲ除ク)故ニ同病患者ニシテ診察ヲ乞フ爲メ醫師ノ診察所又ハ病院ニ行キ若クハ行カシメ或ハ運動ノ爲メ市中郊外等ヲ散歩シタル者ノ如キハ同條ノ移シタルモノト云フヲ得サルカ如シト雖モ猶ホ患者ヲ移シタルモノトシ同法第三十一條ニ照シ處分スヘキモノナルヤ

四 同法第九條ノ法文ヲ一讀スレハ「患者ハ云々他ニ移スコトヲ得ス」トアリテ患者ヲ他ニ移シタル他人ノミ責任アリテ患者自身ハ何等ノ責任ナキカ如シ爾カ解釋シテ然ル可クヤ

五 然リト雖モ一家ノ戸主ニシテ(他ハ悉ク幼若)自身ノ考定ニ因リ他ニ移轉シタル場合ノ如キハ他ニ移シタルモノナキヲ以テ患者自己ニ於テ自身ヲ他ニ移シタルモノトシ患者ヲシテ其責ニ任セシメ然ル可クヤ

六 同法第十二條ノ法文ニ依レハ最モ劇烈ナル傳染病患者ノ死體ト雖モ他ニ傳播ノ虞ナキトキハ舊傳染病豫防取締規則執行心得第六十五條ノ條件ナク之レヲ許可シテ差支ナキカ如シ爾カ取扱フテ然ル可クヤ

七 同法第十四條及ヒ同法施設規則第九條ノ證票ヲ示ス可キ義務アル當該吏員ノ中ニハ制服ヲ著用シタル警部巡查ヲ包含セサルモノト解シ然ル可クヤ

八 同法施行規則第九條ノ「成ルヘク」トノ精神ハ例ハ日没前ニ發生シタル傳染病事故ハ當該吏員ノ都合如何ニ拘ラス急速處分ニ著手シ即チ成ルヘク日没前ニ於テ終了スヘシトノ注意ナルヤ將タ日没後ニ發生シタル傳染病事故ハ當該吏員ノ都合如何ニ拘ラス成ルヘク翌日出後ニ至ル迄著手ス可カラストノ精神ナルヤ

九 若前項後段ノ通リトスレハ例ハ茲ニ午後九時ニ發生シタル虎列刺病患者アリタルトキハ當該吏員ハ休息シ居リテ翌日出後迄著手セスシテ可ナルモノナルヤ

第三部回答(六月十七日)

傳染病豫防法中疑義ノ庶客月二十九日付乙第一〇一號ヲ以テ御質議ノ趣了承右ハ左記ノ通御承知相成度此段及御回答候也

第一項 前段ノ通

第二項 御見解ノ通

第三項 處分スルノ限ニアラス

第四項 御見解ノ通

第五項 患者ヲ處罰スルノ限ニアラスト雖モ可成法文ニ據リ取締ヲ要ス

第六項 傳染病豫防手續第二十二條ニ依ル

第七項 制服著用シタル場合モ包含ス

第八項 本項ノ場合ハ施行規則第四條ニ依ル
第九項 同上

(參考) 市町村傳染病豫防手續 明治三十年六月
警視廳通第五七號

傳染病豫防手續市町村へ訓令候趣別紙ノ通東京府知事ヨリ通牒候條及御通知候也
(別紙) 明治三十年六月十四日東京府知事發
(警視廳通第五七號)

傳染病豫防手續別紙ノ通市町村へ及訓令候ニ付テハ右施行上ニ關シ市町村長ヨリ警察署長又ハ警察
分署長へ協議候節ハ便宜措置相成候様致度通牒旁此段申進候也
東京府訓令第十六號

郡 市 町 村

傳染病豫防手續左ノ通定メ候右施行ニ關シテハ所轄警察署長又ハ警察分署長ト協議シ便宜處理スヘ
シ

明治三十年六月十二日 東京府知事 候 爵 久 我 通 久

傳染病豫防手續

第一條 傳染病ノ豫防ハ明治三十年法律第三十六號傳染病豫防法同年內務省令第十一號傳染病豫防
法施行規則第十三號清潔方法消毒方法ニ依ルノ外尙本手續ニ依リ豫防ノ周到ヲ計ルヘシ

第二條 傳染病者アリタルトキハ不取敢警察官吏ニ急報シ即時傳染病豫防法施行規則第四條ニ依リ
其家ニ臨ミ豫防消毒ヲ行ハシムヘシ

第三條 患者又ハ死體吐瀉物其他病毒ニ汚染セル物品ヲ運搬スヘキ器具人夫竝消毒用器具及藥品等
ハ警察署長又ハ警察分署長ト協議シ豫メ備置クヘシ

第四條 患者死者ニ就テハ左ノ事項ヲ調査シ町村長ハ速ニ郡長ニ報告シ豫防上他ノ區町村内ニ關係
ヲ有スルトキハ其ノ區役所又ハ町村役場ニ直ニ通牒スヘシ

- 一 患者住所氏名年齡身分職業
- 二 發病發見ノ日時場所
- 三 傳染ノ系統

第十八輯 傳染病

第十八輯 傳染病

曲尺五寸				曲尺五寸	
何何				病者	
第何號				者轉	
月 日 署 名				病患	
署 印				全治	
曲尺五寸				曲尺五寸	
考備				書查調者患病	
月 日				主治醫	
轉 歸				住 所	
名 氏				名 氏	
場 所				場 所	
療 養				療 養	

四 療養場所
五 轉 歸

(別紙)
樣式

曲尺五寸				曲尺五寸	
何 何				第何號	
月 日 署 名				月 日 署 名	
曲尺五寸				曲尺五寸	
考備				書查調者患病	
月 日				主治醫	
轉 歸				住 所	
名 氏				名 氏	
場 所				場 所	
療 養				療 養	

備考

- 一 本樣式ノ患者調査及報告用紙ハ傳染病ノ種類毎ニ之ヲ分チ帳簿ニ作り紙數ハ表紙ヲ附シ豫テ備ヘ置ク事
- 二 本樣式署名欄内ノ月日ハ報告書發送當日ノ月日ヲ記入スル事

- 三 本樣式ノ番號ハ傳染病ノ種類毎ニ之ヲ分チ各一號ヨリ順次追記シ缺號ナラサル様注意シ又樣式「ロ」「ハ」號ノ番號ハ「イ」號ノ番號ト同一ノ番號ヲ記入スル事 但本項ノ番號ハ毎年之ヲ改メ年初發ノ患者ヲ以テ一號トスル事
- 四 本樣式「ロ」號報告書送致ノ後主治醫ヲ變更シタルモノアルトキ「ハ」號轉歸報送致

曲尺五寸二分										曲尺七分		
書告報査調者患病何何										第何號	(口號)	
考備	月日	轉歸	氏名	住所	主治醫	療養場	月日	屆出	職業			氏名
署印												
署名												

ノトキ其裏面ニ事由ヲ朱書スル事

五 女名ハ片假名ヲ以テ記載スル事

六 甲署ニテ「ロ」號報告書送致後其患者乙署管内ニ移轉シ乙署ニ於テ其患者全治又ハ死亡ノ報ヲ得タルトキハ之ヲ甲署ニ報告シ甲署ヨリ「ハ」號轉歸報ヲ本廳主務部ニ送致スル事

七 本様式ノ事項外附記スヘキ要項アルモノハ總テ備考欄内ニ記入スル事

第五條 左ノ各項ニ該當セルモノハ傳染病院又ハ隔離病舎ニ入ラシムヘシ 但第一項第五項ニ係ル

モノニレテ健康者ヲ隔離所ニ入ラシムルトキハ本條ノ限ニアラス

- 一 家族ノ居間ト隔離シ療養スヘキ室ナキモノ
 - 二 專従スヘキ看護人ナキモノ
 - 三 主治醫ナキモノ
 - 四 患者ニ專川スヘキ家具什器ヲ有セサルモノ
 - 五 前各項ノ外飲食店宿屋其他多數ノ家族同居人アリ豫防方行届キ難シト認ムルモノ
- 第六條 移送スヘキ患者ハ其病狀ニ依リ湯水凍氷嗽盤其他必要ナル藥品ヲ携帶セシムヘシ
- 第七條 移送スヘキ患者ニシテ左項ニ係ルトキハ一時移送ヲ停止スヘシ
- 一 患者危篤ニシテ途中死亡ノ虞アルトキ
 - 二 風雨降雪又ハ盛夏炎熱ノ時間
- 第八條 傳染病院又ハ隔離病舎ニ入ルヘキ患者ノ附添看護ヲ請フモノアルトキハ一名ヲ限り許スヘシ

第十八輯 傳染病

シ痘瘡患者ノ看護人ハ痘瘡瘡ノ者又ハ種痘瘡ノ者ニ非レハ許可スヘカラス

第九條 自宅ニ療養スル患者ニ對シ左ノ事項ヲ指示シ病毒傳播ノ防遏ヲ計ルヘシ

- 一 病室ニハ成ルヘク交通ヲ絶タシムヘシ
 - 二 病者ニ供シタル飲食物ハ消毒ノ上一定ノ場所ニ投棄シ器具ハ使用ノ都度消毒セシムヘシ
 - 三 病室内ニ於テハ患者ノ外飲食セシムヘカラス
 - 四 患者ノ吐瀉物及病毒ニ汚染セル物品ハ蚊蠅ノ集ラサル様注意セシムヘシ
 - 五 病室内ノ塵芥ハ覆蓋アル器物ニ溜置キ焼却セシムヘシ
 - 六 汚染物其他焼却スヘキ物品ハ一定ノ場所ニ於テ焼却セシムヘシ 但患家ニ於テ焼却シ難キモノハ火葬場ニ送り焼却セシムヘシ
 - 七 患者ヲ他室ニ移シタルトキハ即時前室ヲ消毒セシムヘシ
 - 八 患者ノ沐浴シタル湯水ハ消毒ノ上無害ノ地ヲ選ミ投棄セシムヘシ
- 第十條 自宅療養ノ患家第九條ヲ施行セス爲ニ病毒傳播ノ虞アリト認ムルトキハ即時傳染病院又ハ

隔離病舎ニ入ラシムヘシ

第十一條 病毒井戸ニ混入シ又ハ病毒含有ノ虞アルトキハ直ニ該井戸ノ使用ヲ禁シ其水量五十分一ノ鹽酸又ハ粗製鹽酸ヲ投入攪拌シ釣瓶及繩等ヲ消毒シ二十四時間後井戸浚ヲ爲シ淨水ヲ以テ井側ヲ洗滌セシムヘシ

第十二條 患者又ハ死體ノ沐浴ヲ請フモノアルトキハ警察官吏ト協議シ差支ナキ者ニ限り之ヲ許シ移轉地ノ町村役場又ハ區役所ヘ通報スヘシ

第十三條 死體ハ總テ沐浴セシム可ラス又二十四時間内ニ火葬セシコトヲ申出ル者アルトキハ醫師ノ檢案ヲ調査シ不都合ナキ者ハ直ニ認可スヘシ

第十四條 交通遮斷ヲ受ケ爲メニ用品ノ購求其他諸用ヲ辨スル雇人ヲ置キ難キ者ハ之ヲ辨セシムル方法ヲ設クヘシ

第十五條 市町村ニ於テ傳染病者ノ診察ヲ爲サシムル爲メ豫メ醫師ヲ指定シ置キ臨時差支ナキ様取計フヘシ

病患者調査申報書

患者ノ住所氏名
職業年齢
發病ノ日時場所
届出日時
傳染ノ系統
患者療養ノ場所 死體ノ處置
室數及現住人員
主治醫氏名
備考
明治 年 月 日 時 市 町 村 長

赤痢病豫防措置事項

明治三十二年四月警
視廳訓令甲第三四號

郡部 警察 分署

府下近來赤痢病ノ流行連年ニ及ヒ昨年ノ如キモ終ニ二千五百有餘ノ患者ヲ出セリ既ニ本年ニアリテ
 モ一月以降三十五名ノ患者ヲ出シ前年當時ノ數ニ比シ本年ニ於テ増加スルコト八名ナリ斯ル狀況ナ
 ルヲ以テ之カ豫防ニ留意シ警戒ヲ嚴ニスルハ目下ノ急務トス且内務大臣ヨリモ之ニ關シ訓令ノ次
 第有之ニ付此際豫防上諸般ノコトニ注意シ就中左ノ事項ニ就テハ殊ニ勵行シテ豫防ノ周到ヲ計ルヘ
 シ

一 傳染病院又ハ隔離病舎ノ設ケナキ町村ニ就テハ其設ヲ促シ實行ヲ期スル事

但病院又ハ病舎ヲ急設スルヲ得サル事情アルモノハ之ニ充用スヘキ家屋ヲ豫定シ置カシ
 ムル事

- 二 在來ノ病舎ハ掃除又ハ修理ヲ爲シ何時開舎スルモ差支ナキ様諸般ノ準備ヲ爲サシムル事
- 三 病院病舎ニ就テハ左項ニ注意シ院舎内ノ整備ヲ爲サシムル事
 - 一 相當ノ學術經驗アル醫師ヲ置ク事
 - 一 素養アル看護婦ヲ置ク事
 - 一 病室及排泄物ニハ蚊蠅ノ集ラサル様嚴ニ防備裝置ヲ爲サシムル事
 - 一 患者ノ糞便所置ニ付テハ殊ニ注意ヲ加ヘ消毒ノ周到ヲ期スル事
 - 一 院舎ノ内外ハ常ニ掃除シ清潔ナラシムル事
 - 一 病室ニハ醫師看護婦及患者訪問人ノ外出入ヲ禁スル事
 - 一 附添看護人ハ可成的制止スル事
 - 一 患者ニ供スル飲食物ニ注意セシメ可成的其取扱ヲ厚遇スル事
 - 一 消毒藥ハ缺乏セサル様豫テ充分備ヘ置カシムル事
 - 一 蒸汽消毒釜ニハ其桶ニ檢温器ヲ設備セシムル事

- 一 病院病舎病室ノ出入口等ノ要所ニハ消毒藥(二十倍ノ石炭酸水以下同シ)及淨水ヲ備ヘ置カシメ患者訪問人等ノ消毒ヲ嚴行セシムル事 但院舎ノ出入口ニハ本項ノ外石炭酸水ヲ充分灌キタル藥又ハ菰或ハ筵等ヲ敷キ置キ訪問人履物ノ消毒ヲ爲サシムル事
- 四 清潔方ノ持續ヲ圖ル事
- 五 工場ニ付テハ其工業主又ハ管理人等ヲ督促シテ左ノ事項ヲ實行セシムル事
 - 一 工場ノ内外ハ常ニ清潔方ノ持續ヲ圖ル事
 - 一 職工等ノ飲食物ニ注意シ且飲料水ハ煮沸シタルモノニ非サレハ供セジメサル事
 - 一 便所ニハ時時消毒藥ヲ撒布スル事
 - 一 職工等ノ寄宿舍アルモノハ其寄宿舍ニ就テモ前各事項ヲ實行スル事
 - 一 赤痢病患者又ハ其疑ヒアルトキハ場内隔離所其設ケナキモノハ或ル場所ヲ畫シ之ニ隔離シ置キ速ニ其向ヘ届出ル事但其患者又ハ疑ヒアル者ト同室ニ起臥シ若クハ接觸セシ者ハ總テ他ノ場所ニ隔離シ併テ其旨届出ル事

- 六 患者ノ隔離ヲ勵行シ患者發生ノトキハ可成の病院又ハ病舎ニ送ル事
- 七 患家ノ交通遮斷ヲ勵行スル事
- 八 患家ノ消毒の清潔法ヲ一層嚴ニ施行セシムル事
- 九 各戸ノ視察ヲ嚴ニ爲シ患者隱蔽ノ弊ヲ防キ若シ患者ノ疑ヒアルトキハ市醫又ハ町村醫ヲシテ檢診セシムル事

憲兵隊外ニ係ル虎列刺病者取扱手續

明治三十一年八月警視廳
通第七六號第三部長通知

憲兵ニ於テ虎列刺病ニ罹ル者取扱手續明治十五年七月當廳達七十八號ノ趣モ有之候處爾來十有七年何等通報ニ接セサルニ付今般現行ノ有無問合セタルニ右ハ既ニ改正シ隊外ニ係ル病者取扱手續左記ノ通り相定候旨回答有之候條此段及通知候也

第一憲往第二〇四號

官第一二四號ヲ以テ當隊ニ於ケル虎列刺病者取扱手續ノ件ニ付御照會ノ趣了承右ハ別紙ニ記載相

成候虎列刺病者取扱手續ハ明治十五年七月十日東京憲兵隊長達ト同文ニ有之該達ハ同十九年八月十一日改正相成現今ハ之ニ準據取扱候義ニ付御參考迄ニ改正手續中隊外ニ係ル病者取扱ノ條項寫相添へ此段及回答候也

追テ別紙寫本及御返戻候也 (別紙略ス)

明治三十一年六月二十二日

第一憲兵隊本部

警視廳 御中

虎列刺病豫防並病者取扱手續拔萃 明治十九年八月十一日

隊外ニ係ル病者取扱手續

第三十四條 途上ニ於テ虎列刺病者アルヲ認メ或ハ之アルノ報知ヲ得タル時ハ其場ニ臨ミ之レカ保護ヲナシ常人ハ警察署ニ急報シ直ニ其掛員ニ引渡ス可シ

但引渡濟之ヲ屯所へ報告ス可シ

第三十五條 陸海軍軍人軍屬ノ途上或ハ旅店等ニ於テ該病ニ罹ル者アルノ報告ヲ得タル時ハ屯所若

第十八輯 傳染病

クハ分屯所ニ於テ左ノ區別ニ據リ處置ス可シ

第一項 陸軍軍人屯營等常住ノ者ニ在テハ陸軍病院ニ輸送シ其旨本人所管ヘ通報ス可シ若シ輸送途中ニ於テ死亡シ或ハ途上ニ於テ已ニ死亡シタル者ノ屍體取扱モ亦同シ

但軍人軍屬ノ營外居住ノモノニ在テハ地方一般ノ例規ニ從フ者トス然レトモ願ニ依リ陸軍避病院ニ入ル者ニ在テハ本項ニ依リ取扱フ可シ

第二項 海軍軍人ニシテ艦船營病院學校兵舎ニ在ル者及艦船雇人ノ虎列刺病ニ罹ル者アル時ハ最寄警察署ヘ引渡シ尙海軍衛生部ヘ通報ス可シ若シ已ニ死亡シタル者アルトキハ屍體取扱モ亦同シ

但在艦ノ軍人ニ於ケルモ此手續ニ據リ取扱フ可シ

第三項 前兩項ノ患者アル時ハ隊外醫官ヲシテ往診セシム可シ然レトモ其地ノ便宜ニ依リ屯所若クハ分屯所ヨリ鎮臺病院若クハ海軍病院ヘ急報シ當直醫官ノ來診ヲ請求シ又ハ地方醫ノ來診ヲ要スルモ妨ケナシ

第三十六條 患者ヲ陸軍避病院又ハ地方避病院ヘ送付スル時ハ送付狀ヲ添ヘ憲兵卒ヲシテ護送セシムヘシ

第三十七條 海軍軍人軍屬ノ該患者アル場合ニ於テハ衛生掛巡查立會ヒタル時ハ協議ノ上便宜處分ス可シ

第三十八條 第三十六條ノ場合ニ於テ輸送人夫輸送器等差支ユル時ハ最寄警察署ヘ依頼スヘシ

第三十九條 何レノ場合ニ於テモ巡查立會ハス憲兵ノミニ於テ處置ヲ竣ル時ハ其所轄警察署ヘ通知シ併テ消毒法及排泄物處置法ヲ該署ヘ依頼スヘシ

第四十條 患者ノ處置ヲ竣リタル後ハ定式報告用紙ヲ以テ本部ヘ報告ス可シ亦患者ノ所管及所轄警察署ヘ通報モ此用紙ヲ用ユルモノトス

六種傳染病有之節 皇宮警察署ヘ通知

明治二十三年一月
警視廳訓令甲第一號

自今六種傳染病有之節ハ住所氏名年齢發病月日並全明死亡共其都度皇宮警察署ヘ通報スヘシ

陸軍軍隊虎列刺病流行地ヨリ無病地へ行軍ノ際軍醫ノ健康證明書ヲ差出ストキハ通行上陸ヲ許ス

明治十九年九月九日
善視廳訓令甲第四六號

陸軍軍隊虎列刺病流行地ヨリ無病地へ行軍シタルトキ健康證書ノ儀ニ付別紙ノ通内務大臣ヨリ訓令相成候條此旨心得ヘシ

(別紙) 明治十九年九月三日

陸軍軍隊虎列刺病流行地ヨリ無病地へ行軍シタルトキ其隊附軍醫ヨリ該軍人ノ健康ヲ證明セシ保證書ヲ検査官ニ出ストキハ直ニ通行若クハ上陸ヲ許スヘシ 但船舶中他ノ旅客ヲ搭載シタルトキハ一般ノ検査ヲ行フヘシ

印刷局内虎列刺病患者取扱方

明治十九年八月訓令甲第四一號

第一條 局員ノ内局内ニ於テ發病者アルトキハ直ニ雇醫員ヲシテ診察セシメ虎列刺病ト診定スルト

キハ相當ノ治療ヲ施シタル上自宅ニ左ノ各項ヲ具ヘ自宅療養不都合ナシト認ムルモノハ之ヲ自宅ニ送付シ其他ノモノハ最寄避病院ニ送付速ニ其旨ヲ患者居宅地ノ所轄警察署ニ申報スヘシ

第一項 家族ノ居間ト隔離シ得ヘキ室

第二項 患者専用ノ便所

第三項 特別ノ看護人

第四項 特別ノ家具什器

第五項 相當ノ主治醫

第二條 前條ノ際ニ於テハ雇醫員ニ於テ診斷書ニ通ヲ認メ一通ハ所轄警察署ニ差出シ一通ハ患者護送人ニ付シ其送先へ交付セシムヘシ

第三條 患者ヲ送付スルハ擔架又ハ釣臺ニ乗セ毛布或ハ蒲團ヲ以テ覆ヒ當局雇人足ヲシテ運搬セシメ守警一名護送スヘシ尤唾壺拭布若干ヲ携帯スヘシ

第四條 患者局内ニ於テ死亡セシトキハ充分消毒法ヲ施シ棺ニ納メ前條ニ準シ埋葬證ヲ添ヘ直ニ火

第十八輯 傳染病

葬場ニ送付シ同時ニ所轄警察署ニ申報スヘシ 但速ニ埋葬證ヲ得難キトキハ一面ハ死屍ヲ送付シ
一面ハ該證ヲ得ルノ手續ヲ爲シテ直チニ之ヲ火葬場ニ送付スヘシ

第五條 排泄物ハ四斗樽ニ入レ密封 キフス或ハチ ヤンヲ用フ シ充分消毒法ヲ施シ第三條ニ定ムル人員ヲ用ヒ

舟ヲ以テ砂村焼却場ニ交付シ之ヲ焼却セシムヘシ (明治十九年八月十六日印刷局通知場合ニ依
リ陸路千住焼却場へ交付スルコトアルヘシ)

第六條 以上ノ手續ヲ經テ交付ヲ終ヘタル後ハ當局ニ於テ關與セサルヘシ然レトモ自宅療養ノ患者
ハ當局雇醫ヲシテ時時該家へ派出シ其攝生及ヒ消毒豫防等ノ可否ヲ注意セシムヘシ

第七條 患者ノ斃レタル場所又ハ汚染セシ箇所ハ充分消毒法施行スルハ勿論其都度所轄警察署檢疫
委員ノ臨檢ヲ受クヘシ

第八條 御備外國人ニ該患者アルトキハ相當ノ治療ヲ施シ居宅へ送付シ 即時警視廳檢疫本部及ヒ所
轄警察署へ通報スヘシ

第九條 以上ノ條款ヲ實行スル場合ニ於テハ豫防委員及ヒ護送ノ 守警ニ印刷局ノ印章ヲ携帯セシム
ヘシ

第十條 患者死屍又ハ排泄物ヲ運搬シタル人夫ハ病院又ハ火葬場ニ於テ出場前消毒法ヲ受ケシムヘ
シ

傳染病ニ罹リタル留置者及押送途中ノ者

ニ關スル取扱手續

明治三十五年十一月
警視廳訓令甲第六〇號

第 一 部
第 三 部
警 署
警 署 分 署

一 警察官署ノ留置場ニ留置中ノ 刑事被告人若ハ換刑囚拘留囚又ハ押送途中ノ者ニシテ傳染病ニ罹リ
タルトキハ直ニ市町村ト協議ノ上傳染病院へ送致ノ手續ヲ爲シ其ノ旨ヲ該病院所在地ノ警察官署
ニ通知スヘシ

第十八輯 傳染病

一前項ノ通知ヲ受ケタル警察官署ハ巡查ヲ病院ニ派遣シテ之カ看守ヲ爲サシメ轉歸ノトキハ直ニ其旨ヲ原警察官署ニ通知スヘシ

一第一項ニ係ル患者直接ノ費用ハ警察費ヨリ支辨スヘシ

在監人獄舍熱ニ罹リ治療滿期放免又ハ保釋

責付ノ際豫防法施行

明治十七年二月
警視廳達第一二號

傳染病者ハ制規ニ據リ處分スルハ勿論ニ候得共在監人ノ内從來獄舍熱ト唱フル病ニ罹リ治療中滿期放免或ハ保釋責付等ノ場合ニ在リテハ監獄署ヨリ其都度本人所在ノ警署署ヘ通知スヘキ筈ニ付キ若シ通報有之節ハ速ニ常備檢疫醫ヲシテ診斷セシメ相當ノ豫防法ヲ施行スヘシ

市町村ニ設置スヘキ避病院設備標準

明治二十八年四月
內務省訓令第四號

市町村ニ設置スヘキ避病院設備標準左ノ通定ム

市町村ニ設置スヘキ避病院設備標準

一避病院ハ消毒法充分ナルトキハ病毒ヲ傳播スルノ虞ナキヲ以テ其建設地ハカメテ患者運搬ノ便利ヲ圖リ道路險惡交通不便ノ地ヲ避クヘシ

一避病院ハ左ノ建物ヲ設クヘシ

一重症患者室

若干棟

一輕症患者室

若干棟

一快復期患者室

一棟

以上ノ建物ニハ各別ニ厠ヲ設ケ且快復期患者室ニハ浴室ヲ備フヘシ

一醫員其他事務員詰所調劑所看護人室及炊事場等

一棟

但浴室厠ヲ備フヘシ

一消毒所

一箇所

但洗濯所ノ附屬ヲ要ス

- 一 屍室
- 一 汚物置場及燒却所
- 一 物置
- 一 簡所
- 一 簡所
- 一 簡所

町村ニ於テハ其狀況ニヨリ重症患者室輕症患者室及快復期患者室ヲ同一建物中ニ區劃シテ設クルコトヲ得

- 一 病室ノ廣サハ患者一人ニ付凡一坪半ノ割合ヲ以テ造ルヘシ
- 一 病室ハ床側壁トモ板張ト爲シ總テ洗滌消毒ニ便スヘシ
- 一 屍室ハ床ヲ漆喰敲キ又ハ板張ト爲スヘシ
- 一 各病室ノ床下ハ可成漆喰敲キト爲シ多少ノ傾斜ヲ付シテ汚水ノ流下ニ便ニシ別ニ滲透セサル汚水溜ヲ設ケテ之ニ入ルノ施設ヲ爲スヘシ
- 一 各病院ニハ左ノ割合ヲ以テ醫師、調劑掛、看護人、事務員ヲ置クヘシ
- 一 一 醫師 一人

- 一 醫師 患者十五名乃至二十名ニ付一人
- 一 調劑掛 二人以上
- 一 看護人 患者五名ニ付一人
- 一 事務員 若干

町村ニ於テハ其狀況ニヨリ別ニ一 醫師、調劑掛ヲ置カス醫員ニ於テ之ヲ兼ヌルコトヲ得

市町村ニ設置スヘキ避病院管理方法

明治二十八年五月
内務省令第四三號

- 第一 一 醫師ハ院内ノ醫務衛生事務ヲ管理シ醫員以下看護人等ヲ監督スヘシ
一 醫長ハ毎日一回以上回診シ治療並ニ看護ノ方針ヲ醫員及看護人ニ指示スヘシ
- 第二 一 醫員ハ醫長ノ指揮ヲ受ケ治療其他患者ニ關スル事務ヲ擔當スヘシ
- 第三 一 調劑掛ハ醫長ノ指揮ヲ受ケ調劑ニ關スル一切ノ事務ヲ擔當スヘシ
- 第四 一 消毒ニ從事セシムル爲メ豫メ院内ニ諸員ニ就キ消毒擔當者若干名ヲ定メ置クヘシ

第五 看護人ハ醫長及醫員ノ指揮ヲ受ケ懇切ニ患者ノ看護ヲ爲スヘシ

第六 醫員調劑掛事務員ハ交番宿直スヘシ

看護人ハ院内ニ宿直シ交番ヲ以テ通宵看護ニ従事スヘシ看護人ニシテ調劑所賄場ニ往復スルモノハ豫メ之ヲ定メ置キ其他ハ猥リニ出入セシムヘカラス

第七 入院患者ノ父母妻子兄弟等附添看護ヲ出願スルトキハ院務ニ妨ケナキ限ハ之ヲ許可スルコトヲ得但院内規則醫長以下ノ指揮ヲ遵守セシメ且猥リニ外出ヲ許スヘカラス

第八 醫長醫員及看護人病室ニ入ルトキハ病室用衣ヲ被ヒ病室ヲ出テタルトキハ之ヲ脱スヘシ見舞人其他病室ニ出入スルトキハ本項ニ準シ病室用衣ヲ被ハシムヘシ

消毒所屍室汚物置場及焼却所ニ出入スルトキモ亦本項ニ準スヘシ

第九 病室用衣ハ一週二回以上消毒ノ上之ヲ洗濯スヘシ若シ患者ノ排泄物ニ觸レタルトキハ其都度充分消毒ヲ爲スヘシ

患者護送ノ人夫運搬ノ器具ハ充分消毒スヘシ

第十 病室其他ニ於テ患者又ハ其被服寢具器具等ニ觸接シタルトキハ速ニ手足其他觸接シタル部分ヲ廿倍ノ石炭酸水五十倍ノ格魯兒石灰水又ハ千倍ノ昇汞水(着色シタルモノ)ヲ以テ消毒スヘシ

第十一 飲料水及飲食物ハ必ス煮沸シタルモノヲ用ユヘシ

第十二 飲食物ハ避病院指定ノモノ、外ハ總テ他ヨリ院内ニ運ヒ入ルルヲ禁スヘシ

第十三 患者用ノ飲食物ハ毎回必ス之ヲ煮沸シ又ハ熱湯ニテ洗滌スヘシ

第十四 患者ニ供シタル飲食物ノ殘餘ハ直ニ消毒ノ上一定ノ場所ニ棄却スヘシ

第十五 患者ノ排泄物ハ必ス一定ノ容器中ニ取り概ネ排泄物量ニ倍ノ石灰乳ヲ混シ一時間以上放置スヘシ

石灰乳ニ代フルニ格魯兒石灰ヲ以テスルコトヲ得此場合ニ於テハ排泄物量約十五分ノ一ノ格魯兒石灰ヲ混シ十五分間放置スヘシ汚水ノ消毒モ亦之ニ準ス

第十六 患者ノ快復期患者室ニ移ストキハ豫メ相當ノ消毒ヲ爲スヘシ

第十七 患者全癒退院ノ際ハ先ツ千倍ノ昇汞水又ハ四十倍ノ石炭酸水ニテ全身ヲ拭淨シタル上入浴

セシメ石鹼ヲ以テ身體ヲ清洗シ然ル後衣服ヲ更へ退院セシムヘシ

第十八 患者ノ被服又ハ寢具器具其他消病汚染ノ疑アルモノハ消毒法ヲ行ヒタル後ニアラサレハ院外ニ持出ツル事ヲ禁スヘシ

第十九 患者ノ寢具衣類其他ノ布片ヲ消毒スルニハ蒸氣消毒ヲ行フヘシ但同法ヲ行ヒ能ハサルトキハ二十倍ノ石炭酸水中ニ浸漬スヘシ

第二十 革製ノ物品ハ二十倍ノ石炭酸水又ハ五十倍ノ格魯兒石灰水ヲ以テ拭淨スヘシ

第二十一 患者ニ觸接シタルモノニシテ汽熱又ハ藥力ヲ以テ消毒シ能ハサルモノハ少ナクモ六日間日光ノ直射セル乾燥ノ場所ニ曝スヘシ

第二十二 患者ノ排泄物ニ觸接セシ物品ニシテ價格ノ低廉ナルモノハ成ルヘク之ヲ燒却スヘシ

第二十三 床板側壁及家具中木製及金屬製ノ部分其他之ト類似ノ物品ハ二十倍ノ石炭酸水ヲ以テ濕シタル布片ヲ以テ拭淨スヘシ但床板側壁等ヲ消毒スルニハ十倍ノ石灰乳ヲ用ユルモノ可ナリ此場合ニ於テハ少ナクモ一時間放置シタル後洗滌スヘシ

病室ハ消毒ヲ終リタル後成ルヘク二十四時間放置シ空氣ヲ流通セシムヘシ

第二十四 死者ナルトキハ直ニ二十倍ノ石炭酸水ニ浸シタル布片ヲ以テ全身ヲ被包シ速ニ之ヲ屍室ニ移スヘシ

第二十五 火葬又ハ埋葬スル爲メ死體ヲ他所ニ移ストキハ棺中ニ生石灰ヲ入レ又格魯兒石灰ヲ入レ其上ニ死體ヲ置キ更ニ該藥ヲ撒布シテ之ヲ密閉スヘシ

死體ノ運搬ハ未明又ハ夜間ニ於テスヘシ

第二十六 院内ニハ寢具其他必要ナル器具藥品等ヲ備ヘ置クヘシ

院内ノ諸員及外來者ニ使用セシムル爲メ病室用衣ヲ備ヘ置クヘシ
寢臺ヲ用ヒサル場合ニ於テハ疊ノ上ニ油紙其他汚物滲透ノ虞ナキ物ヲ敷クヘシ

(參看)

陸軍傳染病豫防規則

明治三十九年十二月
陸軍省令第十四號

第一條 陸軍部内ニ於ケル傳染病ノ豫防ニ關シテハ本規則ニ定ムルモノノ外傳染病豫防法ニ準據ス

第十八輯 傳染病

第二條 本規則ニ於テ傳染病ト稱スルハ傳染病豫防法第一條ニ該當スルモノノ外陸軍大臣ノ特ニ指定スルモノヲ謂フ

第三條 部隊ニ於テ傳染病發生シ又ハ其ノ附近地方ニ傳染病流行ノ兆アルトキハ部隊長ハ速ニ所管長官ニ申告スヘシ

第四條 所管長官前條ノ申告ヲ受ケタルトキハ師團長ハ所屬軍醫部長其ノ他ノ長官ハ其ノ地管屬ノ軍醫部長ノ意見ヲ問ヒ豫防方法ヲ計畫施行シ病勢蔓延ノ兆アルトキハ其ノ景況ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第五條 部長又ハ其ノ附近地方ニ傳染病流行ノ兆アルトキハ軍醫部長ハ當該衛戍地内ニ在ル各部隊ニ之ヲ通報シ且豫防上成ヘク均一ノ處置ヲ爲サシムヘシ

第六條 前條ノ場合ニ於テ軍醫部長ハ所管内醫官ヲ會同シ豫防實施ニ關スル意見ヲ徵シ且要所ノ指示ヲ爲スコトヲ得但シ師團司令部所在地外ノ者ヲ召集スル必要アルトキハ師團所轄ノ者ニ在リテ

ハ師團長其ノ他ノ者ニ在リテハ當該長官ノ承認ヲ經ルモノトス

第七條 部隊ニ於テ傳染病發生シタルトキハ部隊附醫官ハ之ヲ部隊長ニ申告シ部隊長ハ速ニ豫防上必要ノ處置ヲ爲スヘシ

第八條 部隊附醫官ハ傳染病者表ヲ製シ軍醫部長ニ報告スヘシ

前項ノ報告ハ必要ニ應シ軍醫部長ニ於テ日報又ハ週報ト爲サシムヘシ

第九條 軍醫部長前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ其ノ病性及流行ノ景況ヲ速ニ醫務局長ニ申報スヘシ

第十條 部隊又ハ其ノ附近地方ニ傳染病流行ノ兆アルトキハ部隊長ハ豫防委員ヲ編成シ清潔消毒等豫防ニ關スル事務ヲ專任セシムヘシ

前項豫防委員中一名以上ハ部隊附醫官ヲ以テ之ニ充ツヘシ但シ醫官ノ配屬ナキ部隊ニ在リテハ之ヲ所管長官ニ申請スヘシ

第十一條 部隊ニ於テ傳染病發生シ又ハ其ノ附近地方ニ傳染病流行スルトキハ必要ニ應シ左ノ各號ノ全部又ハ一部ヲ施行スヘシ

- 一 健康診断其ノ他所要ノ檢索ヲ行ヒ傳染病ノ早期發見ニ努ムルコト
- 二 特ニ衛生講話ヲ勵行シ豫防ノ旨意ヲ徹底セシムルコト
- 三 清潔方法消毒方法ヲ行フコト
- 四 營内ニ於ケル隔離及交通禁止等ヲ嚴施シ外來人ノ出入ヲ制限シ要スレハ其ノ便所ヲ別ニ設クルコト
- 五 病毒傳播ノ疑アル物件ノ出入ヲ制限シ又ハ停止スルコト
- 六 病毒汚染ノ疑アル物件ハ消毒前其ノ使用ヲ禁止スルコト
- 七 下士以下ノ外出ヲ禁シ又ハ散步地域ヲ制限シ要スレハ士官若ハ下士ヲシテ引率セシムルコト
- 八 百斯篤病者又ハ百斯篤病鼠アルトキハ前各號ノ鼠族ノ驅除ヲ勵行シ病毒ノ檢索ニ努メ痘瘡病者アルトキハ臨時ニ種痘ヲ施行スルコト

第十二條 清潔方法消毒方法ハ別ニ之ヲ定ム

第十三條 傳染病豫防上必要ト認ムル事項ニシテ施行上地方ニ關連スル者ハ部隊長ヨリ地方長官又

ハ市町村長東京市京都市大阪市及北海道ノ區ニ在リテハ區長以下同シニ協議ノ上之ヲ處置スヘシ

第十四條 軍醫部長ハ部隊ニ於テ傳染病流行シ又ハ百斯篤虎列刺等ノ猛烈ナル傳染病發生シタルトキハ其ノ病名員數隊號發病日時等ヲ地方廳ニ通知シ地方ニ於テ同様ノ場合アルトキハ地方廳ヨリ病名員數住所發病日時等ニ關スル通報ヲ受クヘシ

第十五條 部隊ニ於テ傳染病蔓延ノ虞アリテ健兵ヲ營外ニ隔離スルヲ必要ト認ムルトキハ部隊長ヨリ所管長官ニ申請シ師團長ハ所屬軍醫部長其ノ他ノ長官ハ其ノ地所管ノ軍醫部長ノ意見ヲ問ヒ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ決行スヘシ

第十六條 病院長ニ於テ避病院ノ設置ヲ必要ト認ムルトキハ順序ヲ經テ師團長ニ申請シ師團長ハ軍

第十八條 傳染病

醫部長ノ意見ヲ問ヒ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ設置スヘシ

第十七條

避病院ノ場所ハ成ヘク水源河流其ノ他給水池ノ近傍交通頻繁ナル地方ヲ避ケ運搬及給養ニ便ナル地ヲ選ミ地方長官又ハ市町村長ニ協議ノ上之ヲ定ムヘシ

第十八條

避病院ノ設ケアル地方ニ在リテハ師團長ハ時宜ニ依リ地方官ニ協議ノ上該院ノ一部ヲ借用スルコトヲ得

地方官ヨリ陸軍避病院ノ一部ヲ借用センコトヲ請求スルトキハ師團長ハ之ヲ貸與スルコトヲ得前二項ノ場合ニ於テハ豫メ費用ノ分擔方法ヲ協議スヘシ

第十九條

避病院ノ病室ハ疑似症、輕症、重症及快復期ノ四室ニ區別シ院内ニハ事務室、藥室、試驗室、看護人室、消毒室、浴室、庖厨及不潔物消却場等ノ設備ヲ爲スヘシ但シ地方避病院ヲ借用シタルトキ及傳染病者僅少ノ場合ニ在リテハ便宜取捨スルコトヲ得
百斯篤病者ヲ收容スル場合ニ在リテハ前項ノ外鼠族等ニ依リ病毒ノ散蔓セサル様適當ノ設備ヲ加フヘシ

第二十條 避病院以外ノ病院ニ百斯篤病者ヲ收容スルトキハ前條第二項ノ設備ヲ爲スヘシ

第二十一條 避病院ニハ醫官ノ許可ヲ得タル者ノ外一切出入ヲ禁スヘシ

第二十二條 避病院附職員ハ屢交代セシメサルヲ要ス

第二十三條 傳染病者ノ治療看護ニ従事スル者ニハ避病衣ヲ貸與ス

百斯篤病者ノ治療看護ニ従事スル者ニハ前項ノ外必要ノ豫防具ヲ交付スヘシ

第二十四條 新兵ノ入營又ハ在郷下士兵卒補充兵ノ召集ニ際シ部隊ニ傳染病流行シ又ハ入營者及應召者ノ郷里若ハ立寄ルヘキ地方ニ傳染病流行シ又ハ百斯篤虎列刺等猛烈ナル傳染病者アルカ爲特別ノ處置ヲ要スルトキハ師團長ヨリ陸軍大臣ニ具狀シ指揮ヲ受クヘシ

第二十五條 部隊長ハ醫官ヲシテ入營スル新兵及召集ニ應シ來著シタル在郷下士兵卒補充兵ニ就キ

所要ノ調査ヲ爲サシメ傳染病毒ニ感染ノ疑アル者ハ一定ノ隔離所ニ停留セシムヘシ

前項停留ノ日數ハ醫官ニ於テ各種傳染病ノ潜伏期ト病性トヲ顧慮シ流行ノ地又ハ消毒ノ場所ヲ離レタル日ヨリ起算シテ之ヲ定ムヘシ

第二十六條 部隊長ハ行軍演習等ノ實施ニ際シ醫官ヲシテ豫メ其ノ地ノ情況ヲ調査セシメ傳染病ノ危險アルトキハ適宜豫防ノ方法ヲ講シ要スレハ其ノ地域ヲ變更スヘシ

第二十七條 傳染病者ノ排泄物其ノ他ノ汚穢物ヲ燒却シ又ハ埋却スルハ一定ノ場所ニ之ヲ運搬スルトキハ部隊ヨリ地方官又ハ市町村長ニ協議スヘシ

第二十八條 部隊ニ於テ葬ルヘキ傳染病者ノ死體ハ火葬スヘシ
前項ノ火葬ハ地方ノ火葬場ニ於テシ其ノ設ケナキ地方ニ在リテハ部隊長ヨリ地方官又ハ市町村長ニ協議シテ便宜取扱フヘシ

第二十九條 傳染病豫防ニ關シ各部隊ニ於テ計畫實施シタル事項ハ部隊長ヨリ所管長官ニ報告シ所管長官ヨリ取纏メ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第三十條 部隊ニ於テ傳染病終熄シタルトキハ初發ヨリノ病者員數轉歸及發病ノ原因傳播ノ景況其ノ他實行シタル清潔方法消毒方法等ヲ詳記シテ當該軍醫部長ニ報告シ軍醫部長ハ流行記事ヲ編纂シテ醫務局ニ申報スヘシ

第三十一條 營外居住軍人軍屬ニシテ自己傳染病ニ罹ルカ又ハ其ノ家族中ニ傳染所者アルトキハ所屬長官ノ認可ヲ得ルニアラサレハ出務スルコトヲ得ス

第三十二條 本規則ハ傳染病疑似症ニ對シ適用スルコトヲ得

第三十三條 本規則中下士兵卒ニ關スル規定ハ陸軍諸生徒ニ之ヲ適用ス

第三十四條 本規則ハ臺灣樺太及在外諸部隊ニ於ケル傳染病豫防ニ之ヲ適用ス

附則

二十二年陸軍省令第十九號陸軍部內傳染病豫防規則ハ之ヲ廢止ス

傳染病豫防法上補助ニ關スル件

明治三十年七月
內務省令第一八號

府縣知事ハ傳染病豫防法第二十四條ニ依リ府縣稅又ハ地方稅ヨリ市町村ニ對スル補助ニ關シ左ノ各項ニ依リ規程ヲ定メ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一 傳染病豫防法第二十一條及第二十三條第二項ノ支出總額ニ對シ府縣稅又ハ地方稅ヨリ各市町

村ニ補助スル歩合ハ精算額ノ六分ノ一以上二分ノ一以下トス但支出ニ伴フ收入又ハ補助金寄附金等アルトキハ支出總額ヨリ之ヲ控除シタル額ニ對シ本項ノ歩合ヲ定ムルコトヲ得(三十四年省令七號ヲ以テ改正)

二 傳染病豫防法第二十一條第二十三條第二項ノ支出中特ニ費途ヲ指定シテ別段ノ補助歩合ヲ定メ又ハ指定シタル費途ニ限り補助ヲ爲シ又ハ市町村ノ負擔ニ應シテ別段ノ補助歩合ヲ定ムルコトヲ得 但本項ニ依リ算出シタル補助ノ金額前項六分ノ一ヲ下ルトキハ六分ノ一迄増額シ二分ノ一ヲ超ルトキハ二分ノ一迄減額スヘシ

三 市町村ノ支出額其負擔ニ堪ヘスト認ムルトキ其他特別ノ事由アルトキハ二分ノ一以上全部迄ヲ補助スルコトヲ得

四 補助ハ現品ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得但金額ニ換算スヘシ

五 市町村ヨリ申請セル支出精算額過當ト認ムルトキハ之ヲ査定シ其査定額ニ對シテ補助スルコトヲ得(三十四年省令七號ヲ以テ追加)

コツホ結核治療液取締方

明治二十四年五月
内務省令第三號

コツホ結核治療液(テユベル)ハ官立府縣立病院ニ限り之ヲ使用スルコトヲ得其他病院若クハ醫師ニシテ相當ノ準備アル病室ヲ有スルモノ之ヲ使用セントスルトキハ豫メ地方長官ヲ經由シテ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ内務大臣ハ中央衛生會ノ審議ヲ經テ之ヲ認可シ若クハ認可セサルコトアルヘシ該液ハ外來患者ニ使用スルコトヲ得ス
本令第一項第二項ニ違背シタル者ハ二十圓以内ノ罰金ニ處ス

傳染病豫防法第十九條ノ二ニ依ル手當金ニ

關スル件

明治三十八年六月
内務省令第二十一號

第一條 地方長官(東京府ハ警視總監以下之ニ做フ)ハ傳染病豫防法第十九條ノ二ニ依リ傳染病毒ニ汚染シタル建物ニ對シ別段ノ處分ヲ行ヒ且其ノ處分ノ爲必要ナル土地ヲ使用セントスルトキハ其ノ旨ヲ建物、土

地ノ所有者又ハ管理者ニ通達スヘシ

第二條 前條ノ場合ニ於テ損害ヲ受ケタル建物ノ所有者ニ交付スヘキ手當金額ハ地方長官時價ヲ參酌シテ之ヲ決定ス

第三條 市町村長區長(北海道、沖繩縣ノ)戶長(戶長ニ準スヘキ者ヲ)ハ地方長官ヨリ手當金額決定ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ建物所在ノ市(北海道、沖繩縣ハ區)町村(沖繩縣ハ區切島)番地及手當金額ヲ所有者ノ外建物ニ關シテ權利ヲ有スル者ニ通達シ且相當ノ期間公告シ尙必要アリト認ムルトキハ他ノ權利者ノ承諾書ヲ徵シタル上損害ヲ受ケタル建物ノ所有者ニ對シ手當金ヲ交付スヘシ

第四條 市町村長區長戶長ハ前條ノ期間内ニ他ノ權利者ノ申請アリタルトキハ期日ヲ指定シテ手當金ノ交付ヲ延期スルコトヲ得

北海道廳沖繩縣ニ於ケル傳染病豫防法第二十

四條ノ補助ニ關スル規程制定ノ件

明治三十一年三月
內務省令第四號

傳染病豫防法第二十四條ノ補助ニ關スル規程ハ北海道廳ニ在リテハ北海道廳長官沖繩縣ニ在リテハ沖繩縣知事之ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受ケテ施行スヘシ

傳染病豫防救治ニ從事スル者ノ手當金ニ關ス

ル件

明治三十三年三月
法律第三〇號

第一條 判任以上ノ官吏ニ非スシテ傳染病ノ豫防救治ニ從事スル者公務ニ因リ病毒ニ感染シ又ハ之ニ原因シテ死亡シタルトキハ本法ノ規定ニ依リ手當金ヲ給ス

第二條 手當金ハ左ノ四種トス

- 一 療治料
- 二 給助料
- 三 吊祭料
- 四 遺族扶助料

第十八輯 傳染病

第三條 病毒ニ感染シタルモノニハ療治料ヲ給ス 感染者治癒シタルトキハ給助料ヲ給シ死亡シタル

トキハ其遺族ニ吊祭料及遺族扶助料ヲ給ス 遺族ナキトキハ葬儀ヲ行フ者ニ吊祭料ヲ給ス 遺族中遺族扶助料ヲ受ク可キ者ノ順位ハ官吏遺族扶助法ノ例ニ依ル

第四條 遺族扶助料ハ死者ノ受ケタル給料ノ金額ニ應シ別表ニ依リ一時之ヲ給ス 其給料ヲ受ケサル者ニ在リテハ別表ノ範圍内ニ於テ本屬長官適宜之ヲ給ス

第五條 療治料ハ命令ノ定ムル區別ニ依リ一日三圓以内ヲ給ス 給助料ハ遺族扶助料ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ給ス

吊祭料ハ月給一箇月分又ハ日給三十日分ニ相當スル金額ヲ給ス 其給料ヲ受ケサル者ニ在リテハ本屬長官適宜之ヲ給ス

第六條 手當金ハ國庫支辨ノ事務ニ従事スル者ニ在リテハ國庫ノ負擔トシ府縣費支辨ノ事務ニ従事スル者ニ在リテハ府縣ノ負擔トス

第七條 地方長官ハ市町村ニ指示シ本法ノ規定ニ準シ其傳染病豫防救治ニ従事スル者ノ手當金支給

ニ關スル規定ヲ設ケシムルコトヲ得

(別表)

等級	月給	遺族扶助料
一 等	二百圓以上	千圓
二 等	百六十圓以上	九百圓
三 等	百三十圓以上	八百圓
四 等	百圓以上	七百圓
五 等	八十圓以上	六百圓
六 等	七十圓以上	五百圓
七 等	六十圓以上	四百五十圓
八 等	五十圓以上	四百圓
九 等	四十圓以上	三百五十圓
十 等	三十圓以上	三百圓
十一 等	二十圓以上	二百五十圓
十二 等	十圓以上	二百圓

第十八輯 傳染病

傳染病豫防救治吏員手當

明治二十八年六月
勅令第一七號

傳染病豫防救治ニ從事スル官吏准官吏及備員ニシテ専ラ該病者又ハ病毒汚染ノ虞アル物品ニ接近スル者ニハ各其俸給又ハ給料月額三分一以内ノ月手當ヲ給スルコトヲ得

但府縣ノ收入ヨリ俸給又ハ給料ヲ受クル官吏准官吏及備員ニシテ本官職ノ資格ヲ以テ從事スル者ニ給スル手當並傳染病豫防法第十八條ニ依リ檢疫委員ト爲ル者ニ給スル手當ハ府縣ノ負擔トス

傳染病豫防救治ニ從事スル者ノ療治料

明治三十三年四月
勅令第一四一號

明治三十三年法律第三十號第五條ノ療治料ハ給料ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ給料額ニ依リ同法別表ノ等級ニ照シ一等乃至四等ノ者ニハ一日三圓五等乃至十二等ノ者ニハ一日二圓十三等ノ者ニハ一日一圓ヲ給ス其ノ給料ヲ受ケサル者ニ在リテハ一日三圓以内ニ於テ本屬長官適宜之ヲ給ス

赤痢病疑似症ニ對シ傳染病豫防法適用ノ件

明治卅三年五月
警視廳令第三號

明治三十六年法律第三十六號傳染病豫防法第二條ニ依リ赤痢疑似症ニ對シ同法ノ全部ヲ適用ス
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

傳染病豫防ニ關スル注意

明治三十五年六月
警視廳告諭第三號

先般來上海香港等ニ於テ虎列刺患者發生シ尙續發中ノ處本月上旬ニ及ヒ俄然佐賀縣唐津ニ發生シ漸次蔓延ノ虞アリ且目下炎暑ニ向ヒ傳染病流行ノ季節ナレハ何時該病ノ襲來ヲ被ムリ如何ナル慘狀ヲ見ルヤモ測ラレス就テハ各自攝生ヲ重ムシ特ニ不良ノ水若ハ不熟ノ菓實等ヲ飲食セサル様注意シ以テ自己ノ健康ヲ保全スルト同時ニ邸宅内若ハ溝渠下水ノ如キハ常ニ清潔ニ掃除シカメテ該病ヲ未發ニ防ク様一層ノ警戒ヲ加フヘシ

虎列刺疑似症ニ對シ傳染病豫防法ノ全部適用

ノ件 明治三十七年六月 警視廳令第一三號

明治三十年法律第三十六號傳染病豫防法第二條ニ依リ虎列刺疑似症ニ對シ同法ノ全部ヲ適用ス
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

警視消毒所東京府ニ於テ管理 明治二十四年八月 東京府告示第七八號

警視消毒所自今當廳ニ於テ管理シ東京府消毒所ト改稱ス

東京市ニ傳染病院並消毒所設置 明治三十年四月 東京府令第七五號

本年三月法律第三十六號傳染病豫防法第十七條ニ依リ東京市ニ傳染病院並消毒所ヲ設置スヘシ

傳染病豫防法其他諸規則改正ニ關スル件

明治三十八年八月(第三部) 警視廳通第二三四號(長通牒)

傳染病豫防法同施行諸規則改正ノ趣旨周知ノ爲内務省衛生局長ヨリ別冊解説書送來候條此段及通牒候也

(別冊)

傳染病豫防法施行諸規則改正條項解説書 衛生局

傳染病豫防法及其ノ施行諸規則ハ去ル明治三十年ノ制定ニ係リ當時ベスト病ハ香港臺灣ニ於テ流行セシモ我内地ニハ未タ會テ侵襲シタコトナカリシヲ以テ本病ノ豫防ニハ經驗ナク且本病ニ就テハ學術上ノ研究モ今日ノ如ク進歩シ居ラサリシニ因リ其ノ豫防ニ就テ必要ナル事項ヲ豫防法及其ノ施行諸規則中ニ缺如セリ故ニ今回ノ改正ハ「ベスト」豫防ニ關スル事項ヲ補充スルヲ以テ主眼トシ其ノ他ハ從來ノ經驗ニ依リ必要ト認メタル事項ヲ二三追加シタルニ過キス

傳染病豫防法中改正條項

(一)第五條中改正

(條文)第五條第一項中「傳染病患者アリタル家」ノ下ニ「其ノ他傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑

第十八輯 傳染病

アル家」ヲ加ヘ同條第二項ヲ削ル

(趣旨) 患家又ハ其近隣ノ家若ハ患家ト交通ヲ爲シタル家ニ非サルモ苟モ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル家ニハ清潔方法消毒方法ヲ施行セシムルヲ得ルコト、ナシタリ

(理由) 從來ノ法律ニテハ患家ノ外其ノ近隣ノ家又ハ患家ト交通ヲ爲シタル家ニ清潔方法消毒方法ヲ施行セシムル規定アルモ是ノミニテハ病毒ノ散逸ヲ防キ難キコトアリ即チ施行ノ範圍狹隘ナリタトヘハ「ベスト」鼠アリタル家ノ如キハ患家ノ近隣ナラサルモ又患家ト交通ヲ爲サ、ルモ甚危険ナリ故ニ苟モ病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル家ニ對シテハ清潔方法ヲ施行シテ病毒ノ蔓延ヲ防遍シ消毒方法ヲ施行シテ病毒ヲ撲滅セサルヘカラス 依テ清潔方法消毒方法施行ノ範圍ヲ擴張スル爲第五條ヲ改正セリ而シテ同條第二項ヲ削除セル所以ハ「近隣ノ家又ハ患家ト交通ヲ爲シタル家」ハ「其ノ他傳染病ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル家」ト云フ中ニ包含セラル、ヲ以テナリ

(二) 第七條第二項削除

(理由) 第七條第二項ニハ「健康者ノ隔離ヲ必要ト認ムルトキハ隔離所ニ入ラシムルコトヲ得」トアリタレトモ隔離ノ必要アルハ病毒感染ノ疑アルヲ以テナリ故ニ健康者ト稱スルハ用語穩當ナラス是ヲ以テ今回本項ヲ削除シ第八條ノ改正ニテ病毒感染ノ疑アル者ヲ隔離スルコトヲ得ル様ニ爲シタリ

(三) 第八條改正

(條文) 第八條 當該吏員ニ於テ必要ト認ムルトキハ一定ノ日時間傳染病患者アリタル家其ノ他傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル家ノ交通ヲ遮斷シ又ハ病毒感染ノ疑アル者ヲ隔離所其ノ他適當ノ場所ニ隔離スルコトヲ得

(趣旨) 患家又ハ其ノ近隣ノ家ニ非サルモ苟モ病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル家ニハ交通遮斷ヲ施行スルヲ得ルコト、ナシ又病毒感染ノ疑アル人ヲハ隔離スルヲ得ルコト、爲シタルナリ

(理由) 從來ノ法律ニテハ傳染病患者アリタル家及其ノ近隣ノ家ニ一定ノ日時間交通遮斷ヲ施行スルコトヲ得ルノ規定アルモ其ノ外尙病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル家ニモ交通遮斷ヲ行フノ

必要アル場合ナキニ非ス依テ交通遮断施行ノ範圍ヲ擴張スル爲第八條ヲ改正セリ尤モ此改正ハ將來必要ノ場合ニ應スル爲ニテ此際從來ノ振合ヨリモ太區域ニ交通遮断ヲ實行スヘシトノ意ニハ非ス尙實際ノ取扱上ニ於テハ豫防事務ノ進歩ニ從ヒ赤痢ノ如キ患者死者ノ其ノ家ニ在ル間ハ兎ニ角已ニ之ヲ他ニ移シ患家ニ消毒方法ノ施行ヲ了リタル以上ハ最早家人ニ對シ隔離ヲ行ハサルモ豫防上支障ナキ迄ニ至ラシメンコトヲ欲ス

從來ハ患家ニ消毒方法ノ施行ヲ了リタル後ニモ家人ハ尙引續キ其家ニ居住スルモノナリトノ豫想ヲ以テ此家人ニ對スル交通ノ禁止モ之ヲ家ニ對スル交通遮断ノ中ニ含マセ消毒方法施行ノ前後ヲ通シテ總テ交通遮断ト稱シ來リタルモ改正法ニテハ家人ハ可成隔離所等ニ入ラシムルノ意味ヲ以テ(就中「ペスト」ノ如キ場合ニハ最モ必要ナリ)家人ニ對スル處置ハ之ヲ家ニ對スル交通遮断ト區分シ其ノ家ニ消毒方法ノ施行ヲ了リタル後ハ假令家人ヲ引續キ其ノ家ニ居住セシメ交通ヲ禁止スル場合ニモ尙之ヲ隔離ト稱スルコト、爲セリ即チ其ノ家ニ患者死者ノ在ル間ハ勿論已ニ患者死者ヲ他ニ移シタルモ未ダ消毒方法ノ施行ヲ了ラサル間ハ其ノ家ニ對シ交通遮断ヲ行

フナリ之ニ反シテ已ニ患者死者ヲ他ニ移シ且消毒方法ノ施行ヲ了リタル以上ハ家ニハ病毒ノ存在セサルヲ以テ之ニ對シ交通遮断ヲ行フノ必要ナキモ家人ニハ病毒感染ノ疑アルヲ以テ隔離ヲ要スルノ譯ナリ故ニ家ニ對スル處置ヲ交通遮断ト稱シ病毒感染ノ疑アル人ニ對スル處置ヲ隔離ト稱シ兩者ノ分界ヲ明ニシタリ

(四)第十四條中改正

(條文)第十四條中「又ハ管理人」ヲ「管理人又ハ代理者」ニ改ム

(趣旨)傳染病豫防上必要ト認ムルトキ家屋、船舶其ノ他ノ場所ニ立入ルニハ戶主、首長、管理人ニ告知スル規定ナルカ尙是等ノ人ノ代理人ニ告知シ立入ルコトヲ得セシムルコト、爲セリ

(五)第十六條ノ二追加

(條文)第十六條ノ二 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ鼠族ノ驅除及之ニ關スル施設ヲ爲スヘシ

(趣旨)「ペスト」豫防ノ爲鼠族驅除ニ關スル義務ヲ市町村ニ負ハシメタルナリ

(理由)「ペスト」ニ對スル豫防撲滅ノ措置トシテハ鼠ノ驅除ヲ以テ最モ必要ナルモノトス故ニ市

町村ハ平素鼠族ノ驅除ニ努ムヘキハ勿論特ニ地方長官ノ指示アリタルトキハ鼠族ノ驅除及之ニ關スル施設トシテ人夫ヲ雇入レ必要ナル建物ニ就キテ鼠族ヲ搜索捕獲セシムルハ勿論捕鼠器殺鼠劑等ヲ各戸ニ配付シ鼠ヲ捕獲驅除セシメ尙其ノ目的ヲ貫徹スル爲メニハ鼠ヲ買上ケ又ハ抽籤懸賞等種種ノ方法ヲ用キテ除鼠ヲ獎勵スル等機宜ニ適スルノ處置ニ出テサルヘカラス木病ハ多クハ先ツ鼠族間ニ流行シ而シテ後人體ニ傳染スルモノナルヲ以テ鼠族驅除ハ最モ必要ナル施設ト認メ之カ規定ヲ設ケタリ

(六)第十七條ノ二追加

(條文)第十七條ノ二 第十九條第七又ハ第八ニ依リ市街村落ノ全部又ハ一部ニ對シ家用用水ノ使用ヲ停止シタル場合ニ於テハ市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ其ノ停止期間家用用水ノ供給ヲ爲スヘシ

(趣旨)虎列刺等豫防ノ爲メ流行部落其ノ他ノ人民ニ對シ家用用水供給ノ義務ヲ市町村ニ負ハシメタルナリ

(理由)消化器系傳染病タル虎列刺、赤痢、腸窒扶私等ノ蔓延スルハ多クハ水ニ病毒ノ入り居ルヲ以テナリ故ニ病毒ノ入り居ルヘキ疑アル井戸、河水等ハ模様ニヨリ當分ノ内其ノ使用ヲ停止スルノ必要アリ然ルニ數十戸若ハ數百戸ニ關係スル家用用水(飲料水、使ヒ水等)ノ使用ヲ停止シタル場合ニ於テハ其ノ使用停止ノ期間公費ヲ以テ水道水又ハ煮沸水等安全ナル水ヲ供給スルニ非サレハ到底各個人ヲシテ無害ノ水ヲ得セシムルコト能ハス依テ右等ノ場合ニ家用用水供給ノ義務ヲ市町村ニ負擔セシメタル所以ナリ

(七)第十八條中改正

(條文)第十八條第三項「其ノ地」ヲ「附近」ニ改メ「收容治療セシ」ノ下ニ「メ及病毒感染ノ疑アル者ヲ附近市町村立ノ隔離所ニ入ラシ」ヲ加フ

同條第四項追加

(條文)船舶汽車ノ檢疫ヲ施行セサル場合ニ於テ船舶汽車中ニ傳染患者若ハ病毒感染ノ疑アル者アリタルトキハ前二項ノ規定ヲ準用ス 在監人出獄スルニ際シ傳染病ニ罹リタル者若ハ病毒感染

ノ疑アル者アリタルトキ亦同シ

(趣旨) (イ) 従來船舶、汽車檢疫施行ノ際發見シタル患者ハ其ノ地市町村立ノ傳染病院、隔離病舎ニ收容治療セシムルコト、ナシアリシニ將來ハ必スシモ發見地ノ病院、病舎ニ限ラス都合ニヨリ其ノ附近市町村ノ病院病舎何レニテモ收容セシムルヲ得ルコト、爲シ又船舶汽車ノ同乗者中病毒感染ノ疑アル者ヲ附近町村ノ隔離所ニ入ラシムルヲ得ルコト、爲セリ

(ロ) 船舶汽車ノ檢疫ヲ施行セサル場合ニ於テ船舶汽車中ニ傳染病患者若ハ病毒感染ノ疑アル者アリタルトキノ處置ニ關シテハ從來別ニ規定ナカリシヲ以テ船舶汽車檢疫施行ノ場合ニ準シ處置スヘキコト、爲セリ

(ハ) 從來在監人ノ満期出獄スルニ際シ傳染病ニ罹リ又ハ病毒ニ感染ノ疑アル者アリタル場合ノ處置ニ關シテハ別ニ規定ナカリシヲ以テ船舶汽車檢疫施行ノ場合ニ準シ患者ハ附近ノ市町村立病院、病舎ニ收容シ病毒感染ノ疑アル者ハ同上ノ隔離所ニ入ラシムルヲ得ルコト、爲セリ而シテ之カ爲メ特ニ要シタル費用ハ市町村ニ於テ地方長官ニ請求スルコトヲ得ルハ勿論ナリ

(八) 第十九條中改正

(イ) 同條第一號改正

(條文) 一健康診斷又ハ死體檢案ヲ行フコト

(趣旨) 從來病毒發見ノ方法トシテ健康診斷ヲ施行スルコトヲ得ルノ規定アリタルモ尙死體檢案ノ必要アルヲ以テ之ヲ加ヘタリ

(ロ) 同條第二號中改正

(條文) 同條第二號中「又」ヲ「若」ニ改メ「遮斷」ノ下ニ「シ又ハ人民ヲ隔離」ヲ加フ

(趣旨) 市街村落ノ全部若ハ一部ノ交通遮斷ニ關シテモ第八條ノ改正ニ準シ其ノ部落ノ地域ニ對シテハ消毒方法ノ施行ヲ了ルマテ交通遮斷ヲ施行スルヲ得ルコト、爲シ又其部落内ノ人民ハ病毒感染ノ疑アルヲ以テ之ヲ隔離スルヲ得ルコト、爲セリ

(ハ) 同條第六號改正

(條文) 汽車、船舶、製造所若ハ多人數ノ集合スル場所ニ醫師ノ雇入其ノ他豫防上必要ノ設

備ヲ爲サシムルコト

(趣旨)從來醫師ノ雇入ヲ命スルハ船舶ニノミ限リタルモ今回ノ改正ニテ其ノ範圍ヲ擴張シ船舶ハ勿論汽車、製造所、鑛山等ニモ醫師ノ雇入ヲ命スルヲ得ルコト、爲セリ

(二)同條第九號追加

(條文)九 鼠族ノ驅除及之ニ關スル施設ヲ爲サシムルコト

(趣旨)鼠族ノ驅除及之ニ關スル施設ハ「ペスト」豫防上最モ必要ナルヲ以テ第十六條ノ二ニ依リ市町村ニ其ノ義務ヲ負ハシメタルモ尙各個人ニ對シ地方長官ハ鼠族ノ驅除及之ニ關スル施設ヲ命スルヲ得ルコト、爲セリ

(九)第十九條ノ二追加

(條文)第十九條ノ二 傳染病毒ニ汚染シタル建物ニシテ消毒方法ノ施行ヲ不適當ト認ムルトキハ地方長官ハ關係市町村會ノ意見ヲ聽キ內務大臣ノ認可ヲ得テ其ノ建物ニ對シ別段ノ處分ヲ行ヒ且其ノ處分ノ爲必要ナル土地ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ損害ヲ受ケタル建物ノ所有者ニ手當金ヲ交付スヘシ手當金ノ交付並手當金額ノ決定ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

(趣旨)「ペスト」病豫防ノ爲メ必要アルトキハ地方長官ハ建物ヲ破壊、解崩シテ之ヲ燒却スル等特別ノ處分ヲ行フヲ得ルコト、爲セリ尤モ此場合ニハ其ノ建物ノ所有者ニ手當金ヲ交付スルモノニシテ其ノ手當金ハ市町村ニ於テ負擔スヘキモノトス

(理由)「ペスト」ノ如キ執拗ナル傳染病毒ニ汚染シタル建物ハタトヒ屢消毒方法ヲ反覆施行スルモ尙ホ病毒ヲ撲滅シ難キコトアリ或ハ又其ノ反覆施行スル消毒ノ諸費ヲ積算スルトキハ粗末ナル建物ニ比較シテ經濟上得失相償ハサル如キコトアリ是等ノ場合ハ即チ消毒方法ノ施行ヲ不適當ト認ムヘキモノニシテ斯カル場合ニ於テハ相當手續ノ上其ノ建物ノ全部又ハ一部ヲ破壊若ハ解崩シテ之ヲ燒却スル等特別ノ處分ヲ行ハサルヘカラス是即チ本條ノ規定ヲ設ケタル所以ナリ而シテ是等ノ特別處分ニ依リ損害ヲ受ケタル建物ノ所有者ニハ手當金ヲ交付スルコト、爲セリ尙此ノ處分ハ市町村ノ經濟及各個人財産ニ對シ大ナル關係アルヲ以テ關係市町村會ノ意見ヲ聞

キ監督官廳ノ認可ヲ受ケシムルコト、爲セリ

(十)第二十一條中改正

(イ)同條第六號中改正

(條文)第六號中「交通遮斷」ノ下ニ「隔離」ヲ加フ

(趣旨)本法第八條ノ改正ニ伴ヒ病毒感染ノ疑アル者ノ隔離ニ關スル費用竝ニ其ノ隔離ノ爲メ又ハ一時營業ヲ失ヒ自活シ能ハサル者ノ生活費用ヲ市町村ノ負擔ト爲セリ

(ロ)同條第八號追加

(條文)八 市町村ニ於テ施行スル鼠族ノ驅除及其ノ施設ニ關スル諸費

(趣旨)第十六條ノ二ハ追加ニ伴ヒ鼠族驅除及其ノ施設ニ關スル費用ヲ市町村ノ負擔ト爲セリ

(ハ)同條第九號追加

(條文)九 第十七條ノ二ニ依レル家用ノ供給ニ關スル諸費

(趣旨)第十七條ノ二ノ追加ニ伴ヒ第十九條第七又ハ第八ニ依リ市街村落ノ全部又ハ一部ニ對シ

家用ノ使用ヲ停止シタル場合ニ於ケル家用ノ供給ニ關スル費用ヲ市町村ノ負擔ト爲セリ

(ニ)同條第十號追加

(條文)十 第十九條ノ二ニ依リ交付スヘキ手當金

(趣旨)第十九條ノ二追加ニ伴ヒ傳染病ニ汚染シタル建物ニシテ消毒方法ノ施行ヲ不適當ト認ムルトキ地方長官カ其ノ建物ニ對シ別段ノ處分ヲ行ヒタル場合ニ於テ損害ヲ受ケタル建物ノ所有者ニ交付スヘキ手當金ヲ市町村ノ負擔ト爲セリ

(十一)第二十二條中改正

(イ)同條第一號改正

(條文)一 第十八條ニ關スル諸費

(趣旨)第十八條ノ改正ニ伴ヒ檢疫委員、船舶又ハ汽車ノ檢疫ニ關スル諸費ノ外更ニ船舶汽車ノ檢疫ヲ施行セサル場合ニ患者又ハ病毒感染ノ疑アル者アリタルトキノ處置竝ニ在監人出獄スルニ際シ傳染病ニ罹リタル者若ハ病毒感染ノ疑アリタル場合ノ處置ニ關スル費用ヲ府縣ノ負擔ト

爲セリ

(ロ)同條第二號改正

(條文)二 手當金ヲ除ク外第十九條ノ二ニ關スル諸費

(趣旨)第十九條ノ二ノ追加ニ伴ヒ新設シタルモノニシテ別段ノ處分ニ因リ損害ヲ受ケタル建物ノ所有者ニ交付スヘキ手當金ヲ除キ(手當金ハ市町村ノ負擔トス)其ノ他ノ費用ヲ府縣ノ負擔ト爲セリ

(ハ)同條第三號改正

(條文)三 第十九條ノ二ニ依レル交通遮斷、隔離ニ關スル諸費、交通遮斷隔離ノ爲メ自活シ能ハサル者ノ生活費及隔離所ニ關スル諸費

(趣旨)第十九條ノ二ノ改正ニ伴ヒ病毒感染ノ疑アル人民ノ隔離ニ關スル費用竝ニ其ノ隔離ノ爲メ自活シ能ハサルモノ、生活費及隔離所ニ關スル費用ヲモ府縣ノ負擔ト爲セリ

(十二)第二十六條及第二十七條中改正

(條文)「滯納處分」ヲ「徵收」ニ改ム

(趣旨)右ハ以前國稅滯納處分法ト稱シタルヲ國稅徵收法ト改正セラレタルニ依リ序ヲ以テ改メタルモノナリ

(十三)第三十一條改正

(條文)第三十一條第四條、第五條、第九條、第十條、第十一條第一項、第十二條ニ違背シタル者交通遮斷ヲ犯シタル者、當該吏員ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者又ハ醫師ニ請託シテ第三條ノ届出ヲ爲サシメス若ハ其ノ届出ヲ妨ケタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

(趣旨)第五條第一項ノ改正竝ニ同條第二項ノ削除ニ伴ヒ本條中改正ヲ加ヘタリ又傳染病毒ノ所在ヲ探明シ其ノ撲滅ヲ期センカ爲メニハ種種ノ尋問調査ヲ要ス然ルニ當該吏員ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲ス者往往アリ爲メニ防疫措置ノ機敏ヲ缺キ又ハ其ノ方針ヲ誤リ病毒ヲ散逸セシムルコトアルヲ以テ此ノ弊ヲ矯メンカ爲メ右等ノ所爲ヲ爲シタル者ニ對シ處罰ヲ加フルコトヲ爲セリ

第十八輯 傳染病

傳染病豫防法施行規則中改正條項

本規則中ノ改正ハ本法中ノ改正ニ伴フモノニシテ其ノ條項左ノ如シ

(一)第三條中改正

(條文)第三條中「又ハ傳染病」ノ下ニ「患者死者其ノ他傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑」ヲ加フ

(趣旨)警察官吏又ハ檢疫委員カ病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アルコトヲ知リタル場合ニ市町村長ニ通報スヘキコトヲ規定シタリ

(理由)從來ノ規定ハ主トシテ傳染病患者死者アリタル場合ニ通報スヘキコトヲ命シタリ然ルニ尙其以外ニ於テ假令ハ「ペスト」鼠ヲ發見シタル場合ノ如キ其ノ鼠ノ棲息交通ニ因リ病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アルコトヲ知リタル場合ニハ警察官吏又ハ檢疫委員ハ速ニ之ヲ市町村長等ニ通報シ清潔方法、消毒方法等ノ豫防措置ヲ機敏ニ施行セシメサルヘカラス依テ本文ノ改正ヲ加ヘ舊條文ノ意味ヲ擴張シタルナリ

(二)第四條改正

(條文)第四條 市町村長區長戸長又ハ豫防委員ハ傳染病患者死者其ノ他病毒汚染ノ事實アルコトヲ知リタルトキハ速ニ傳染病患者死者アリタル家其ノ他病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル家ニ清潔方法消毒方法ヲ施行セシメ「ペスト」病ナルトキハ特ニ鼠族ノ驅除ヲ施行セシムヘシ 但警察官吏衛生官吏郡吏吏員島廳吏員又ハ檢疫委員ハ市町村長區長戸長又ハ豫防委員ヲ指示シテ其ノ事務ニ從事スヘシ

(趣旨)法第五條改正ノ結果苟モ病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル家ニハ清潔方法、消毒方法ヲ施行スヘキコト、爲リタルヲ以テ之ニ伴ヒ本條ノ規定ヲ改正シタルナリ尙ホ「ペスト」ナルトキハ清潔方法消毒方法ノ施行ニ伴ヒ先鼠族ノ驅除ヲ施行セシムルコト、爲セリ

(三)第五條中改正

(條文)第五條中「又ハ隔離病舎ニ入ラシメ健康者ヲ隔離所」ヲ「隔離病舎又ハ相當ノ設備アル病院」ニ改ム

(趣旨)從來傳染病患者ヲ入院入舎セシムルハ殆ント常ニ市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舎ニ限

リタルモ將來ハ當該吏員ノ見込ニ依リ官公立ノ病院ニ入ラシムルモ差支ナキコト、爲シタルナリ尤モ其病院ハ豫防上相當ノ設備アルコトヲ要スルハ勿論ナリトス

(四)第六條改正

(條文)第六條 警察官吏又ハ檢疫委員ハ傳染病豫防法第八條ニ依リ虎列刺、赤痢、發疹窓扶私、「ベスト」ニ對シ左ノ事項ヲ施行スルコトヲ得

- 一、患者又ハ死體アル間及患者ヲ入院若ハ入舎セシメ又ハ患者治癒若ハ死亡シタル後消毒方法ノ施行ヲ了ルマテ其ノ家ノ交通ヲ遮斷スルコト
 - 二、前號ノ外病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル家ハ消毒方法ノ施行ヲ了ルマテ交通ヲ遮斷スルコト
 - 三、前二號ノ其ノ居住者其ノ他病毒感染ノ疑アル者ヲ消毒方法ノ施行ヲ了リタル日ヨリ起算シ左ノ日時間隔離所若ハ消毒方法ノ施行ヲ了リタル家其ノ他適當ノ場所ニ隔離スルコト
- 虎列刺、赤痢、
滿五日間

發疹窓扶私

滿七日間

「ベスト」

滿十日間

四、交通遮斷又ハ隔離中新ニ患者ヲ發シタルトキハ更ニ本條ニ依リテ處置スルコト
傳染病豫防法第十九條第二ニ依ル交通遮斷及隔離ノ施行ハ警察官吏又ハ檢疫委員ニ於テ前項ニ準シ之ヲ行フヘシ 但特ニ府縣知事(東京府ハ)警視總監(ノ命アル場合ニ限ル)市町村長區戸長又ハ豫防委員ハ警察官吏又ハ檢疫委員ノ指示ヲ受ケテ本條ノ交通遮斷及隔離ニ關スル事務ニ従事スヘシ

(趣旨)法第八條改正ノ結果患者死者アル家又ハ其ノ近隣ノ家ハ勿論其ノ外尙病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル家ニモ交通遮斷ヲ行フヲ得ルコトヲ規定セリ又法第八條ノ改正ニ依リ家ニ對スル交通遮斷ト人ニ對スル隔離トノ間ニ分界ヲ設ケタルヲ以テ本條ニモ兩者ヲ區別シ遮斷及隔離ノ期間ヲ定メタリ而シテ患者ニ對スル交通遮斷ノ期間ハ現ニ患者又ハ死體ノ在ル間ハ勿論患者ノ入院入舎シ若ハ其ノ治癒、死亡シタル後其ノ家ニ對シテ消毒方法ヲ施行シ了リタル時マテトス

又患家ノ近隣ノ家若ハ患家ト交通ヲ爲シタル家其ノ他例之ハ「ペスト」鼠ヲ出シタル家若ハ其ノ鼠ノ交通シタル家ノ如キ病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル家等ニ對シテ交通遮斷ヲ行フノ期間ハ其ノ家ニ對シテ消毒方法又ハ除鼠的消毒方法(鼠族ヲ驅除シ消毒方法ヲ行フヲ云フ)ヲ施行シ了リタル時マテトス
前記ノ家ノ居住者其ノ他患者死者若ハ病毒ニ觸接シタル等ニ因リ病毒感染ノ疑アル者ニ對シテハ特設ノ隔離所若ハ病院病舎内ノ隔離室等ニ於テ隔離ヲ行フモノニシテ若止ムヲ得サル場合ニハ消毒方法ヲ施行シタル上其ノ家ニ於テ隔離ヲ行フコトヲ得而シテ其ノ隔離期間ハ從來ノ交通遮斷期間ノ如ク虎列刺、赤痢ハ滿五日間發疹室扶私ハ滿七日間「ペスト」ハ滿十日間ナリ又隔離所其ノ他被隔離者ヲ容ル、場所ハ内外ノ交通ヲ禁止スヘキキハ勿論ナリトス
法第十九條第二ニ依リ部落ノ交通遮斷等ヲ行フ場合ニハ流行地域ニ對スル交通遮斷ハ前ニ記載シタル家ニ對スル交通遮斷ノ例ニ準シ又部落内ノ人民ニ對スル隔離ハ前記ノ家ノ居住者ニ對スル隔離ノ例ニ準シ措置スルコト、爲セリ

(五)第十條中改正

(條文)第十條中「檢診」ヲ「健康診斷及死體檢案又ハ鼠族其ノ他ノ檢査」ニ改ム

(趣旨)從來地方長官ハ市町村ノ醫師ヲシテ法第十九條第一ノ健康診斷ヲ行ハシムルコトヲ得タルニ尙死體檢案又ハ鼠族ノ細菌檢査等ヲモ都合次第ニテ市町村ノ醫師ニ行ハシムルヲ得ルコト、爲セリ

明治三十年内務省令第十三號清潔方法消毒方法中改正條項

(一)第一條中改正

(條文)四 「ペスト」ニ對シテハ前各號ノ外屋根裏、天井、羽目板間、床下等ニ就テ鼠族ノ搜索驅除ヲ行フヘシ

五、傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル家ニ於テ施行スル場合亦前各號ヲ準用スヘシ

(趣旨)「ペスト」ニ對シテハ一般ノ清潔方法ヲ行フノ外屋根裏、天井、羽目板間、床下等ニ就テ鼠ヲ驅除スルノ必要アリ故ニ患家ハ勿論患家ト交通ヲ爲シタル家又ハ鼠ノ交通等ニ依リ病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル家ニ於テモ清潔方法及鼠ノ驅除ヲ施行セシムルコト、爲セリ

(二)第六條第二號中改正

(條文)第六條第二條中「其ノ他ノ排泄物」ノ下ニ「及塵芥動物ノ死體」ヲ加フ

(趣旨)傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル塵芥竝ニ傳染病毒ニ感染シ若ハ感ノ疑染アル鼠族等ノ死體ハ燒却消毒ヲ行フノ必要アルヲ以テ之ヲ追加シタリ

(三)第九條中改正

(條文)第九條中「煮沸消毒ハ」ノ下ニ「消毒スヘキ物品ヲ全部水中ニ浸シ」ヲ加ヘ「一時」ヲ「三十分」ニ改ム

(趣旨)煮沸消毒ヲ行フ場合ニ於テ從來沸騰後一時間以上煮沸スヘシト定メタルモ消毒スヘキ物品ヲ全部水ニテ覆フ様ニ爲セハ沸騰後三十分間ニシテ確實ニ消毒ノ効アルニ依リ從來「一時以上」トアリタルヲ「三十分間以上」ト改メタリ

(四)第十條第一號石炭酸水ノ部中改正

(條文)第十條第一號ノ四中「十二時」ヲ「六時」ニ改ム

(趣旨)石炭酸ヲ以テ衣類等ヲ消毒スルニ從來ハ十二時間以上浸漬スヘキモノト爲ミタルヲ將來六時間以上浸漬セハ可ナルコト、爲セリ

(五)第十條中「石炭酸水」ノ次ニ「クレゾール」水ヲ加ヘタルコト

(條文)第十條第一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

一ノニ「クレゾール」水(「クレゾール」石鹼液六分、水九十四分)

「クレゾール」水ヲ製スルニハ「クレゾール」石鹼液六分ニ定量ノ水ヲ加フヘシ

「クレゾール」水ハ各種物件ノ消毒ニ適シ其ノ用量及應用ハ石炭酸水ニ準スヘシ

(趣旨)「クレゾール」水(「クレゾール」石鹼液六分、水九十四分)ハ「クレゾール」石鹼液(粗製「クレゾール」及加里石鹼各等分ヨリ成ルモノニシテ不日日本藥局方ニ追加)六分ニ水九十四分ヲ加ヘ能ク攪拌シテ製スルモノニシテ百分ノ中三分ノ粗製「クレゾール」ヲ含ム其ノ消毒力ハ石炭酸水(二十倍)ト同等ナリ加之加里石鹼ヲ混有スルヲ以テ手足

身體其ノ他脂垢等ニテ汚レタル物品又ハ咯痰等ノ消毒ニ適ス依テ之ヲ法定消毒藥中ニ加ヘタリ其ノ應用量ハ凡テ石炭酸水ニ準スヘキモノトス

(六)第十條第二號昇汞水ノ部中改正

(條文)第二號中「凡十萬分一ノ「フロキシシ」ヲ「スカレット」又ハ「ゾイレフクシン」其ノ他適當ノ色素」ニ又ハ木製器具ノ消毒ニ用フヘシ飲食器、玩具、疊、敷物」ヲ「木製器具又ハ室内ノ消毒ニ適ス飲食用器具、玩具」ニ改ム

第二號末尾ノ次ニ左ノ通追加ス

手足等ヲ消毒スルニハ洗滌シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗滌スヘシ

(趣旨)「フロキシシ」ニテ昇汞水ヲ著色スルトキハ往往沈澱ヲ生シ且時日ヲ經ルトキハ褪色スルヲ以テ寧ロ「スカレット」又ハ「ゾイレフクシン」等ヲ用キシムルコトニ改正シタリ然レトモ「フロキシシ」ノ使用ヲ絶對的ニ禁止スルノ趣旨ニハ非サルヲ以テ當分ノ内從來購入シ居レル「フロキシシ」ヲ使用スルモ妨ナシ

昇汞ハ猛毒ナルモ其ノ千倍溶液ニ著色シテ一見識別シ易カラシメ且使用ノ際充分ニ注意スルニ於テハ室内建具、疊、敷物又ハ手足ノ消毒等ニ用ユルモ差間ナキノミナラス昇汞ヲ用ユルトキ

ハ消毒費用ヲ節約スルヲ得ルノ利益アルヲ以テ消毒ノ智識經驗ニ富メル地方ニ對シテハ從來ヨリモ廣ク昇汞水ヲ使用セシメント欲ス

(七)第十條第三號中改正

(條文)同法第三號中「芥溜、床下及「溝渠、芥溜ニ對スル量ハ之ニ準シ床下ニ於テハ其ノ全面ニ撒布スヘシ」ヲ削リ「生石灰末ノ五倍」ヲ「吐瀉物其ノ他排泄物等ノ容量四分ノ一以上」ニ改メ「普通石灰」以下「同一ノ效ナシトス」迄ヲ「普通石灰ハ生石灰ヲ得ルコト能ハサル場合ニ限り代用トシテ其ノ倍量ヲ用フヘシ」ニ改ム

(趣旨)(イ)(生石灰末ノ項中改正) 生石灰(苛性石灰)ハ水ト相待テ消毒ノ效アルモノナルヲ以テ其ノ乾燥シタル末ヲ乾燥シタル場所ニ撒布スルカ如キハ無効ニ等シ然ルニ從來往往乾燥シタル床下芥溜等ニ之ヲ濫用スルノ弊アルヲ以テ寧ロ芥溜、床下ニハ一切生石灰ヲ用キシメサルコト、爲セリ

(ロ)(石灰乳ノ項中改正) 石灰乳(十倍)ノ用量ハ生石灰末ノ五倍ニテハ甚タ稀薄ニ過クルカ故

ニ消毒スヘキ吐瀉物其ノ他排泄物等ノ容量四分ノ一以上ト定メタリ即チ有效ナル苛性石灰ハ被消毒物全量ノ五十分一以上ノ割合トナル計算ナリ

(ハ)普通石灰ノ項中改正竝ニ木灰ノ項削除) 普通石灰中ニハ消毒上有效ナル苛性石灰ノ含量乏シキモノアリ從テ其ノ效力不確實ナルヲ以テ生石灰ヲ得ルコト能ハサル場合ニ限り代用トシテ其倍量ヲ用キシム即チ普通石灰ヲ末ニテ用ユルトキハ消毒物容量ノ二十五分一以上ヲ用キシメ乳(十倍)ト爲ストキハ消毒物ノ容量ト約同量ヲ用キシム又木灰ハ原料ノ種類等ニ依リ效力不確實ナルノミナラス今日ニ於テハ何レノ地方ニテモ生石灰又ハ普通石灰ヲ得ルコト能ハサルカ如キコトナシト認ムルヲ以テ將來消毒藥トシテ用キシメサルコト、爲セリ

(八)第十條中「格魯兒石灰水」ノ次ニ「加里石鹼又ハ綠石鹼」ヲ加ヘタルコト

(條文)五 加里石鹼又ハ綠石鹼

加里石鹼又ハ綠石鹼三分ヲ熱湯百分ニ溶解シ使用ノ際ニハ加熱スルヲ要ス
加里石鹼又ハ綠石鹼ハ不潔ナル木製器具、戸、障子、床面等ノ消毒ニ適ス

(趣旨)加里石鹼又ハ綠石鹼ノ溶液ニ加熱シタルモノハ消毒上有效ナルヲミナラス不潔ナル部分ヲ清淨トナスノ效アルヲ以テ木製器具、戸、障子、床面等ノ消毒ニ適ス依テ之ヲ法定消毒藥中ニ加ヘタリ

(九)第十條中「フォルムアルデヒド」ヲ加ヘタルコト

(條文)六 「フォルムアルデヒド」

「フォルムアルデヒド」ハ「フォルマリン」ヲ噴霧發生セシメ又ハ適當ノ裝置ニ依リ之ヲ發生セシムヘシ

「フォルムアルデヒド」ヲ使用セントスル際ハ左ノ諸件ニ注意スヘシ
一 氣密ニ閉鎖シ得ヘキ消毒函内又ハ土藏造、洋風建物、船舶、汽車等ニシテ戸扉、窓孔等ヲ密閉シ得ヘキ室内ニ非サレハ之ヲ使用スヘカラス
二 消毒函又ハ室内ノ容積百立方尺ニ付「フォルマリン」四十瓦以上噴霧セシム若ハ「フォルムアルデヒド」瓦斯十五瓦以上ヲ發生セシメ同時ニ約百瓦以上ノ水ヲ蒸發セシムルノ比例ヲ以

テ處置シタル後七時間以上密閉シ置クヘシ

「フオルムアルデヒド」ハ左ノ消毒ニ用キルコトヲ得

一 注藏造、洋風建物、船舶、汽車等ハ密閉シ得ル室内又ハ室内ニ定著セル器物等ニシテ他ノ消

毒方法ヲ行フコト能ハサルモノ

二 他ノ消毒方法ヲ行フコト能ハサル貴重品其ノ他ノ物件ニシテ其ノ内部ニ至ルマテ消毒方法ヲ

施スノ必要ナシト認メタルモノ

(趣旨)「フオルムアルデヒド」瓦斯ハ水蒸氣ト相待テ消毒上有效ナルヲ以テ法定消毒藥中ニ加

ヘタリ然レモ效力ノ確實ヲ期センニハ充分ノ注意ヲ要スルヲ以テ換氣少ナク且氣密ニ閉鎖シ得

ヘキ室内又ハ函内ニ於テ用キシムル等應用ノ範圍ヲ限定シタリ又之ヲ使用スル際ハ相當心得ア

ル者ヲシテ其ノ方法、用量等ニ注意セシムルヲ要ス

(十)第十一條第六號「衣服器具敷物等」ノ部第二項中改正

(條文)第十一條第六號中「曹達石鹼」ヲ「加里石鹼又ハ綠石鹼」ニ「若ハ之ヲ撒布スヘシ」ヲ「若ハ

之ヲ撒布シ」又ハ「フオルムアルデヒド」ヲ用フヘシ」ニ改ム

(趣旨)曹達石鹼ハ消毒ノ效力薄弱ナルヲ以テ加里石鹼又ハ綠石鹼ヲ用キシムルコト、シ又貴重

品ニシテ他ノ消毒藥ヲ使用スルトハ其品質ヲ損スルモノアリ是等ノ物ニハ「フオルムアルデヒ

ド」ヲ用キシムルコト、爲セリ

(十一)第十一條第七號改正

(條文)第七、家屋

患者ノ居室其ノ他傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル室内各部ハ石炭酸水又ハ昇汞ヲ以テ拭淨

スヘシ

但土藏造、洋風建物等密閉シ得ヘキ室内ニハ「フオルムアルデヒド」ヲ用キルコトヲ得

消毒後ハ日光ノ射入空氣ノ流通ヲ良クシ乾燥セシムルヲ要ス

(趣旨)何レノ傳染病ニアリテモ消毒スヘキ場所ハ患者ノ居室ノミニ限ラス殊ニ「ベスト」ナルト

キハ病鼠ノ交通アルヘキヲ以テ患者ノ居室其ノ他病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アリト認ムル室内

各部ヲ消毒セサルヘカラス而テ土藏造、西洋造ノ建物等ニシテ其ノ構造カ室内ヲ密閉シ得ヘキ様ニ出來居ルトキハ「フォームアルデヒード」ヲ用キルコトヲ得ルコト、爲セリ

(十二) 第十一條第七ノ二追加

(條文) 第七ノ二 井戸、水槽等

傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル井戸、水槽等ニハ水量九十分一ノ生石灰ヲ乳狀トナシテ投入シ能ク攪拌シタル後十二時間以上放置シ又ハ適當ノ裝置ニ依リテ熱蒸氣ヲ通シ三十分間以上沸騰セシムヘシ

(趣旨) 傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル井戸、水槽等ノ消毒ニ關シテハ從來別段ノ規定ナク各地方ノ處置區區ニ涉リ往々消毒不充分ナリト認ムル場合アルヲ以テ本號ノ規定ヲ追加シタリ

船舶檢疫規則中改正條項

(一) 第二條中改正

(條文) 第三條第二項中「船舶」ノ下ニ「其ノ他傳染病毒ニ汚染ノ虞ナキ船舶」ヲ加フ

(趣旨) 航行中又ハ檢疫ノ際現ニ傳染病患者若ハ死者ナキ船舶ト雖モ「ペスト」鼠アリ又ハ該病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル荷物ヲ搭載セルカ如キ場合アリ故ニ患死者ナキ船舶其ノ他傳染病毒ニ汚染ノ疑ナキ船舶ニアラサレハ進航、交通其ノ他ノ許可ヲ與ヘサルコト、爲セリ

(二) 第四條第一項中改正

(條文) 第四條第一項中「船舶ニハ消毒方法ヲ施行シ」ヲ「船舶其ノ他傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル船舶ニハ消毒方法ヲ施行シ」ニ改メ

(趣旨) 傳染病患者死者アリタル船舶ハ勿論患者死者ナキモ病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル船舶ニハ消毒方法ヲ施行スルコト、爲シ又「ペスト」ノ場合ニハ特ニ鼠族ノ驅除ヲ行フコト、爲セリ

(三) 第四條第二項中改正

(條文) 第四條第二項中「交通遮斷」ノ下ニ「隔離」ヲ加フ

(趣旨) 法第八條ノ改正ニ依リ交通遮斷ト隔離トヲ區分シタルノ結果船舶及其ノ乘客乘組人ノ停留期間ハ單ニ交通遮斷ノミノ日時ニ準スルコト能ハサルコト、ナレリ依テ交通遮斷及隔離ノ日

時ニ準スヘキコト、爲セリ

(四)第四條第三項中改正

(條文)第四條第二項中「消毒方法」ノ下ニ「鼠族驅除」ヲ加フ

(趣旨)「ペスト」ナルトキハ消毒方法ノ外鼠族ノ驅除ヲ行フノ必要アリ此場合ニ於テ乘組人ヲシテ鼠族ノ搜索捕獲殺鼠劑ノ調製、捕鼠器ノ配置等ヲ補助セシメ且捕鼠器等ヲ供給セシムルヲ得ルコト、爲セリ

明治三十八年内務省令第二十一號傳染病豫防法第十九條ノ二ニ依ル手當金ニ

關スル件

本令ニ發布ハ本法中ノ改正ニ伴フモノニシテ其ノ條項左ノ如シ

(一)第一條

(條文)地方長官(東京府ハ警視總監以下之ニ倣フ)ハ傳染病豫防法第十九條ノ二ニ依リ傳染病ニ汚染シタル建物ニ

對シ別段ノ處分ヲ行ヒ且ツ其ノ處分ノ爲必要ナル土地ヲ使用セントスルトキハ其ノ旨ヲ建物業

地ノ所有者又ハ管理者ニ通達スヘシ

(趣旨)「ペスト」病豫防ノ爲メ必要アルトキハ地方長官ハ建物ヲ破壊シ又ハ解崩シテ之ヲ燒却スル等別段ノ處分ヲ行ハントスル場合及其ノ處分ヲ行フニ就キ土地ヲ使用スルノ必要アルトキハ先ツ以テ其ノ次第ヲ建物、土地ノ所有者又ハ其ノ管理者ニ通達スヘキコト爲セリ

(二)第二條

(條文)前條ノ場合ニ於テ損害ヲ受ケタル建物ノ所有者ニ交付スヘキ手當金額ハ地方官時價ヲ參酌シテ之ヲ決定ス

(趣旨)前條ノ場合ニ其ノ處分ニ因リ損害ヲ受ケタル建物ノ所有者ニ交付スヘキ手當金額ハ地方長官ニ於テ其ノ處分當時ノ買賣價格ヲ參酌シテ之ヲ決定スヘキコト、爲セリ

(三)第三條

(條文)市町村長區長(北海道、沖繩縣ノ區長以下之ニ倣フ)戶長(戶長ニ準スヘキ者ヲ含ム以下之ニ倣フ)地方長官ヨリ手當金額決定ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ建物所在ノ市(北海道、沖繩縣ハ區)町村(沖繩縣ハ間切島)番地及手當金額ヲ所有者ヲ

外建物ニ關シテ權利ヲ有スル者ニ通達シ且相當ノ期間公告シ尙必要アリト認ムルトキハ他ノ權利者ノ承諾書ヲ徵シタル上損害ヲ受ケタル建物ノ所有者ニ對シ手當金ヲ交付スヘシ

(趣旨)市町村長區長戸長等ニ於テ地方長官ヨリ建物ノ所有者ニ交付スヘキ手當金額決定ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ所有者ニ通達スヘキハ勿論尙其ノ建物ニ關シ書入抵當等ノ權利ヲ有スル者アルコトヲ知り得タルトキハ其ノ權利者ニモ所定ノ事項ヲ通達セサルヘカラス加之本文所定ノ事項ハ相當ノ期間新聞紙等ニ公告スルコトヲ要ス而テ必要ト認ムルトキハ尙抵當權者等ノ承諾書ヲ徵シタル上建物ノ所有者ニ對シ手當金ヲ交付スヘキモノトス尤所有者ト他ノ權利者トノ協議繼マラス承諾書ヲ徵スルヲ得サル場合ニハ其ノ以上ハ最早當事者間ノ訴訟ニ任スルノ外ナク市町村長等ノ干涉スヘキ限ニ非ス結局承諾書ナクトモ所有者ニ手當金ヲ交付セサルヘカラスト雖若抵當權者等ヨリ申出アルトキハ第四條ニ依リ處理スヘシ

(四) 第四條

(條文)市町村長區長戸長ハ前條ノ期間内ニ他ノ權利者ノ申請アリタルトキハ期日ヲ指定シテ手

當金ノ交付ヲ延期スルコトヲ得

(趣旨)市町村長區長戸長等ハ場合ニ依テ相當期間内ニ抵當權者等ノ申立アリタルトキハ見込次第ニテ手當金ノ交付ヲ延期シ權利者ニ於テ裁判所ニ出訴スル等相當手續ヲ爲スノ餘裕ヲ存スルコトヲ得ヘシ

以上ハ傳染病豫防法及同法施行ニ關スル諸規則ノ改正條項ヲ掲ケ改正ノ趣旨等ヲ略説シタリ今回ノ改正ニ付注意スヘキ點アリ他ナシ今回ノ改正ハ從來ノ法律規則ニテ公認シタル豫防ノ方法手段ヲ一層擴張シタルカ又ハ或ル方法手段ヲ應用スルコトヲ得ヘキ場合ヲ從來ヨリモ擴張シタルカ又ハ從來ノ法律規則ニテ地方長官若ハ當該吏員ノ行フコトヲ得ヘキ權限ヲ二層擴張シタルモノナリ之ニ反シ從來ノ法律規則ニテ公認シタル方法手段ヲ今回ノ改正ニテ非認排斥シ又ハ應用ノ場合ヲ從來ヨリモ縮少シ又ハ地方長官當該吏員ノ權限ヲ縮少シタル點ハ殆無シト云フモ可ナリ唯些細ナル二三ノ點ニ於テ從來ノ方法手段ヲ排斥シ又ハ應用ノ場合ヲ制限シタルノミ今左ニ是ヲ列舉セン

第十八輯 傳染病

一從來ノ法律規則ニテ公認シタル方法手段ヲ加ヘタルモノ

- (イ) 法第十六條ノ二 鼠族驅除及之ニ關スル施設ヲ爲スノ義務ヲ市町村ニ負ハシメタルコト
 - (ロ) 法第十七條ノ二 家用 waters 供給ノ義務ヲ市町村ニ負ハシメタルコト
 - (ハ) 法第十九條第一中ニ死體檢案ヲ加ヘタルコト
 - (ニ) 同上第九 鼠族驅除及之ニ關スル施設各個人ニ命スルヲ得ルコト
 - (ホ) 法第十九條ノ二 病毒汚染ノ建物ニ對シ別段ノ處分ヲ爲スヲ得ルコト
 - (ヘ) 施行規則第四條及省令清潔方法消毒方法第一條「ペスト」ニ就テハ清潔方法消毒方法ノ施行ト共ニ鼠族ノ驅除ヲ施行セシムルコト並船舶檢疫規則第四條船舶ニ就テモ之ニ準シ處置スルコト
 - (ト) 施行規則第五條患者ヲ市町村立ノ病院病舎ニ限ラス他ノ病院ニモ入ラシムルヲ得ルコト
 - (チ) 省令清潔方法消毒方法第十條中「クレゾール」水「加里石鹼又ハ綠石鹼」及「フォルムアルデヒド」ヲ加ヘタルコト
- ニ豫防ノ方法手段ヲ應用スルヲ得ヘキ場合ヲ廣クシタルモノ

- (イ) 施行規則第三條苟モ病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アルコトヲ知リタルトキハ通報スヘキコト
- (ロ) 法第五條施行規則第四條苟モ病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル家ニ對シテハ清潔方法消毒方法ヲ施行セシムルヲ得ルコト並船舶檢疫規則船舶ニ於テモ之ニ準シ處置スルコト
- (ハ) 第八條施行規則第六條病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル家ニモ交通遮斷ヲ行フヲ得ルコト又病毒感染ノ疑アル者ハ總テ隔離スルヲ得ルコト並法第十九條第二ニ依ル部落ノ遮斷、人民ノ隔離及船舶檢疫規則第四條船舶ニ就テモ之ニ準シ處置スルコト
- (ニ) 法第十九條第六般船舶ノ外汽車、製造所、鑛山等ニモ醫師ノ雇入ヲ命スルヲ得ルコト
- (ホ) 船舶檢疫規則第二條病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル船舶ニモ進航、交通其ノ他ノ許可ヲ與ヘサルコト
- (ヘ) 船舶檢疫規則第四條船舶ニ鼠族驅除ヲ施行スルトキ乗組人ヲシテ補助ヲ爲サシメ及器具藥品等ヲ供給セシムルヲ得ルコト
- (ト) 省令清潔方法消毒法第六條塵芥動物ノ死體ヲモ燒却スルコト

- (チ)同上第九條煮沸消毒ノ時間ヲ短縮シタルコト
- (リ)同上第十條第一號衣類等ヲ石炭酸水ニ浸漬スル時間ヲ短縮シタルコト
- (ヌ)同上第十號第二號昇汞水ノ用途ヲ廣クシ室内ノ消毒手足ノ消毒等ニモ用ヰシムルコト、爲シタルコト
- (ル)同上第十一條第七號患者ノ居室ノ外室内各部ノ消毒ニ關シ規定シタルコト
- (ヲ)非戸水槽等ノ消毒ニ關シ規定シタルコト

三前記ノ如ク豫防ノ方法手段ヲ増加シ又ハ其ノ應用ノ場合ヲ廣クシタルハ即直接間接ニ地方長官並

- 當該吏員ノ權限ヲ擴張シタル所以ナリト雖其ノ外尙直接ニ其ノ權限ヲ擴張シタルモノ左ノ如シ
- (イ)法第十四條當該吏員カ家宅船舶等ニ立入ルニハ必シモ戸主、船長、管理人ニ限ラス其ノ代理者ニ告知スルモ可ナルコト
- (ロ)法第十八條船舶汽車檢疫ノ際發見シタル患者ヲ收容治療セシムルハ必シモ發見地ノ市町村

立ノ病院病舎ニ限ラス都合次第ニテ附近市町村ノ病院病舎ニ收容治療セシムルヲ得セシメ又

病毒感染ノ疑アル者ヲモ同様發見地又ハ附近市町村ノ隔離所ニ入ラシムルヲ得ルコト

- (ハ)同上檢疫ノ施行セサル場合ニ船舶汽車中ニ患者又ハ病毒感染ノ疑アル者アリタルトキノ處置ヲ規定シタルコト
- (ニ)同上在監人出獄ノ際傳染病ニ罹リ又ハ病毒ニ感染ノ疑アル者アリタルトキノ處置ヲ規定シタルコト

- (ホ)施行規則第十條市町村ノ醫師ヲシテ死體檢案又ハ鼠族ノ細菌檢査等ヲモ爲サシムルコト
- (ヘ)法第三十一條當該吏員ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス又ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ヲ處罰スルコト

反之今回ノ改正ニ依リ從來ノ方法手段ヲ非認排斥シ又ハ其應用ノ場合ヲ縮少シタルモノハ僅ニ左ノ條項アルニ過キス

- (イ)省令清潔方法消毒方法第十條第二昇汞水ノ部ニ於テ昇汞水ヲ「フロキシシン」ニテ著色スルコトヲ改メ「スカレット」又ハ「ゾイレフクシン」等ニテ著色セシムルコト

(ロ)同上第十ノ第三號石灰末ノ部ニ於テ生石灰末ヲ床下芥溜ノ消毒ニ用キルコトヲ廢止シタルコト

(ハ)同上石灰乳ノ用量ハ從來「生石灰末ノ五倍」ト定メタルヲ改メ「吐瀉物等ノ容量四分ノ一以上」ト爲シタルコト

(ニ)同上普通石灰ハ生石灰ヲ得ルコト能ハサル場合ニ限り代用トシテ生石灰ノ倍量ヲ用キシムルコト

(ホ)同上木灰ハ將來消毒藥トシテ使用セシメサルコト

(ヘ)第十一條第六號革類革製品等ハ從來曹達石鹼ニテ洗ヒタルヲ改メ加里石鹼又ハ綠石鹼ヲ用キルコト

今ヤ夏季傳染病流行ノ虞アルニ際シ豫防法及其ノ施行諸規則ノ改正アリ之レカ爲當該吏員等ノ間ニ取扱上疑惑ヲ生スルコトアラシカ豫防上却テ障害ヲ來サンコトヲ恐ル然レトモ今回ノ改正ハ上記載セルカ如ク從來ノ取扱方ヲ非認排斥シタル點ハ消毒方法ニ關シテ前記ノ六點アルノミ其ノ他豫防

施行諸規則中ノ改正ハ總テ從來ノ法令ニ於テ公認シタルモノ、外ニ方法手段應用權限等ヲ擴張シタルモノナリト雖多クハ從來已ニ勸告誘導等ノ手段ニ依リ實行シ來リタル事項ヲ法律規則中ニ編入シタルニ過キササルヲ以テ其ノ實施上疑惑ヲ生スルカ如キコトアラサルヘシ然レトモ當該吏員等ノ中若尙未改正條項ノ趣旨ニ通曉セサル者アラハ先以テ前記消毒法ニ關スル六點ニ注意シ其ノ他ハ從來ノ取扱振リニ依リ豫防事務ノ實行ニ努ムヘシ而テ幸ニ傳染病ノ發生セサルニ當リテハ改正條項ノ趣旨ヲ講究シ能ク其ノ精神ヲ明ニシ著者實效ヲ奏センコトヲ要ス

刑事被告人等傳染病ニ罹リタル者措置方ノ件

明治三十年八月警視廳
第一部長通第二四一號

刑事被告人其ノ他拘留人ニシテ傳染病ニ罹リタル場合ニ於ケル措置及經費等ニ關シ監獄警保兩局長ヨリ別紙ノ通通牒越候條依命此段及通牒也

(別紙)三宮甲第一六號

第十八輯 傳染病

拘留狀ヲ執行シタル刑事被告人ハ裁判所所在地ニ監獄ナキ場合ニ於テノミ之ヲ警察署内ノ留置場ニ拘禁スルコトヲ得ルト雖監獄アル場合ニ於テハ其健康者タルト疾病者タルトヲ問ハス之ヲ監獄ニ送致セサルヘカラサル儀ニ有之從テ刑事被告人ニシテ傳染病患者タルトキモ亦之ヲ監獄ニ送致セサルヘカラサルハ勿論ナルモ或ハ監獄ニ於テ患者收容ノ設備ナク臨時監外ニ設備スル場合モ可有之ニ付其都度豫メ收容セラルヘキ場所ヲ打合セタル後送致スル等傳染病患者取扱上遺憾ナキヲ期セラレタク且監獄外ニ臨時收容ノ場所ヲ設備スルノ際典獄ノ請求アルニ於テハ市町村ニ協議シテ傳染病院若ハ隔離病舎ヲ借入ル、等充分ノ便宜ヲ與ヘ候様致度候尙又監獄所在地ニ在ラサル警察署内ノ留置場ヲ拘置監ニ代用シ刑事被告人ヲ拘禁スル場合ニ於テ傳染病患者發生シタルトキハ警察署長ニ於テ可成市町村ト協議シテ其傳染病院若ハ隔離病舎ニ收容シ若シ此等ノ設備ナクハ不得已適宜ノ場所ニ隔離シテ治療ヲ施シ候様致度而シテ右隔離ニ要スル借家料若ハ小屋掛料ハ警察費ヨリ支辨シ醫療手當藥價賄費等該被告人一身ニ係ルモノ及收置ノ器具竝臥具費ハ監獄費ノ負擔トナスヘキ儀ニ有之候其他警察署内ノ留置場ニ拘禁又ハ留置中ノ者ニシテ傳染病ニ罹リタルトキモ亦同様御措置ノ上其費

司法省 監獄局長
内務省 警保局長

警視總監宛

即決處分ニ依ル拘留囚傳染病ニ罹リタル場合ニ

關スル件

明治四十二年十一月警視廳
往一刑第八四九號一部長通達

用ハ總テ警察費ヨリ支辨セラルヘク尤モ拘留狀若ハ逮捕狀ヲ執行セラレタル者ニ限りテハ明治三十五年法律第十一號ニ依リ處理セラルヘキ儀ニ有之候依命此段及通牒候也

明治三十八年七月十九日

違警罪即決例ニ依リ處分ヲナシタル拘留囚ニシテ警察官署ノ留置場ニ留置中傳染病ニ罹リ治療ノ爲メ病院ヘ移送シタル場合ニ於テ其ノ入院治療中ノ日數ハ監獄法第四十三條第二項ニ依リ刑期ニ算入スヘク又監獄法施行規則第百十四條ノ場合ニ於テハ當該警察官署長ヨリ申請認可ヲ受クヘキ義ト心

得ラルヘク依命此段及通譯候也

赤痢病疑似症ニ對シ傳染病豫防法適用ノ件

明治三十三年五月
警視廳令第二一號

明治三十年法律第三十六號傳染病豫防法第二條ニ依リ赤痢疑似症ニ對シ同法ノ全部ヲ適用ス
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

虎列刺疑似症ニ對シ傳染病豫防法ノ全部適用ノ件

明治三十七年六月
警視廳令第一三號

明治三十年^三月法律第三十六號傳染病豫防法第二條ニ依リ虎列刺疑似症ニ對シ同法ノ全部ヲ適用ス
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

バラチフスニ對シ傳染病豫防法適用ノ件

明治四十四年七月
內務省令第九號

明治三十年法律第三十六號傳染病豫防法第一條第二項ニ依リ「バラチフス」ヲ同法ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要トスル傳染病ト指定ス

附 則

本令ハ明治四十四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

バラチフスニ對シ傳染病豫防法適用ノ件

明治四十四年八月
宮内省令第七號

宮内傳染病豫防令第一條第二項ノ規定ニ依リ「バラチフス」ヲ以テ腸室扶私ト同一ナル豫防方法ノ施行ヲ必要トスル傳染病ト指定ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十八輯 傳染病

傳染病患者急報ニ關スル件

明治四十二年十月警視廳
發三ノ衛第六三五號第三部長通牒

從來傳染病患者發生及死亡ノ届出アリタルキハ傳染病豫防手續第四條ニ依リ當部へ電報ヲ以テ急報
スヘキ義ニ有之候處自今全治ノ届出アリタルトキモ之ニ準シ電報ヲ以テ急報相成候様致度此段及通
牒候也

赤痢病疑似症(所謂疫痢ナルモノヲ含ム)ニ

對シ傳染病豫防法適用ノ件

明治四十四年八月
警視廳令第一六號

明治三十三年五月警視廳令第二十一號中赤痢疑似症ノ下ニ「(所謂疫痢ナルモノヲ含ム)」ヲ加フ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年七月警視廳令第四十七號ハ之ヲ廢止ス

腸窒扶私疑似症ニ對シ傳染病豫防法適用ノ件

明治四十三年五月
警視廳令第二八號

傳染病豫防法第二條ニ依リ腸窒扶私疑似症ニ對シ同法第三條及第三十條ヲ適用ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

「パラチフス」患者死者アリタルトキ届出ノ件

明治四十三年五月
警視廳令第二九號

醫師「パラチフス」又ハ其ノ疑アル患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢按シタルトキハ直ニ患者若ハ死體
所在地ノ警察官吏ニ届出ヘシ

本令ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

麻疹又ハ其疑アル患者死者アリタルトキ届

出ノ件

明治四十三年三月
警視廳令第十四號

麻疹又其ノ疑アル患者若ハ其ノ死者アリタル家ニ於テハ速ニ醫師ノ診斷若ハ檢按ヲ受ケ又ハ直ニ其ノ所在地ノ警察官吏ニ届出ヘシ
前項ノ届出ヲ爲スヘキ義務者ハ一般民家ニ在リテハ戸主若ハ之ニ代ルヘキ者、寄宿舎、船舶及育兒院又ハ之ニ準スヘキ場所ニ在リテハ其ノ首長、管理人若ハ代理人トス
醫師麻疹ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢按シタルトキハ直ニ患者若ハ死體所在地ノ警察官吏ニ届出ヘシ
本令ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

「パラケフス」患者死者アリタルトキ届出廢止ノ件

明治四十四年七月
警視廳令第一五號

明治四十三年五月
警視廳令第二十九號ハ之ヲ廢止ス
本令ハ明治四十四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

傳染病研究所ニ於テ賣捌キタル血清引換方ノ件

明治四十三年五月内務省
衛發第三五八號

傳染病研究所ニ於テ賣捌キタル左記血清ニシテ使用前効力持續期間（試験月日後一ケ年）ヲ經過シタルモノアルトキハ同所ニ於テ無料ヲ以テ其ノ引換ノ請求ニ應スルコトニ相成候間御承知相成度此

段及通牒候也

追テ効力持續期間經過後二ヶ月ヲ過キ若ハ封緘其他ノ異狀アルモノハ本文ノ例ニ依ルノ限ニ無
之尙ホ交換ニ要スル運送賃等ハ請求者ノ負擔ニ有之候此段申添候

記

- 一 液體デフテリア血清
- 一 液體破傷風血清
- 一 腸窒扶私血清
- 一 赤痢血清
- 一 虎列刺血清
- 一 ペスト血清
- 一 飯匙蛇血清
- 一 連鎖球菌血清

以上

「ペスト」病豫防ノ爲住屋外跣足歩行禁止ノ件

明治三十四年五月
警視廳令第四一號

「ペスト」豫防ノ爲東京市内ニ於テハ住屋内ヲ除ク外跣足ニテ歩行スルコトヲ禁ス
本令ニ違背シタル者ハ刑法第四百二十六條第四號ニ依リ拘留又ハ科料ニ處ス

「ペスト」豫防上ニ關スル注意ノ件

明治三十四年五月
警視廳告諭第五號

本日東京帝國大學醫科大學内科部構内ニ於テ斃鼠五頭ヲ發見シ之カ細菌検査ヲ行ヒシニ各「ペスト」
菌ヲ發見セシ趣就テハ「ペスト」病毒既ニ存在スルモノト認メラルルヲ以テ何時該病發生スルヤモ測
カラレス豫防上忽諸ニ附スヘカラサル次第ナルヲ以テ此際特ニ鼠族驅除法ヲ講スルハ勿論家屋ノ内
外其他不潔ノ場所ハ精細ニ清潔法ヲ施行スル等諸般豫防上ノコトニ注意シ該病ヲ未發ニ防遏スル途
ヲ努ムヘシ

「ペスト」病豫防ニ關スル件

明治三十四年五月
東京府訓令第一九號

當府ニ在テハ今日未タ「ペスト」患者ノ發生ヲ見スト雖モ其ノ病毒ハ既ニ鼠類ニ侵蝕シ本月二十一日ヨリ二十五日ニ至ル五日間東京帝國醫科大學構内ニ於テ三頭ノ斃鼠及ヒ一頭ノ病鼠ニ「ペスト」菌アルコトヲ確認セリ抑「ペスト」病毒ノ猛惡兇險ニシテ豫防上最モ注意ヲ要スルコトハ既ニ屢々訓示セシ所而シテ其ノ病毒ハ先ツ鼠族ニ傳播シ遂ニ人體ニ及ホスハ亦事實ニ徴シテ疑ヲ容レス然ルニ其病巢タルヘキ鼠族ニ於テ既ニ病毒ヲ發見セシ以上ハ病毒何レノ場所ニ潜在シ何時其ノ發生ヲ見遂ニ非常ノ慘害ヲ來スヤハ實ニ測リ知ルヘカラス豫防上最モ警戒ヲ要スル時期ナルニ付テハ一層慎重ノ注意ヲ以テ慘害ヲ未發ニ防遏スルコトニ劣ムヘシ其ノ方法ニ至テハ明治三十二年十一月十一日當府訓令第四十二號ニ要領ヲ掲ケタリト雖モ就中左記ノ事項ハ實施上其ノ急ヲ要スルモノトス

一 「ペスト」病毒ハ先ツ鼠族ニ傳播蔓延シ人體ニ傳染スルヲ以テ其ノ常ト爲スニヨリ鼠族ヲ驅除スルニアラサレハ到底其ノ撲滅安全ヲ期シ難シ依テ此ノ際適當ノ手段ヲ取り各戸ヲシテ鼠族ヲ驅除セシメ其巢絶ヲ計ルコト

- 二 傳染病豫防法第十九條同施行規則第十條ニ依リ其ノ向ヨリ市町村ノ醫師ニ檢診施行ノ令達アリタルトキハ何時タリトモ其ノ施行ニ差支ヘサルノ準備ヲ爲シ置キ尙ホ市町村ニ於テハ自治ノ行爲トシテ患者有無ノ視察ヲ爲スコト
- 三 傳染病院隔離病舎其ノ他豫防消毒上ノ設備ニ付テハ隨時處置ニ差支ヘサル様時期ヲ失セス準備ヲ爲スコト
- 四 講話會ヲ開キ幻燈ヲ利用シ其ノ他適當ノ方法ヲ以テ豫防ノ要領ヲ一層各個人ニ周知セシムルコト
- 五 小學教員ヲシテ豫防ノ要領ヲ就學者ニ懇説セシメ本病ニ對スル自衛心ヲ涵養セシムルコト
- 六 衛生組合ヲシテ一層豫防ノ實ヲ舉ケシムル様努ムルコト

檢病的調査手續

明治四十四年六月
警視廳訓令甲第四三號

- 一、檢的調査ハ左記ノ場合ニ於テ施行スルモノトス

- (イ) 傳染病流行時季
 - (ロ) 傳染病流行時季ニアラサルモ既ニ一地域内ニ於テ患者同時ニ數名發生シ又ハ流行ノ兆アルトキ
 - (ハ) 前各號ノ外豫防上必要ト認ムルトキ (公然患者發生ノ届出ナキ場合ヲ含ム)
- 二 調査スヘキ種類及場所左ノ如シ

- (イ) 貧民部落
- (ロ) 労働者 (荷物取扱人夫、停車場ニ出入スル労働者、船舶ニ出入スル労働者、古綿、襪襪、其ノ他古物ヲ取扱フ人夫又ハ職工等)
- (ハ) 部落ヲ爲ササル貧民
- (ニ) 木 賃 宿
- (ホ) 前年中傳染病流行セシ地域及其ノ附近
- (ヘ) 現下ノ傳染病流行地域及其ノ附近
- (ト) 其ノ他必要ト認ムル場所

- 三 調査ノ區域及程度方法ハ警察官署長必要ト認ムル限度ニ於テ適宜之ヲ定ムヘシ
 - 四 調査ノ際傳染病ノ疑アル患者ヲ發見シタルトキハ速ニ醫師タル檢疫委員ヲシテ健康診断ヲ行ハシムヘシ 但シ檢疫委員支障アルトキハ市區町村長ニ協議シ市町村醫ヲシテ之ニ當ラシムヘシ 健康診断ノ結果注意ヲ要スト認ムル者ハ特ニ注意患者トシテ當分ノ内其ノ病狀ヲ視察スヘシ
 - 五 檢病の調査ノ成績ハ旬報トシテ別紙様式ニ依リ毎翌旬三日内ニ報告スヘシ
- 明治三十四年五月訓令甲第四十三號、同年八月訓令甲第五十九號同三十五年九月訓令甲第五十一號ハ之ヲ廢止ス

自何月何日 檢病的調査報告		進達月日 署名 印	
至何月何日			
類 別	調査シタル	健康診断ヲ行ヒタル	發 見 シ タ ル 患 者 數
	總戸數 總人員		
貧民部落	總戸數 總人員	疑 眞	普通患者
	疑 眞		
	疑 眞		普通患者

第十九輯 檢疫及消毒

臨時檢疫職員設置臨時檢疫局官制廢止

明治三十一年十月
勅令第二六八號

檢疫豫防ニ關スル事務ヲ掌理セシムル爲メ内務省ニ臨時左ノ職員ヲ置キ衛生局ニ屬セシム
(三十二年十二月勅令三三三號ヲ以テ改正)

事務官	專任二人	奏任
技手	專任二人	判任

附則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

臨時檢疫局官制ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第十九輯 檢疫及消毒

檢疫委員設置規則

明治三十年六月
內務省令第一五號

傳染病豫防法第十八條ニ依リ檢疫委員設置規則左ノ通定ム

第一條 檢疫委員ハ廳府縣郡島廳ノ官吏醫師藥劑師等ニ就キ府縣知事(東京府ハ警視總監以下之ニ從フ)之ヲ命ス

警視總監ハ東京府知事ニ協議シ府ノ官吏ニ檢疫委員ヲ命スルコトヲ得

第二條 檢疫委員ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ傳染病豫防事務ノ監督廳府縣ニ於テ施行スル船舶汽車ノ檢疫其他傳染病豫防救治ニ關スル事務ニ從事ス

第三條 檢疫委員ノ設置及廢止ハ之ヲ告示スヘシ

第四條 檢疫委員ノ組織及職務ハ第五條以下ニ準據スヘシ 但廳府縣ノ本廳ニ限り檢疫委員ヲ置キ

又ハ郡市島ニ限り檢疫委員ヲ配置スルモ妨ナシ

第五條 廳府縣ノ本廳ニ檢疫委員長一人ヲ置ク 但必要アルトキハ副長一人又ハ數人ヲ置ク

檢疫委員長ハ警部長(警視總監ハ警察總長)副長ハ委員中ニ就キ府縣知事之ヲ命ス

第六條 府縣知事ハ郡市島ニ檢疫委員事務所ヲ置キ其郡市島内ニ屬スル第二條ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得

第七條 檢疫委員事務所ニ所長一人及副長一人又ハ數人ヲ置ク

檢疫委員事務所長ハ郡長島司又ハ警察署長ニ副長ハ委員中ニ就キ府縣知事之ヲ命ス

第八條 檢疫委員ノ職務章程ハ府縣知事之ヲ定ム

海港檢疫所官制

明治三十二年四月
勅令第一三七號

第一條 海港檢疫所ハ內務大臣ノ管理ニ屬シ海港檢疫ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 海港檢疫所ノ名稱及位置左ノ如シ

橫濱海港檢疫所

武藏國橫濱

神戸海港檢疫所

攝津國和田岬

長崎海港檢疫所

肥前國女神

前項ノ外肥前國口ノ津ニ長崎海港檢疫所ノ支所ヲ置ク

第三條 各海港檢疫所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 一人 奏任

海港檢疫官 專任一人 奏任

海港檢疫醫官 專任一人 奏任

海港檢疫官補 專任三人 判任

海港檢疫醫官補 專任二人 判任

海港檢疫所調劑手 專任一人 判任

海港檢疫所書記 專任二人 判任

海港檢疫所ニ左ノ職員ヲ置ク

支所長 一人

海港檢疫官補 專任二人 判任

海港檢疫醫官補 專任二人 判任

海港檢疫所書記 專任二人 判任

第四條 所長ハ海港檢疫官ノ中ヨリ内務大臣之ヲ補ス

所長ハ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理シ部下ヲ監督ス

支所長ハ海港檢疫官補ノ中ヨリ内務大臣之ヲ補ス

支所長ハ所長ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌理シ部下ヲ監督ス

第五條 海港檢疫官ハ所長ノ命ヲ承ケ檢疫ヲ掌ル

第六條 海港檢疫醫官ハ所長ノ命ヲ承ケ醫務ヲ掌ル

第七條 海港檢疫官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ檢疫ニ従事ス

第八條 海港檢疫醫官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ醫務ニ従事ス

第九條 海港檢疫所調劑手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ調劑ニ従事ス

第十條 海港檢疫所書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第十一條 內務大臣ハ臨時必要アリト認ムルトキハ 檢疫又ハ醫務ニ從事セシムル爲檢疫費豫算定額
 内ニ於テ海港檢疫所又ハ支所ニ檢疫員又ハ檢疫醫員ヲ置クコトヲ得
 檢疫員及檢疫醫員ハ判任ノ待遇トス

臨時海港檢疫所官制

明治三十三年三月
 勅令第七五號

第一條 臨時海港檢疫所ハ臨時海港檢疫ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 臨時海港檢疫所ハ內務大臣ノ命ヲ承ケ地方長官之ヲ管理ス

第三條 臨時海港檢疫ノ開設及閉鎖ハ內務大臣之ヲ告示ス

第四條 臨時海港檢疫所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 一人

臨時海港檢疫官補

臨時海港檢疫所書記

臨時海港檢疫員

臨時海港檢疫醫員

第五條 所長ハ臨時海港檢疫所所在道廳府縣ノ警部長ヲ以テ之ニ充ツ

所長ハ地方長官ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理シ部下ヲ監督ス

第六條 臨時海港檢疫官補及臨時海港檢疫所書記ハ 道廳府縣判任官ヲ以テ之ニ充テ地方長官之ヲ命

ス

第七條 臨時海港檢疫員及臨時海港檢疫醫員ハ地方長官之ヲ命シ其待遇ハ判任トス

第八條 臨時海港檢疫官補ハ所長ノ命ヲ承ケ檢疫ニ從事ス

第九條 臨時海港檢疫所書記ハ所長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十條 臨時海港檢疫員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ檢疫ニ從事ス

第十一條 臨時海港檢疫醫員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ醫務ニ從事ス

傳染病流行ノ兆アルトキ檢疫官ヲ置クノ件

明治三十三年三月
勅令第九七號

- 第一條 傳染病流行シ又ハ流行ノ兆アルトキハ内務大臣ノ指定シタル廳府縣ニ檢疫官若干人ヲ置キ之ヲ警察部(警視廳ニ在リ)ニ屬セシム
- 第二條 檢疫官ハ上官ノ命ヲ承ケ檢疫豫防ニ關スル事務ヲ分掌ス
- 第三條 檢疫官ハ醫師藥劑師等ニ就キ警視總監地方長官之ヲ命ス
- 第四條 檢疫官ニシテ有給ノ官職ヲ帶ヒサル者ニハ一箇月百二十圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得
- 第五條 檢疫官ニハ内國旅費規則ニ依リ四等旅費ヲ給ス

「ペスト」豫防ノ爲メ臨時防疫職員ヲ置ク件

明治三十六年一月
勅令第二二號

第一條 「ペスト」豫防ニ關スル事務ヲ掌理セシムル爲警視廳ニ臨時左ノ職員ヲ置キ第三部ニ屬セシ

檢疫事務官	專任	三人
檢疫醫		九十人
檢疫書記	專任	五人
監 吏		九十人

前項ノ外警視廳ニ檢疫評議員ヲ置クコトヲ得(三十八年七月勅令一八〇號追加)

第二條 檢疫事務官ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第三條 檢疫醫、書記及監吏ハ警視總監之ヲ命ス

第三條ノ二 檢疫評議員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス(三十八年六月勅令一八〇號追加)

第四條 官吏ニシテ第一條第一項ノ職員タル者ハ各其ノ本官ノ待遇ヲ受ク其ノ官ニ在ラサル者ノ待遇ハ檢疫事務官ニ在リテハ奏任其ノ他ノ者ニ在リテハ判任トス(三十八年六月勅令一八〇號改正)

第五條 在職官吏ニシテ第一條ノ職員ヲ兼ヌル者ニハ一箇年六百圓以内其ノ他ノ者ニハ一箇月百五

第十九輯 檢疫及消毒

十圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得但檢疫醫、專任書記及監吏ニ支給スヘキ手當ハ内務大臣ノ定ムル所ニ依ル(三十八年六月勅令一八〇號改正)

海港檢疫法

明治三十二年二月
法律第一九號

第一條 海外諸港及臺灣ヨリ來ル船舶ニ對シテハ傳染病豫防ノ爲檢疫ヲ施行ス

檢疫ヲ施行スヘキ海港及傳染病ノ種類ハ内務大臣之ヲ指定ス

第二條 海外諸港及臺灣ヨリ檢疫ヲ施行スル港ニ來ル船舶ハ其入港前ニ於テ此法律ニ依リ檢疫ヲ受ケ許可證ヲ得タル後ニ非レハ其港ニ入港シ陸地又ハ他船ト交通シ乗客乘組員ノ上陸、物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ船舶ニシテ入港後傳染病患者ヲ發生シタルトキハ檢疫官吏ノ指定ニ從ヒ更ニ檢疫ヲ受ケ許可證ヲ得ルニ非レハ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ乗客乘組員ノ上陸物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

第三條 船長其他ノ乘組員及船客ハ檢疫官吏ノ尋問ニ對シテ之ニ應答シ又船長其他ノ乘組員ハ檢疫官吏ノ請求アルトキハ所定ノ式紙ニ事實ヲ記入シ其氏名ヲ署シタル明告書ヲ差出スヘシ
船長ハ檢疫官吏ノ請求ニ應シテ航海日誌ヲ示シ且船内ノ各部ヲ開キ検査ヲ受クヘシ 但シ船ハ航海中船客又ハ乘組員ニテ占居シタルトキ又ハ他ノ事故ニ依リテ傳染病ニ汚染シタル疑アルトキニ限り其ノ検査ヲ受クヘシ

第四條 海外諸港及臺灣ヨリ檢疫ヲ施行スル港ニ來ル船舶ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ其入港前ヨリ許可證ヲ得ルマテ檢疫信號ヲ掲クヘシ

- 一 現ニ傳染病患者若ハ死者アルモノ
 - 二 航港中傳染病患者若ハ死者アリタルモノ
 - 三 傳染病流行地ヲ發シ又ハ其地ヲ經テ來航シ若ハ傳染病ニ汚染シタル船舶ト交通シ其ノ他傳染病ニ汚染シタル疑アルモノ(四十年六月法律第五一號改正)
- 第二條第二項ノ船舶ハ患者發見ノ時ヨリ許可證ヲ得ルマテ檢疫信號ヲ掲クヘシ

檢疫信號ハ晝間ハ船舶ノ前橋頭ニ黃旗ヲ掲ケ夜間ハ同所ニ紅白二燈ヲ連掲スルルモノトス

第五條 海外諸港及臺灣ヨリ檢疫ヲ施行セサル港ニ來ル船舶ニシテ第四條第一項ノ各號ノ一ニ該當スルモノ又ハ其港内ニ碇泊中傳染病患者ヲ發生シタルモノハ前條ノ規定ニ從ヒ檢疫信號ヲ掲ケ其地ノ警察官吏ニ届出テ指揮ヲ待ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ警察官吏ノ命アルトキハ直ニ檢疫ヲ施行スル港ニ回航シテ檢疫ヲ受クヘシ
第一項ノ場合ニ於テ警察官吏ノ指揮アルマテハ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ船客乗組員ノ上陸物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

警察官吏ニ於テ第一項ノ事實アリト認め其ノ旨ヲ告知シタル場合亦前二項ニ同シ
(四十年六月法律第五一號加道)

第六條 檢疫官吏ハ第一條ノ船舶ニ對シ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 現ニ傳染病患者若ハ死者アルモノハ停船ヲ命シ患者死者ノ處分ヲ指示シ船舶其他ノ消毒方法若ハ鼠族ノ驅除ヲ施行シ且必要アリト認めルトキハ命令ノ定ムル期間船客乗組員ヲ檢疫

所又ハ船中ニ停留スルコト(四十年六月法律第五一號改正)

二 航海中傳染病患者若ハ死者アリタルノハ第一號ノ規定ニ準シテ處分スルコト

三 傳染病流行地ヲ發シ又ハ其地ヲ經テ來航シ若ハ其船舶ニ傳染病毒ノ汚染シタル疑アルモノハ必要アリト認めルトキ第二號ノ規定ニ準シテ處分スルコト

四 停船中傳染病患者ヲ發生スルトキハ更ニ第一號ノ規定ニ依リ處分スルコト

五 傳染病ノ疑アル患者アルトキハ二日ヨリ多カラサル期間停船ヲ命スルコト

六 發航地若ハ寄港地ノ狀況又ハ船舶ノ狀態ニ依リ消毒方法又ハ鼠族ノ驅除ヲ施行スルコト

(四十年六月法律第五一號加)

第七條 停船ヲ命セラレタル船舶ハ檢疫官吏ノ指示シタル場所ニ碇泊シ其許可ヲ得ルニ非レハ他ニ移轉スルコトヲ得ス

第八條 檢疫所ニ移轉セシメラレタル船客乗組員ハ檢疫官吏ノ許可ヲ得ルニ非レハ本船其他ト交通シ若ハ物件ヲ搬出スルコトヲ得ス

第九條 船舶及物件ノ消毒又ハ鼠族ノ驅除ハ檢疫官吏之ヲ施行シ船長其他ノ乗組員ハ其施行上ニ關シ之ヲ補助スルノ義務アリ(四十年六月法律第五一號改正)

前項ノ消毒又ハ鼠族驅除ニ關スル費用ハ船主船長若ハ其代理人ヨリ徵收ス(四十年六月法律第五一號改正)

第十條 檢疫所ニ移轉セシメラレタル者ノ食費及患者死者ニ關スル費用ハ其乗組員ニ屬スル者ハ船長若ハ其代理人ヨリ其船客ニ關スルモノハ本人ヨリ之ヲ徵收ス本條及第九條第二項ノ費額及其徵收ニ關シ必要ノ規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條ノ二 檢疫官吏ハ職務執行上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ無償ニテ船舶ニ乗込ムコトヲ得(四十年六月法律第五一號追加)

第十一條 第二條第五條第七條第八條ノ規定ニ違背シタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 此法律ノ執行ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨害シ又ハ檢疫官吏ノ尋問ニ對シテ答辯ヲ爲サス又ハ虚偽ノ事實ヲ答辯シ又ハ其命令ニ從ハサル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

船長若ハ船長ノ職務ヲ行フ者前項ノ罪ヲ犯シ又ハ船客乗組員ノ之ヲ犯スヲ知テ制止セサルトキハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

第十三條 内外國ノ軍艦ニシテ檢疫ヲ施行スル港ニ來航スルニ當リ第四條第一項各號ニ該當スル事實ナキトキハ其艦長及醫官ヨリ書面ヲ以テ檢疫官吏ニ其旨ヲ明告スヘシ

内外國ノ軍艦ニシテ第二條第二項第四條第一項各號ノ一ニ該當スル事實アルモノハ檢疫官吏ニ於テ其艦ト陸地又ハ他船トノ交通乗組員ノ上陸、物件ノ陸揚ヲ制限スルコトヲ得又同上ノ軍艦ニシテ第五條ノ規定ニ該當スル場合ハ其地ノ警察官吏ニ於テ以上ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二條第二項及第五條ニ該當スル事實アルトキハ艦長及醫官ヨリ其旨ヲ檢疫官吏又ハ警察官吏ニ通知スヘシ

前三項ノ外軍艦ニ對スル檢疫ハ檢疫官吏ニ於テ艦長ト協議シ此法律ノ規定ニ準シテ執行スルモノトス

第十四條 此法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム